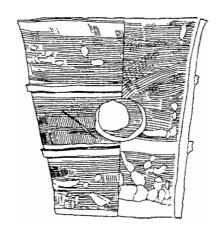
後平茶臼古墳·後平遺跡

【第2分冊】



2 0 0 2

財団法人 岐阜県文化財保護センター

後平茶臼古墳・後平遺跡

【第2分冊】

2 0 0 2

財団法人 岐阜県文化財保護センター

目 次

(第2分冊)

第5章 B均	也区の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第1節	I 期の遺構と遺物 (縄文時代早期~後期) (藤田) 1
第2節	Ⅱ期の遺構と遺物(縄文時代晩期)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第3節	Ⅲ期の遺構と遺物(弥生時代末~古墳時代初頭) (藤田・角張) 6
第6章 自然	**科学分析·······
第1節	後平茶臼古墳出土埴輪の蛍光 X 線分析(三辻利一)25
第2節	赤みを帯びた粘土質物の成分分析(小村美代子)30
第3節	後平遺跡出土炭化材の樹種同定(植田弥生)34
第7章 考	察
第1節	砂行・南青柳・深橋前遺跡と後平遺跡との関連(安田・藤田)38
第2節	後平茶臼古墳について(藤田)41
遺物観察表	
図版	

挿図目次

/ 丛	0	/ T. mt. \	
し先	4	分冊)	I

第133図	B地区西区Ⅰ.Ⅱ期遺構配置図	2
第134図	西区 I 期SIB01, SKB01, SKB02平面図・断面図	3
第135図	西区 I 期PB01, PB02平面図・断面図	·· 4
第136図	西区Ⅱ期PB03,PB04平面図・断面図 ····································	5
第137図	B地区東区Ⅲ期遺構配置図 ······	7
第138図	東区Ⅲ期SBB01~SBB03平面図・断面図	9
第139図	東区Ⅲ期SBB04, SDB01, SDB02平面図·断面図 ·································	11
第140図	東区Ⅲ期PB05~PB08平面図・断面図 ····································	14
第141図	B地区西区Ⅲ期遺構配置図	15
第142図	西区Ⅲ期SBB05平面図・断面図	
第143図	西区Ⅲ期SBB06平面図·断面図 ·································	
第144図	西区Ⅲ期PB09~PB14平面図・断面図 ····································	20
第145図	西区Ⅲ期PB15~PB21平面図・断面図 ····································	22
第146図	B 地区SBB01∼SBB06, SDB01Ⅲ層出土遺物······	23
第147図	B 地区Ⅲ期SBB04,S▶B01Ⅳ·Ⅴ層出土石器·······	24
第148図	A 群埴輪の両分布図	27
第149図	B 群埴輪の両分布図	28
第150図	赤みを帯びた粘土質物の蛍光X線スペクトル図	33
第151図	赤みを帯びた粘土質物のX線圓折スペクトル図	••33
付図目	引次	
付図1	- ン・ 後平茶臼古墳A区・D区埴輪出土位置図	
付図 2	後平茶臼古墳B区埴輪出土位置図	
付図3	後平茶臼古墳C区埴輪出土位置図	
付図 4	後平茶臼古墳墳丘北側転落埴輪出土位置図	
表目》	7	
	2分冊)	
	後平茶臼古墳出土埴輪の分析データ	29
第8表	石室床石の付着粘土質物から検出された元素	 3]
第9表	石室床石の付着粘土質物から検出された鉱物	31
第10表	後平遺跡出土炭化材樹種	38
第11表	後平遺跡遺構別出土炭化材樹種	38
第12表	土器観察表A地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45

			57
			58
			69
			70
第17表	石器観察表B	地区	72
	→ . 7.		
図版]			
	2分冊)		
	空中写真撮影		
	A地区調査前	虱 景	
図版 3	A地区土層断面	面,SIA01	
図版 4	PA01~PA03,	SKA01~SKA03	
図版 5	SKA04~SKA	08	
図版6	SKA09, SKA1	0, NRA01	
図版 7	SBA01~SBA0	03	
図版 8	SBA03~SBA0	05	
図版 9	SBA06, SBA07	7~SBA10	
図版10	SBA07~SBA1	0, SBA12~SBA18, SBA20	
図版11	SBA19, 方形周	溝墓	
図版12	SKA12~SKA	14, ASKA16, SUA01. PA06~	PA22
図版13	後平茶臼古墳	検出状況・主体部完掘状況	
図版14	後平茶臼古墳	周溝	
図版15	後平茶臼古墳	周溝遺物出土状況	
図版16	後平茶臼古墳	周溝完掘状況	
図版17	後平茶臼古墳	埴輪列	
図版18	後平茶臼古墳	控え積み検出状況	
図版19	後平茶臼古墳	盗掘坑	
図版20	後平茶臼古墳	開軍部	
図版21	後平茶臼古墳	開口部完掘状況	
図版22	後平茶臼古墳	基底石検出状況、墳丘除去	
図版23	後平茶臼古墳	墳丘除去、主体部断面	
図版24	後平茶臼古墳	主体部断面、墳丘主軸断面	
図版25	後平茶臼古墳	墳丘主軸断面	
図版26	後平茶臼古墳	墳丘断面、後平1号古墳	
図版27	SZA01~SZA0	3	
図版28	SZA03~SZA0	5, SDA01	

図版29 B地区調查前風景、土層断面

- 図版30 SIB01, SKB01, SKB02, PB01
- 図版31 PB02~PB04.SBB01~SBB03
- 図版32 SDB01, SDB02, SBB04~SBB06, PB06, PB07
- 図版33 PB09~PB17
- 図版34 PB16~PB21
- 図版35 A地区IV·V層出土縄文土器(1)
- 図版36 A地区Ⅳ·V層出土縄文土器(2)
- 図版37 A地区IV·V層出土縄文土器(3)
- 図版38 SBA03, SBA05出土土器
- 図版39 SBA05出土土器(1)
- 図版40 SBA05出土土器(2)
- 図版41 SBA05~SBA07出土土器
- 図版42 SBA07出土土器
- 図版43 SBA08, SBA09、Ⅲ層出土土器
- 図版44 SBA10出土土器
- 図版45 SBA13出土土器(1)
- 図版46 SBA13出土土器(2)
- 図版47 方形周溝墓出土土器
- 図版48 後平茶臼古墳出土土器
- 図版49 SUA01,SKA15出土土器、■層出土土器(1)
- 図版50 Ⅲ層出土土器(2)
- 図版51 Ⅲ層出土土器(3)
- 図版52 Ⅲ層出土土器(4)
- 図版53 Ⅲ層出土土器(5)
- 図版54 後平茶臼古墳出土埴輪(1) 朝顔形
- 図版55 後平茶臼古墳出土埴輪(2) 411、口縁部
- 図版56 後平茶臼古墳出土埴輪(3) 口縁部
- 図版57 後平茶臼古墳出土埴輪(4) 口縁部
- 図版58 後平茶臼古墳出土埴輪(5) 口縁部
- 図版59 後平茶臼古墳出土埴輪(6) 胴部
- 図版60 後平茶臼古墳出土埴輪(7) 胴部、底部
- 図版61 後平茶臼古墳出土埴輪(8) 底部
- 図版62 後平茶臼古墳出土埴輪(๑) 底部、埴輪列出土
- 図版63 後平茶臼古墳出土埴輪印 埴輪列出土、周溝出土
- 図版64 後平茶臼古墳出土埴輪(11) 396
- 図版65 後平茶臼古墳出土埴輪(12) 409
- 図版66 後平茶臼古墳出土埴輪(13) 410

- 図版67 後平茶臼古墳出土埴輪(14) 413
- 図版68 後平茶臼古墳出土埴輪(15) 418
- 図版69 後平茶臼古墳出土埴輪(16) 423
- 図版70 後平茶臼古墳出土埴輪(17) 周溝出土
- 図版71 後平茶臼古墳出土埴輪(18) 周溝出土
- 図版72 A地区出土須恵器(1)
- 図版73 A地区出土須恵器(2)
- 図版74 後平茶臼古墳出土鉄器(1)
- 図版75 後平茶臼古墳出土鉄器(2)
- 図版76 後平茶臼古墳出土鉄器(3) レントゲン写真
- 図版77 SZA01, SDA02出土中近世陶器
- 図版78 石器(1)
- 図版79 石器(2)
- 図版80 石器(3)
- 図版81 石器(4)
- 図版82 石器(5)
- 図版83 B地区出土土器
- 図版84 後平遺跡出土炭化材樹種(1)
- 図版85 後平遺跡出土炭化材樹種(2)
- 図版86 後平遺跡出土炭化材樹種(3)

第1節 Ⅰ期の遺構と遺物(縄文時代早期~後期)

西区

V層上面あるいはV層掘削中に確認した遺構を縄文時代の遺構として報告する。V層上面で確認した遺構はSIB01のみで、その他の遺構はV層掘削中に確認した。いずれの遺構からも遺物は出土しなかったため、時期の特定はできなかった。

SIB01 (第134図)

BN9グリッドで確認した集石遺構。西区の土層観察用畦中に砂岩礫が集中する箇所があり、これら礫の周囲を精査したところ、直径0.5m程度のほぼ円形を呈する集石遺構を検出した。確認面はV層直上で、周囲に展開する遺構よりやや10cm程度の上位のレベルにある。使用されている砂岩は拳大程度の小さなもので、一部の礫は被熱し赤色化していた。礫は長軸0.57m・短軸0.5mの土坑内に投げ込まれており、土坑の深さは確認面から10cm程度であった。埋土にはわずかな炭化物が認められたが、焼土はまったく認められなかった。本集石遺構は礫の分布は散漫ではあるが、被熱している点、調査区内に礫が点在しない点から判断して何らかの遺構であると考えられる。

SKB01 (第134図)

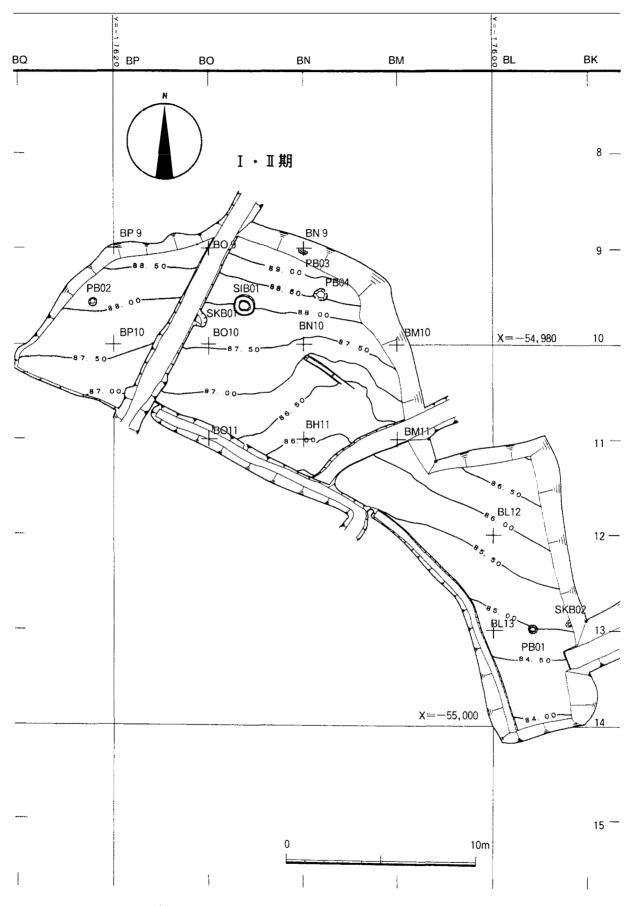
試掘Tr8の断面中で確認した土坑でBO9グリッドに位置する。この試掘Trの掘削に伴い、平面形のうち南半分しか遺存していない。現存する平面形の規模は長軸1.12m・短軸1.58mで、深さは約0.7m程度認められる。おそらく、平面形は楕円形を呈すると思われ、復元するとその長軸は2m程度になると考えられる。壁面の立ち上がりはかなり急な傾斜をもち、埋土はV層に類似する土層が認められた。主軸方向はV-O10 O10 O20 O20 O30 O3

SKB02 (第134図)

調査区東側壁面で確認した土坑で、BK12グリッドに位置する。平面形のうち東半分程度は調査区外に伸びているため、その全形は不明である。確認した平面形から推測すると平面形は楕円形を呈すると考えられ、その規模は現存で長軸0.31m・短軸0.35mで、主軸方向はN-56° -Eをはかる。断面は底面がやや不明瞭で溝状の断面形を示している。

PB01 (第135図)

BK12・13グリッドで確認したピット。平面形はほぼ円形を呈し、直径は0.45m程度である。深さは約8cmと浅く、床面では板状のチャート礫を検出した。このチャート礫が人為的行為によるものかどうかは判断できない。



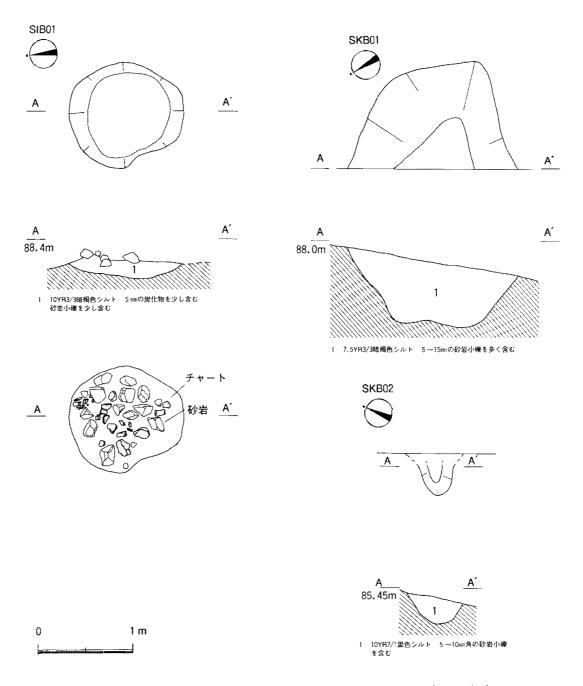
第133図 B地区西区 I · II 期遺構配置図 (S:1/200)

PB02 (第135図)

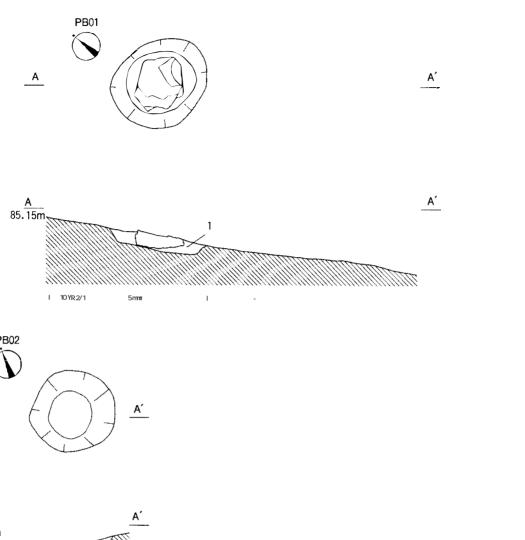
調査区の北端BP9グリッドで確認したピット。平面形はほは円形で、その直径は0.43m程度である。深さは確認面から15cm程度認められる。壁面の立ち上がりが比較的緩やかで底面の範囲が狭くなっている。

遺物

V層中からは遺物が出土しているが、その量はきわめて少なく、破片ばかりで図示可能な資料は認められなかった。おそらく、遺物は調査区外の斜面下方に流失したものと思われる。



第134図 西区 I 期SIB01、SKB01、SKB02平面図・断面図 (S:1/40)





第135図 西区 I 期PB01、PB02平面図・断面図 (S:1/20)

第2節 Ⅱ期の遺構と遺物 (縄文時代晩期)

西区

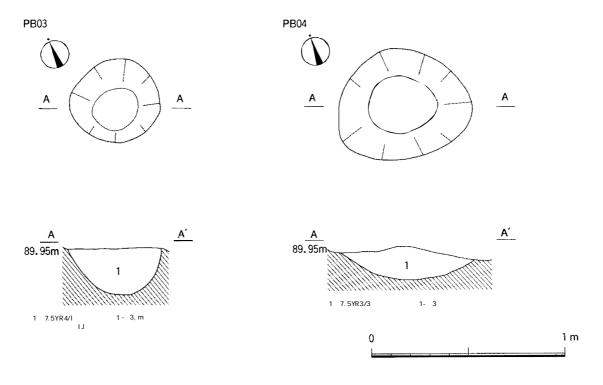
2基の遺構を確認したが、いずれもⅣ層を掘削して形成した遺構である。Ⅳ層中の遺構の存在は予想外のことであり、Ⅳ層掘削中に以下に述べる2基の遺構以外の遺構が存在した可能性もあるが、前述したⅠ期の遺構と同様、遺構の存在は希薄であったと考えられる。Ⅳ層中からの遺物の出土は皆無であるため、遺構の帰属時期を特定できないが、層順からみてⅠ期の遺構より後出することは明らかである。A区と比較すればⅣ層中で確認したⅡ期の遺構すなわち、NRA01と同様の時期を想定するほかない。

PB03 (第136図)

BM 9 グリッドに位置する土坑で、確認面は N 層上面である。平面形は楕円形を呈し、壁面は緩やかである。平面形の規模は長軸0.69m・短軸0.57mで、主軸方向は N-71° -W をはかる。深さは 15cm 前後である。埋土は単層で、細かな炭化物を含んだ土層が認められた。なお、遺物は出土しなかった。

PB04 (第136図)

調査区東壁面で確認したピットで、確認面はIV層中である。平面形はほぼ門形を呈し、その規模は直径0.45m前後である。深さは約25cm認められ、埋土は単層で細かな炭化物が認められた。なお、遺物は認められなかった。



第136図 西区 II 期PB03、PB04平面図・断面図 (S:1/20)

第3節 Ⅲ期の遺構と遺物(弥生時代末~古墳時代初頭)

東区

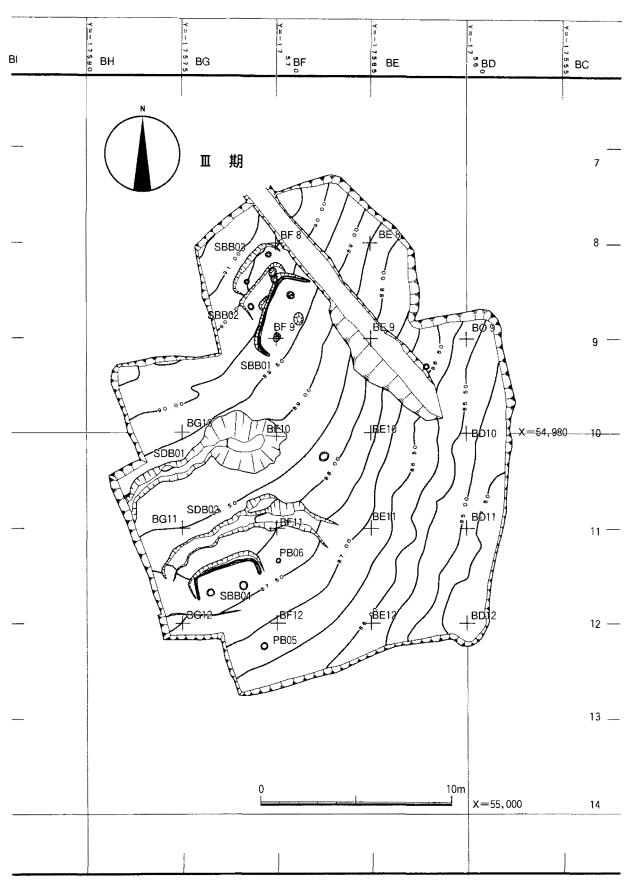
住居跡4軒、周溝2基、ピット4基を確認した。住居跡は南向きの斜面に形成され、等高線に直交して築成されている。分布は調査区の東面両端に分かれるが、調査区が狭いこともあり、規則性は認められない。SBB01~SBB03はほぼ同じ箇所に築成されているために重複関係が認められる。その先後関係はSBB03→SBB02→SBB01であるが、それぞれの出土土器にはそれほどの年代差が認められないため、きわめて短期間のうちにこれらの3棟の住居跡は形成されたものと思われる。ピットは遺物が出土していないが、堆積状況が住居跡と類似するため住居跡とほぼ同じ時期に形成されたと判断した。

SBB01 (第138図)

BG8・BG9・BF8・BF9グリッドに位置する住居跡で、SBB02の東壁を削平して、砂岩岩盤を 掘削して住居を形成している。平面形はコの字形を呈しているが、中央に位置する地床炉の位置から みて、谷側の平面形の大半は流失したものと考えられる。現存する平面形の規模の主軸長2.07m・幅 4.42m・奥行き3.79mで、やや谷側に向かって幅が広くなる傾向が認められる。そのためか隅角はや や丸みを帯びている。主軸方向はN-72°-Wをはかる。壁面は60°~70°の傾斜角をもち、壁高は 最大で50cm前後の高さが認められる。壁面に沿って幅約10cm・深さ3cm前後の壁溝がめぐり、床面残 存部位が途切れるに伴い壁溝も消失する。谷側の床面流失に伴い壁溝も流失したと考えられる。壁溝 内には直径5~10cm前後のピットが10基認められた。深さは5~10cmまで様々だが、壁面を支持する 板材を支える杭用ピットと考えられる。配置状況は2本1組のようにもみえ、その場合、南北両壁面 に1カ所、山側壁面に3カ所という規則的配置が認められる。埋土からはⅡ層に類似する土層とⅢ層 に類似する土層の大きく2つの性格の土層が堆積し、前者は上層に、後者は下層に堆積していた。 遺 物は埋土から弥生時代末~古墳時代初頭の土器片31点が出土したが、図示可能な資料は2点にとど まった。いずれも破片資料だが器台A類(511)、壺があり山中式後期のものが中心である。主柱穴と 想定されるピットは南北両壁面からそれぞれ0.6m程度内側に入った位置で2基確認した。いずれも 位置的にみて主柱穴として想定可能な位置にある。ピットは2段に掘削されているため、上段の平面 形と下段の平面形がやや異なる。上段は長軸0.5m・短軸0.4m程度の平面形を呈するのに対して、下 段の平面形は直径15cm前後の円形を呈する。掘形と柱痕の関係に類似するが、堆積状況は柱痕が確認 面では確認できない状況であることに疑問がある。深さは0.5m程度存する。地床炉は谷側に遺存す る床面ほぼ中央で確認した。炉石は検出できなかったが、土層観察により住居廃絶に伴って、抜き取 られたと考えられる。地床炉の平面形は楕円形を呈し、長軸0.66m・短軸0.49mをはかる。深さは5 cm前後で、炉内の床面は被熱して赤色化していた。また、床面は貼床などの施設はなく、硬化面も認 められなかった。

SBB02 (第138図)

BE8・BF8グリッドに位置し、SBB01・SBB03と重複関係を有す。確認面は砂岩岩盤で、岩盤を掘削して住居を築成している。平面形はコの字形を呈し、谷側の平面形4/5程度をSBB01の築成に



第137図 B地区東区Ⅲ期遺構配置図(S:1/200)

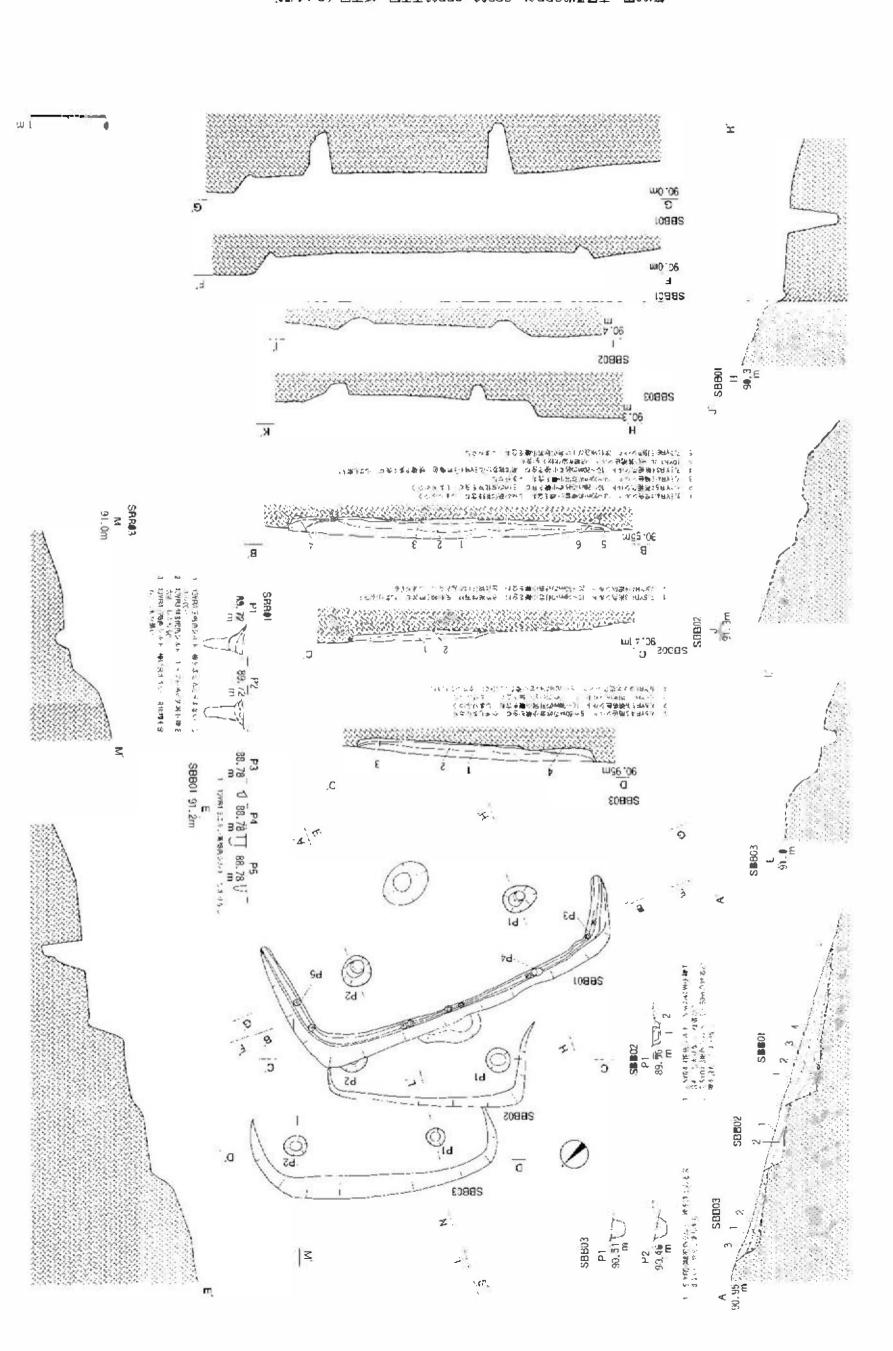
より失われている。本来の平面形は正方形にちかいものと想定されるが、その谷側部分1/2程度は 流失したものと判断される。遺存する平面形の規模は主軸長0.99m・幅2.45m・奥行き2.38mをはか り、主軸方向はN-31°-Wを向く。壁面の傾斜角は60~70°程度で、壁面の周囲をめぐる壁溝は確 認できなかった。床面は砂岩が露出しており、何らか施設があったかもしれないが、すでに流失した 可能性が高い。柱穴は南北両壁面付近にそれぞれ1カ所ずつ計2基が位置することを確認した。位置 からみて主柱穴と想定される。平面形は円形で、その規模は直径0.35m・深さ0.15m程度であるが、 P 2はSBB01に一部削平されている。地床炉は遺存する谷側床面の中央やや西よりの箇所で確認し た。その平面形は楕円形を呈すると考えられるが、谷側1/2程度をSBB01の掘削によって失われて いるため、全形は不明である。現存する規模は長軸0.87m・短軸0.34mである。深さは15cm弱を有し、 埋土は単層の褐色土が認められ、細かな炭化物が含まれていた。炉内の床面は被熱を受けて赤く変色 していたが、強い被熱を受けた様子は観察できなかった。また、断面形状からみて北側の部分にわず かにくはむ部位が認められるため、この箇所に炉石が設置されていた可能性が高いと考えられる。遺 物は埋土から12点の弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が出土したが、いずれも細片で図示可能な資 料はP2から出土した1点器台A類(512)のみである。512は住居跡の帰属時期を明らかにする重要 な資料だが、全形が不明な点が残念である。おそらく、弥生時代~古墳時代初頭の器台の脚部片と思 われる。

SBB03 (第138図)

調査区内では最も高い箇所に占地する住居跡で、BF8グリッドに位置する。平面形はコの字形を呈し、遺存する谷側の南半分程度をSBB02の掘削に伴い失われている。その規模は主軸長1.13m・幅2.98m・奥行き2.69mで、主軸方向はN -53° –Wをはかる。山側の壁面の立ち上がりは比較的緩やかだが、南北両壁面はほぼ垂直にちかく0.15m程度の壁高を存する。壁溝は認められず、北側の隅角は明瞭なコーナーがなく、丸みを帯びている。柱穴は2基確認した。いずれも南北両壁面からやや中央よりの箇所で検出され、SBB01・SBB02の状況と類似する。その位置からみて、主柱穴と考えられる。平面形はほぼ円形で、その直径は0.25m前後で深さは0.2m前後である。床面は岩盤が露出する状況を呈し、貼床などの施設は確認できなかった。炉も確認できなかったが、SBB02との重複関係があるとため、その有無については不明である。埋土はII層に類似する土層が堆積し、土器の出土は、弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が9点とごく少量の出土にとどまり、図示可能な資料は認められなかった。

SBB04、SDB02(第139図)

調査区の南端にある住居跡で、本調査で唯一屋外周溝が認められた住居跡である。グリッドはBE 10・BF10グリッドに位置する。確認面はIV層上面で、床面においても砂岩岩盤に到達していない。平面形はコの字形で、谷側の平面形は2/3程度失われていると推測される。壁面は山側では比較的緩やかで、その壁高は20cm程度認められる。東西両壁面はそれより低くなり10cm程度の壁高しか認められず、南端では自然地形に連なる。壁溝は幅10cm・深さ5cm前後で壁面の内側をめぐるが、西側では壁面下端より内側に離れた位置にめぐる状況が認められる。現存する平面形の規模は主軸長



第139图

東区Ⅲ期SBB04、SDB01、SDB02平面図·断面图(S:1/50)

1.33m・幅3.95m・奥行き3.79mで、主軸方向はN-18-°Wをはかる。柱穴は2基確認し、直径40cm・深さ15cm前後のほぼ円形を呈するが、P1は断面形をみると床面が谷側に傾斜している。P1・P2はその位置が山側壁面から約0.8mちかく離れた位置にあることに疑問があるが、本住居跡の主柱穴の可能性が高いと考えられる。屋外周溝は山側壁面から北側へ約1m程度離れた位置で確認した。確認面は砂岩岩盤上で、この岩盤を掘削して周溝を形成している。その形状は山側壁面の外側を三日月状にめぐり、東西両端は収束せずに自然地形にそのまま連なる状況を呈している。とくに東端はその斜面下方には自然地形の谷状地形が連なるため、この地形を利用したかもしれない。幅は1m前後で、山側壁面との距離が西側から東側に向かうに従い広がる傾向が認められ、住居跡の周溝としては不定形な感がある。深さは10cm前後でII層に類似する土層が堆積していた。遺物は弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が住居跡の埋土から30点、周溝の埋土から4点出土したが、図示可能な資料は住居跡から出土した5点のみ(第146図)のみであった。515は、台付甕の脚部片と思われるが、本遺跡出土資料のなかでは、例外的な資料である。516は器台A類の口縁部片517、518は高坏A類の脚部片である。516~518は弥生時代終末期の資料と考えられ、住居跡の築成時期を示す資料とみられる。

SDB01 (第139図)

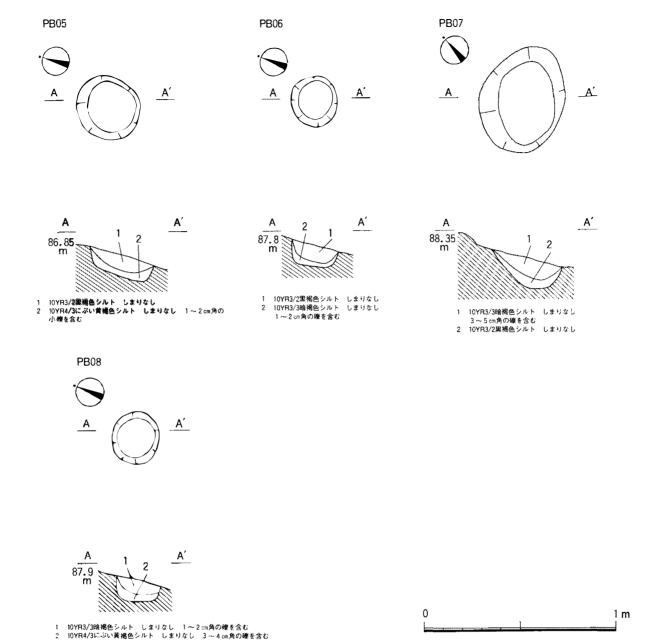
SBB04の屋外周溝(SDB02)の北側に位置する溝状遺構で東西方向に伸びる。BF9~BG10グリッドにかけて所在し、砂岩岩盤を掘削している。西端は調査区外へ伸びているため詳細は不明だが、東端はその幅を著しく広げて収束している。西端では幅が1m前後で推移していたものが、東端付近ではその幅が最大3.3mにも及ぶ。深さも同様に西端と東端では差異が認められ、西端では20~30cm前後であったものが東端では60cmを越える。本遺構は不定形な形態をもつ遺構で、その性格は不明である。東端が深くなっているため、排水用としての機能は果たし得ないと考えられる。むしろ、東端で集水した水を西端へ排水したのであろうか。埋土の状況はSBB01と類似して上層にⅡ層に起因する土層、下層にⅢ層に起因する土層が堆積しており、その埋没状況はSBB01と同様である。また、遺物は弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が63点出土し、その年代観もほぼ住居跡出土土器と同様であるため、住居跡とともに本遺構が展開していた可能性が高く、住居跡と何らかの関係を有していたと考えられる。出土土器はB地区のなかでは、もっとも多く出土しているが、いずれも細片で全形がわかる資料が少ない。

PB05 (第140図)

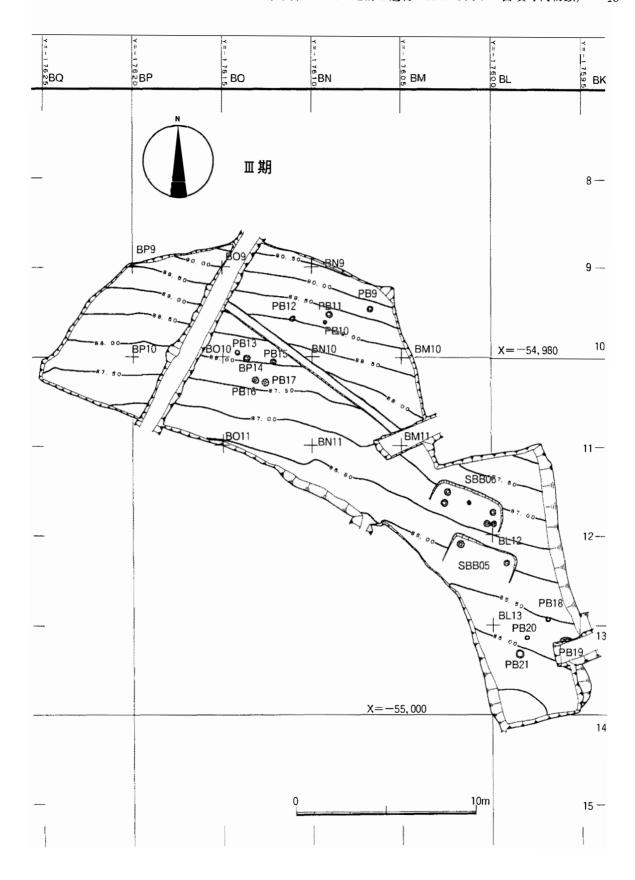
BF12グリッドにあり、調査区の最も南端で確認した遺構。平面形はほぼ円形で直径は35cm程度である。深さは0.15m程度認められるが、床面が谷側に傾斜している。埋土はⅢ層に起因する黒褐色土が堆積していたが、遺物は出土しなかった。確認面はⅣ層上面である。

PB06 (第140図)

SBB04の東側で検出したピットで、BE11グリッドに位置する。IV層を掘削しており、その平面形は直径20cm強のほぼ円形を呈す。深さは0.1m程度と浅い。埋土はPB05と類似する黒褐色土が堆積し、遺物は出土しなかった。



第140図 東区Ⅲ期PB05、PB06、PB07、PB08平面図・断面図(S:1/20)



第141図 B地区西区Ⅲ期遺構配置図(S:1/200)

PB07 (第140図)

SDB02の東側で確認したピットで、BE10グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、その規模は長軸0.59m・短軸0.47mをはかる。深さは約0.15mをはかるが、壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土は□層に類似する土層が認められた。

PB08 (第140図)

試掘Tr3の断面中で確認したピットで、砂岩岩盤を掘削している。BD9グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、直径は25cmである。深さは10cm程度の浅いもので、Ⅲ層に類似する土層が上層に堆積していたが、遺物はまったく出土しなかった。

Ⅲ層出土の遺物 (東区)

条痕文系の甕A1類(529)、531、器台A類(532)を図化した。

西区

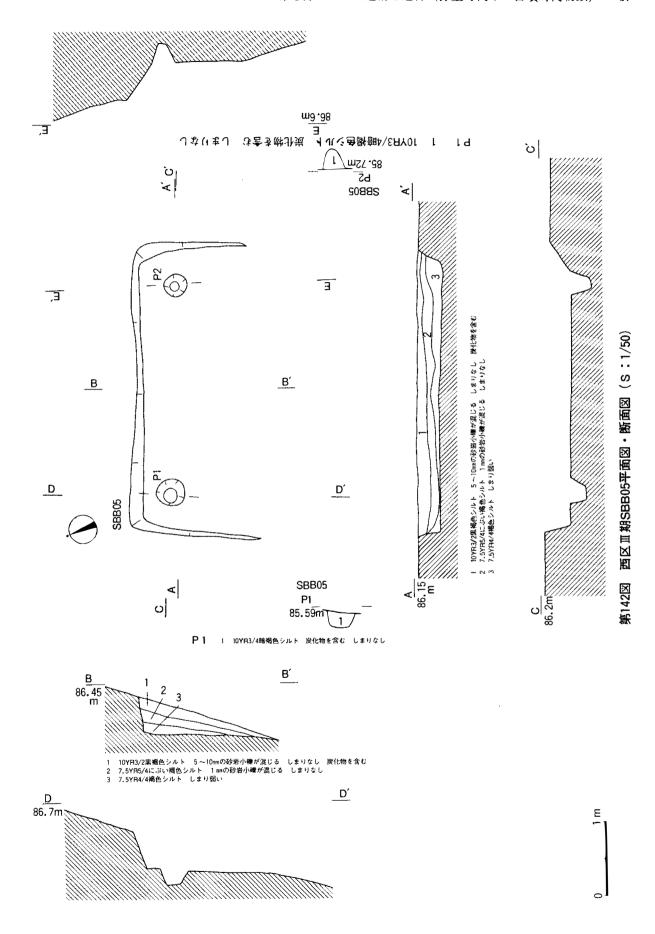
住居跡 2 棟・ピット13基を確認した。遺構に伴う遺物が少ないため、遺構の所属時期の判断が難しいが、遺物・堆積状況とも東区の同様の状況を呈することから、A 地区遺構と同じく、弥生時代末~古墳時代初頭の遺構と判断した。住居跡は調査区の南端、すなわち斜面下方に位置し、ピットはそれより斜面上方に集中する傾向がある。ピットの配置は明確な規則性な認められないが、PB09・PB11とPB10・PB12は断定できないものの、流失した住居跡の柱穴のみが遺存したピットの可能性も残されている。

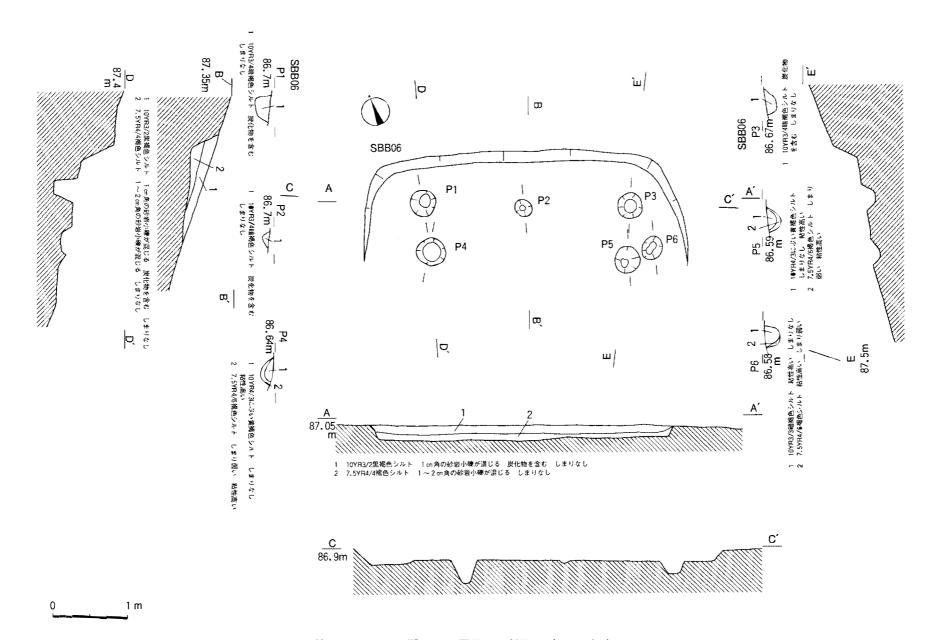
SBB05 (第142図)

BL12・BK12グリッドで検出した住居跡で、IV層を掘削して形成している。平面形はコの字形を呈し、谷側 1/2 程度の平面形はすでに流失したものと考えられる。平面形の規模は主軸長1.63m・幅 3.8m・奥行き3.31mをはかり、主軸方向は $N-24^\circ$ -Eを向く。壁溝は認められず、東西両隅角付近に柱穴を2 基確認した。いずれも直径0.3m強のほぼ円形を呈し、深さは0.25m程度である。山側壁面はほぼ垂直にちかく、0.45m程度の壁高を存する。床面上には炉・貼床などの施設は認められなかった。遺物は埋土から弥生時代末~古墳時代初頭の土器片が31点出土したが、いずれも細片で図示可能な破片は4点であった。

SBB06 (第143図)

SBB05の北側に隣接して形成されている住居跡で、BL11・BK11グリッドで検出した。確認面はN層上面で、N層を掘削して住居跡を形成している。平面形はコの字形で、谷側 1/2 程度の平面形を流失していると考えられる。平面形の規模は主軸長1.37m・幅4.25m・奥行き3.53mで、主軸方向はN-24° - Eをはかる。山側壁面は70° 程度の角度で立ち上がり、0.35m程度の壁高が認められる。床面ほぼ平坦だが、貼床などの硬化面は認められなかった。また、壁面周囲をめぐる壁溝も確認できなかった。ピットは計6 基を確認した。大きさはそれぞれ様々だが、 $P1 \cdot 3 \sim 5$ がやや規模が大き





第143図 西区Ⅲ期SBB06平面図・断面図 (S:1/50)

く、直径0.4m弱の円形を呈するピットである。P 2・P 6 は前述の 4 基のピットよりやや小さなピットであるが、その性格は不明である。おそらくP 1・3 と P 4・5 のいずれかが柱穴に相当するものと考えられる。埋土はⅢ層に起因する土層が堆積しており、遺物は弥生時代末~古墳時代初頭の土器片10点が出土したにすぎない。いずれも細片で、摩耗が著しい。おそらく、斜面上方から流入した土器片と考えられる。図示可能な資料は524の 1 点のみであった。

PB09 (第144図)

BM8 グリッドで確認したピットで、確認面はかなりの急傾斜地である。平面形はわずかに楕円形となり、その規模は長軸35cm・短軸30cm程度である。深さは15cm程度認められるが、断面形が半円形状である。埋土にはわずかに炭化物が含まれていた。

PB10 (第144図)

PB09と同様、かなりの急傾斜地にあるピットで、BM8グリッドに位置する。その規模は直径20cm 弱と小さく、平面形はほぼ円形を呈する。深さは10cm程度である。

PB11 (第144図)

PB10に隣接して確認したため、立地状況は類似する。平面形は円形を呈し、その規模は直径45cm程度である。深さは20cm程度で壁面の立ち上がりが緩やかである。

PB12 (第144図)

BN9グリッドで確認したピットで、深度が10cmに満たない浅いピットである。平面形は長軸43cm・短軸35cmの楕円形を呈する。埋土は褐色土で細かな炭化物が含まれていた。

PB13 (第144図)

BN9グリッドで確認したピット。平面形は円形で直径は約40cmをはかる。壁面の立ち上がりは比較的緩やかだが、底面は直径約15cmの平坦面をもつ。深さは15cm程度である。

PB14 (第144図)

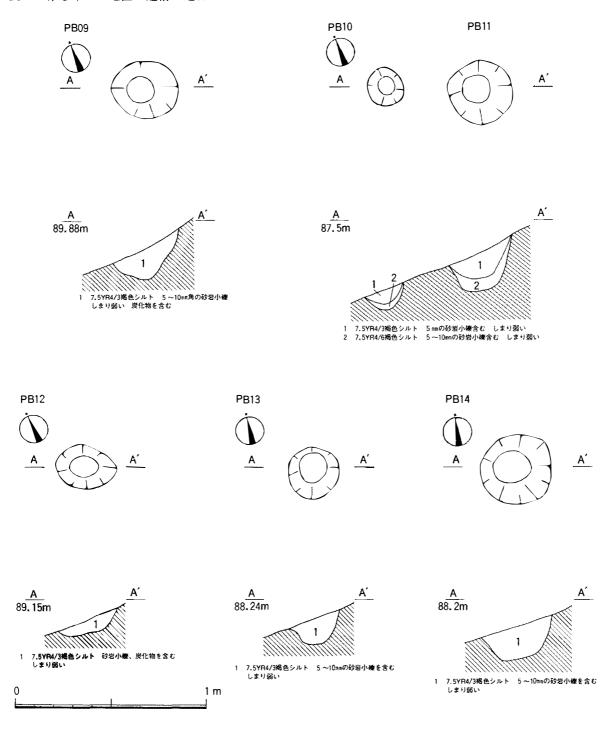
BN9 グリッドに位置するピットで、平面形は直径40cm弱のほぼ円形を呈する。底面は緩やかな傾斜をもち、壁面の立ち上がりも緩やかである。

PB15 (第145図)

やや斜面に形成されたピットで、BN10グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、その直径は35cm程度である。深さは15cm程度認められる。壁面はなだらかである。

PB16 (第145図)

BN10グリッドで確認したピットで、その平面形はほぼ円形を呈する。直径は40m弱で、深さは20cm



第144図 西区Ⅲ期PB09、PB10、PB11、PB12、PB13、PB14平面図・断面図(S:1/20)

程度である。壁面の立ち上がりが緩やかで、底面が不明瞭である。

PB17 (第145図)

BN10グリッドで確認したピットで、平面形は直径40cm程度のほぼ円形を呈する。深さは20cm強が認められ、底面は比較的平坦である。

PB18 (第145図)

比較的平坦な箇所に形成されたピットで、BK12グリッドに位置する。その平面形は円形を呈し、直径は25cmをはかる。深さは12cmと浅く、底面が不明瞭で、断面形は半円状である。

PB19 (第145**■**)

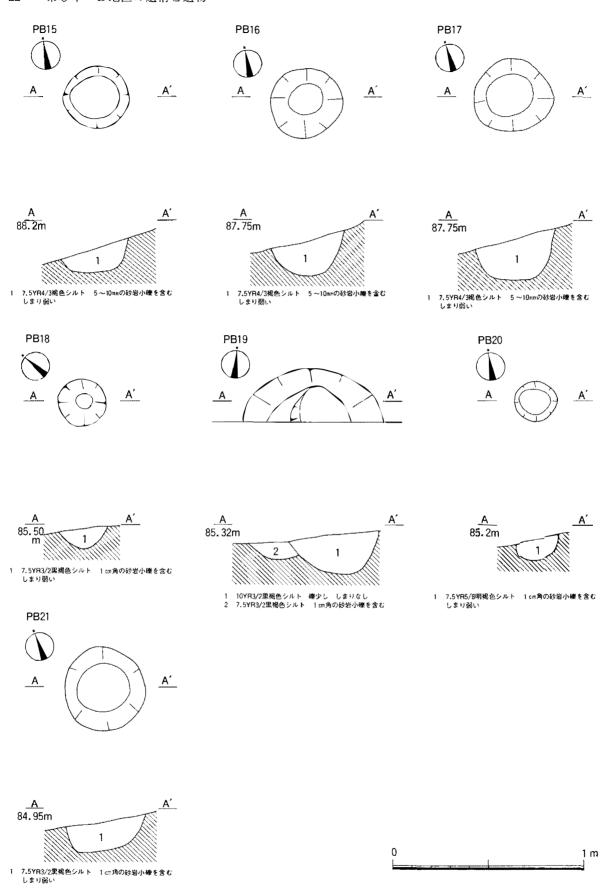
試掘Tr7の掘削に伴って確認したピットで、BK13グリッドに位置する。その平面形は楕円形を呈し、長軸は73cmをはかるが、短軸は試掘Trの掘削によって削平され不明である。断面形は2段に掘削されていることから、ピット2基の重複関係が想定されるが、全形が不明であるため、1基のピットとして報告する。深さは23cmが認められる。

PB20 (第145図)

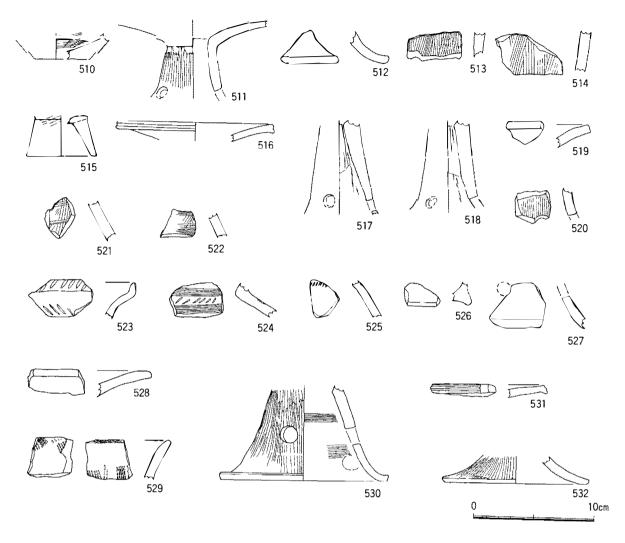
BK13グリッドで確認したピット。平面形は円形で、その直径は25cm程度小さい。深さは10cm程度で底面では直径20cm程度の平坦面をもつ。

PB21 (第145図)

BK13の比較的平坦な箇所で確認したピット。平面形はほぼ円形を呈し、直径は40cmをはかる。深さは20cm弱で底面はやや平坦である。西側の壁面はほぼ垂直にちかいが、東側の壁面は緩やかである。



第145図 西区Ⅲ期PB15、PB16、PB17、PB18、PB19、PB20、PB21平面図・断面図 (S:1/20)



第146図 B地区SBB01、SBB02、SBB04、SBB05、SBB06、SDB01Ⅲ層出土遺物(S:1/3)

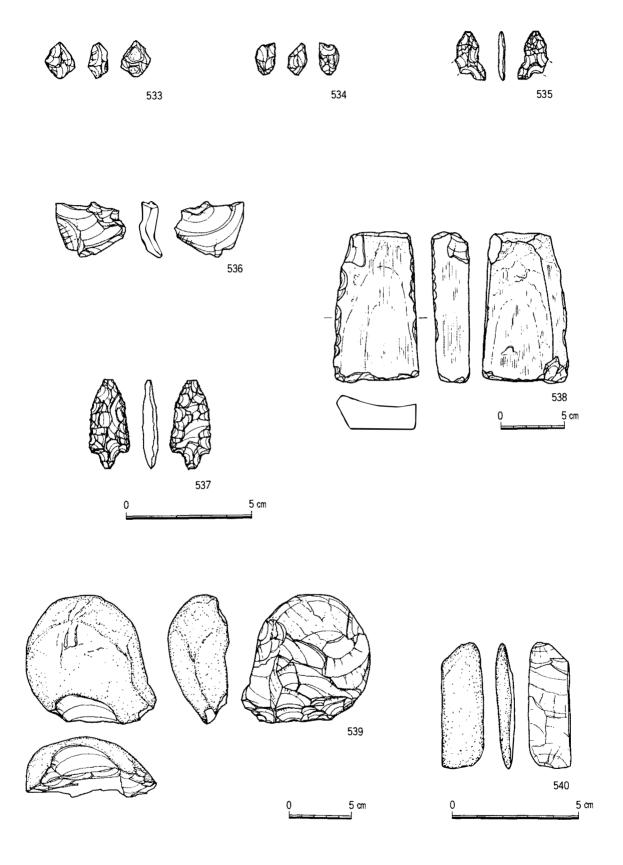
Ⅲ層出土の遺物 (西区)

器台A類(530)を図化した。

B地区出土の石器 (第147図)

B地区の石器は8点図化した。A地区とほぼ同じ時期の遺構と土器が検出されているので、その時期を石器の時期に当てると以下のようになる。

縄文時代早期から後期の石器と推定できるのは、535の石鏃、536の剥片、539の礫器である。 535、536は下呂石製で、縄文時代後期の可能性がある。539の片刃礫器は早期の可能性がある。 537の有茎石鏃は縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて出現する形態である。 538の砥石は砂岩製で、弥生時代以降の遺物であろう。



第147図 B地区Ⅲ期SBB04、SDB01Ⅳ、V層出土石器(S:2/3、S:1/4)

第6章 自然科学分析

第1節 後平茶臼古墳出土埴輪の蛍光 X 線分析

三辻利一(大谷女子大学)

1. はじめに

土器の胎土研究に使用される分析法には、1)同時多元素分析、2)非破壊分析、3)迅速分析の 3条件は不可欠である。一般に、土器胎土の違いをみるには1元素の分析データだけでは困難である。 複数の元素の分析データを必要とする場合が多い。そのためには1)の条件が必要である。さらに、 土器の素材である粘土は岩石同様、ケイ酸塩でできており、酸やアルカリなどの化学処理で溶解する ことは困難である。本来、分析化学では試料を溶解して均質系にして分析作業にはいるが、この点で 土器試料は理想的な分析試料ではない。それでも、X線やガンマ線のような透過性の電磁波を使った 分光分析では機械的に試料を粉砕するだけで、分析することができる。これが 2) の条件である。― 般に、化学的に溶解しなくても、機械的に破壊するだけで分析する方法を非破壊分析という。土器の 場合、土器を粉砕して再度一定形状にかためた試料を作成し、分析する。1)、2)の条件は土器の 分析法の必要条件として広く知られている。この条件を受け入れる分析法として蛍光X線分析法と放 射化分析法がある。しかし、3)の条件はあまり知られていない。とくに、生産地が多いと考えられ る土器の産地研究では、まえもって、生産地出土の土器を大量に分析することが必要である。さらに、 歴史研究として、土器の分析データを生かそうとすると、消費地遺跡出土土器の分析データも大量に 出さなければならない。万を越える試料の分析データが必要となろう。そのためには、迅速分析とい う条件が不可欠となる。この条件を受け入れようとすると、分析元素は短時間の測定で高い蛍光X線 強度が得られる元素に限られる。3)の条件は意外に知られていない。以上の3条件をすべて備えた 分析装置が完全自動式の蛍光X線分析装置であり、最近では、再現性がよい分析データがえられる優 れた装置が市販されている。筆者は30年近くにわたって、3台の装置を使用してきた。どの装置を使っ ても、共通した、再現性のよいデータを得るようにするため、測定された蛍光X線強度を岩石標準試 料、JG-1の蛍光X線強度で標準化する方法を考案した。定量分析値はなにも、百分率で表示する必 要はないのである。こうした考え方で、全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析した結果、K、Ca、 Rb、Srの 4 元素がとくに有効に地域差を表示する元素であることを確かめた。いわば、須恵器の産 地推定はこれら4元素を指紋元素として、消費地遺跡出土須恵器を生産地である窯跡または窯跡群へ 結びつけることである。もちろん、そのためには、多数ある生産地を何らかの方法で整理しておかな ければならないし、また、生産地へ結びつけるための方法も開発しておかなければならない。須恵器 の産地推定法はすでに出来上がっており、目下、その方法を使って須恵器の伝播、流通の研究が推進 されている。須恵器の産地推定法は埴輪の胎土研究にも応用できる。本報告では、上記4元素の分析 値を使って、後平茶臼古墳出土の埴輪の分析結果を解析した結果について報告する。

2. 分析方法

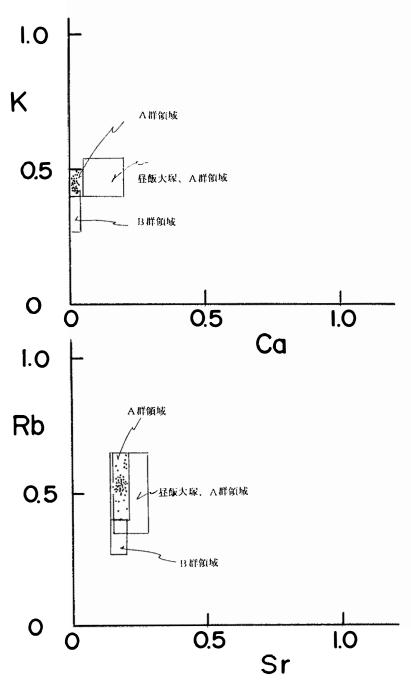
すべての埴輪片は表面を研磨してから、タングステンカーバイド製乳鉢の中で100メッシュ以下に 粉砕された。粉末試料は塩化ビニル製のリングを枠にして高圧をかけてプレスし、コイン状の錠剤試料を作成した。錠剤試料は試料容器に固定され、48個の試料容器が自動試料交換機に並べられた。理 学電機製の波長分散型、3210型機で分析した。

Naの測定にはTAP、K、Caの測定にはGeを、Fe、Rb、Srの測定にはLiFを分光結晶として使用した。分析値は同時に測定された岩石標準試料、JG-1による標準化値で表示した。

3. 分析結果

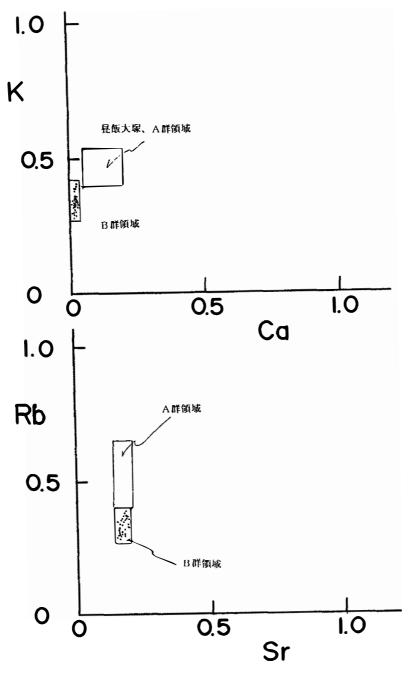
今回分析した試料の分析データを表1に示す。全体を眺めると、CaとNaが少ない胎土であること が客易にわかる。これは岐阜周辺の須恵器や灰釉陶器のもつ特徴である。このことから、後平茶臼古 墳の埴輪は在地産の粘土を使って作った埴輪であることは容易に理解できる。問題は今回分析した埴 輪胎土がすべて同一の粘土を素材として作ったものであるのか、それとも、複数の粘土を使って作っ た埴輪であるのかである。もし、複数の粘土を素材として埴輪を製作しておれば、それは複数の場所 で埴輪を製作したことを意味する。一般に、分析データは数値のままでは理解し難いので、図形化す るのが普通である。筆者はK-Ca、Rb-Srの両分布図を作成している。ここでは埴輪の色彩観察の結 果を取り入れ、赤色~橙色の埴輪をA群とし、白色~橙白色の埴輪をB群として、それぞれ、両分布 図を作成した。図1には赤色~橙色のA群埴輪の両分布図を示す。よくまとまって分布しており、同 一場所で製作した埴輪であることを示している。すべての点を包含するようにしてA群領域を長方形 で描いた。長方形で描いたのは描きやすいためであって、そのため、領域自身には統計学的な意味は ない。それでも他の群の埴輪の分布領域と比較する上には便利である。筆者はまず、このような分布 図を作成し、他と比較した上で判別分析の母集員の選択を考えている。そうせずに、いきなり分析デー タから判別分析にはいると、理解し難いところが多々ある。土器類の生産地はそれほど多いので、一 旦、両分布図を作成してから判別分析に入るほうが理解し易いのである。図2には白色~橙白色のB 群の埴輪の両分布図を示す。B群の埴輪もよくまとまって分布しており、同一胎土の埴輪であること を示している。図2でも、図1と同様にしてB群領域を描いた。この結果を図1にいれてあり、A群 領域とB群領域を比較してある。明らかに両者には分布に差違がみられる。A群の埴輪にはK、Rb量 が多く、逆に、B群の埴輪胎土にはK、Rb量は少ないことがわかる。A群とB群の埴輪胎土は異なる のである。つまり、A群とB群の埴輪は別々の場所で作られた埴輪であることを示している。この場 合にはそれが外見上の色彩にもでていたわけである。一般に土器胎土の色彩はFeの含有量と焼成条 件(酸化状態での焼成か、還元状態での焼成か)に関係する。表1をみると、A、B両群の埴輪のFe 量にはとくに差違はない。したがって、この色彩の差違は胎土中に含有されているFe量には無関係 であり、焼成の条件が異なっていたことを明示していると考えられる。A群とB群の埴輪は素材粘土 が異なっていたばかりか、焼成条件も異なっていたのである。このことから、両埴輪の製作場所は別々 であったことが明らかであろう。ただし、K、Rb以外の因子は殆ど同じであり、素材粘土の化学特性 は類似していると考えられるので、同一地域内の別場所での製品と考えるのが妥当であろう。そして、 A群の埴輪が多いところから、A群が主成分埴輪であり、この古墳の被葬者に直結する人々によって

作られた埴輪であると推察される。B群埴輪は第2近親者の製作による埴輪である可能性がある。このことについてはさらに検討は必要であり、今後の研究の発展が期待される。なお、今国は古墳における埴輪の配置に関する情報がなかったので、埴輪胎土と配置の関連については考察しなかった。また、■1には、大垣市の昼飯大塚古墳の主成分埴輪の分布領域を比較のために描いてある。Ca、Sr量が明らかに多く、後平茶臼古墳の埴輪胎土とは明らかに異なることがわかる。このように、古墳ごとによる埴輪の胎土の比較研究も今後必要となるであろう。大垣、岐阜、名古屋周辺の古墳出土埴輪胎土の比較研究は意外な成果をもたらす可能性がある。そのためには、数千点といった大量の埴輪小



第148図 A 群埴輪の両分布図

片の分析が必要となるだろう。ここにも、迅速分析という条件が大きなウエイトを占めることが理解 できるであろう。埴輪の胎土研究の今後の方向である。



第149図 B 群埴輪の両分布図

第1節 後平茶臼古墳出土埴輪の蛍光X線分析

第7表 後平茶臼古墳出土埴輪の分析データ

グリッド	分析番号	取上番号	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類結果	掲載番号	分類
SZ01A	647	152	白	0.338	0.020	1.300	0.368	0.183	0.038	В		
	648	158	赤	0.479	0.023	1.750	0.562	0.174	0.039	A		
	649	431	赤	0.454	0.022	1.730	0.585	0.168	0.044	Α	397	円簡形A類
	650	370	橙色	0.451	0.025	1.450	0.503	0, 181	0.050	Α		
	651	370	橙色	0.494	0.024	1.820	0.529	0.178	0.039	Α		
	652	370	橙色	0,431	0.025	1.480	0.442	0.199	0.047	Α		
	653	374	橙色	0.482	0.025	1.870	0.512	0.168	●.032	A		
	654	373	橙色	0,409	0.027	1,500	0.404	0.181	0.034	Α		
	655		赤	0,452	0,021	1.750	0.522	0.168	0.034	A		
	656		橙白	0.327	0.025	1,920	0.352	0.153	0.032	В		
SZO1B	657		橙白	0.351	0.023	1.600	0, 337	0.187	0.038	В	l	
OEO ID	658	295	赤	0.454	0.024	1.440	0.551	0.191	0.049	A		
	659	302	赤	0.449	0.021	1.250	0.618	0,195	0.043	A		
SD03B	660	302	赤	0,455	0.021	1,270	0.606	0.198	8.056	A		r
90000	661	JOL.	橙白	0.381	0.022	1,410	0.364	0,174	0.036	В	 	
	662		自	0.358	0.019	1,310	0.380	0.178	0.041	В		
~~~~	663			0.344	0.023	1.640	0.333	0.193	0.038	<del></del>		<del> </del>
			<u>É</u>				0.521	0.178	0.038	В	<del>                                     </del>	
	664		橙色	0.457	0.022	1.440	0.521	0.178	0.044	) A		
	665		橙色	0.451	0.024					A	ļ	ļ
	666		橙色	0.456	0.024	1.480	0.536	0.175	0.045	<u> </u>	ļ	
	667		橙色	0.440	0.024	1.410	0.527	0.179	0.043	A		
	668		橙色	0.332	0.022	1.910	0.311	0.151	0.024	В		
	669		橙色	0.450	0.022	1.430	0.516	0.181	0.044	Α		ļ
	670		橙色	0.432	0.024	1.300	0.538	0.167	0.045	A		ļ
	671		橙色	0.445	0.023	1.330	0.542	0.183	0.051	A		
	672		橙色	0.452	0.025	1.490	0.544	0.177	0.065	Α		
	673		橙色	0.447	0.024	1,410	0.533	0.186	0.044	A		
	674		橙色	0.490	0.026	1.550	0.508	0.204	0.052	Α		<u> </u>
	675		赤	0.443	0,020	1,250	0.593	0.200	0.037	Α		ļ
	676		自	0.357	0.025	1.540	0.366	0.185	0.030	В		
	677		赤	0.448	0.025	1.450	0,539	0.180	0.045	Α		
	678		橙白	0.414	0.027	1,650	0.368	0.185	0.033	8		
	679		橙色	0.421	0.023	1.320	0.400	0.181	0.032	A		
	680		橙色	0.448	0.024	1.390	0.511	0.180	0.045	Α		
	681		白	0.333	0.018	1.320	0.310	0.166	0.025	В		l
	682		橙白	0.335	0.024	1.610	0, 323	0.183	0.027	В		
	683		赤	0.425	0.023	1.330	0.524	0.169	0.045	A		
	684		赤	0.442	0.021	1,440	0.508	0.169	0.044	Α		
	685		赤	0.453	0.023	1.410	0.543	0.187	0.039	Α		
	686		赤	0.417	0.023	1.260	0.545	0.183	0.042	A		
	687		赤	0.444	0.023	1,400	0.515	0.185	0.050	Α		
	688		赤	0.429	0.023	1.380	0.524	0.166	0.043	Α		
	689		赤	0,441	0.023	1.860	0.467	0.158	0.029	A		
	690		赤	0.456	0.020	1.780	0, 556	0.163	0.035	А		l
-4-4-4-	691		B	0.392	0.021	1,360	0.363	0.188	0.030	В		<b></b>
	692		赤	0.422	0.024	1.270	0.514	0.184	0.050	A		
	693		赤	0.456	0.025	1.420	0.540	0.186	0.050	A		
	694		赤	0.416	0.023	1.270	0.524	0.178	0.031	A		
	695			0,443	0.023	1,260	0.614	0.178	0.047	A		
			赤		<b></b>							
	696 697		赤赤	0.449	0.024	1,420	0,498	0.184	0.044	A		
					n milit		0.595	0.204	0.047	A		,

グリッド	分析番号	取上番号	色調	К	Ca	Fe	Rb	\$r	Na	分類結果	掲載番号	分類
	699		赤	0.451	0.022	1.490	0.521	0.185	0,054	Α		
	700		赤	0.422	0.025	1.290	0.519	0.172	0.044	Α		
	701		白	0.276	0.018	1,390	0.287	0.151	0.032	В		
	702		赤	0.449	0.024	1,430	0.519	0.189	0.051	Α	T	
	703		白	0.290	0.018	1.370	0.300	0,158	0.029	В		
SD03C	704	220	橙色	0.428	0.023	1,780	0,508	0.160	0.035	Α		
	705	436	橙色	0.420	0.024	1.340	0.466	0.191	0.034	Α		
	706	512	白	0.344	0.018	1.360	0.356	0.178	0.032	8	441	円筒形A類
	707	516	橙白	0.346	0.020	1.250	0.357	0.169	0.036	В	436	円筒形A製
	708		橙白	0.397	0.028	1.450	0.386	0.183	0.040	В		
	709		赤	0.472	0.927	1.390	0.529	0.180	0.050	Α		
	710		Á	0.342	0.019	1.240	0.353	0.182	0.028	В		
	711		橙白	0.328	0.023	1.930	0.340	0.161	0.020	В		
	712		赤	0.425	0.019	1.720	0.520	0.153	0.039	Α		
	713		白	0.340	0.020	1.300	0.335	0.171	0.032	В		
	714		赤	0,457	0.021	1.440	0.533	0.180	0.047	Α		
	715		橙白	0.392	0.022	1,330	0.371	0.177	0.030	В		
	716		白	0.325	0.017	1.340	0.299	0.164	0.025	В		
2222	717		赤	0.460	0.025	1.810	0.601	0.165	0.041	A		
	718		Á	0.329	0.019	1.310	0.352	0.174	0.034	В		
	719		橙色	0.457	0.025	1.320	0.513	0.185	0.049	A		
	720		橙色	0.451	0.021	1.850	0.465	0.167	0.041	Α		
	721		橙白	0.329	0.023	1.430	0.296	0.182	0.031	В		
	722		白	0.298	0.019	1.450	0,280	0.163	0,030	В		
	723		赤	0.465	0.024	1.430	0.513	0,183	0.058	Α		
	724		赤	0.442	0.025	1.880	0.428	0.167	0.034	Α		
	725		赤	0.461	0.023	1,440	0.543	0.180	0.050	A		
	726		赤	0.472	0.023	1.500	0.515	0.191	0.037	Α		
	727		赤	0.482	0.023	1,410	0.534	0,186	0.044	Α		
	728		赤	0.456	0.022	1.410	0.516	0.180	0.050	A		
	729		赤	0.481	0.023	1.530	0,490	0.194	0.045	Α		
	730		橙白	0.291	0.023	1.930	0.318	0.156	0.021	В		
	731		橙白	0,333	0,019	1,420	0.302	0, 171	0.035	В		
	732		橙白	0.327	0.022	1,860	0.300	0.156	0.029	В		
	733		赤	0.445	0,022	1.330	0.542	0,196	0.054	A		
	734		赤	0.464	0.022	1.450	0,525	0.190	0.049	A		
	735		赤	0.466	0.026	1.360	0.537	0.195	0.061	A		
	736		赤	0.438	0.020	1.760	0.518	0.151	0.038	A		
	737		橙白	0.354	0.023	1.630	0.303	0,180	0.033	В		
C704D	738		橙白	0.309	0.022	1.880	0.308	0.164	0.018	8		
SZO1D	739		赤	0.443	0.024	1.220	0.644	0.203	0.045	Α		
	740		赤	0.415	0.024	1.260	0.572	0.180	0.044	Α		
	741		赤	0,484	0.023	1.470	0.536	0.196	0.050	Α		
	742		赤	0.467	0.026	1.430	0.560	0.188	0.042	A		
	743		赤	0.440	0.021	1.600	0.540	0.172	0.054	Α		
	744		赤	0,450	0.021	1.560	0.560	0.170	0.046	Α		

# 第2節 赤みを帯びた粘土質物の成分分析

小村美代子 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

後平茶臼古墳は、富加町大平賀地区内に所在する5世紀末築造と考えられる円墳である。調査では、 この古墳の竪穴系横口式石室内の床石に赤みを帯びた粘土質物が観察された。 ここでは、この粘土質物について分析を行い、その成分について検討した。

# 2. 試料および方法

分析は、①蛍光X線分析、②X線回折分析、③顕微鏡観察を行った。 試料は、竪穴系横口式石室内床石に付着した赤みを帯びた粘土質物である。

# ① 蛍光 X 線分析

蛍光 X 線分析では、赤みを帯びた粘土質物の定性分析を行った。測定試料は赤色部にセロハンテープを押し付けて採取した。分析は、セイコー電子工業(株)製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計SEA - 2001Lである。装置の仕様は、X 線発生部の管球はロジウム (Rh) ターゲット、ベリリウム (Be)窓、X 線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300秒、照射径10mm、電流63μA、電圧50kV、試料室内は真空である。

# ② X線回折分析

X線回折分析では、赤みを帯びた粘土質物に含まれる鉱物の同定を行った。赤色部を削って採取し水で溶き、懸濁液をプレパラートに数滴垂らして乾燥させ試料を作成した。分析装置は、リガク(株)製のX線回折装置MiniFlexである。測定条件は、X線発生部の管球は銅(Cu)、電流15mA、電圧30kV、走査モードは連続、スキャンスピード $5.000^\circ$ /min.、サンプリング幅 $0.020^\circ$  である。

#### ③ 顕微鏡観察

顕微鏡観察では、特徴的なベンガラである「パイプ状ベンガラ」の有無を調べた。②と同じプレパラートで、赤色物の形状を観察した。

# 3. 結果

#### ① 蛍光 X 線分析

第148図には、竪穴系横口式石室内床石から採取した赤みを帯びた粘土質物の蛍光 X 線スペクトル図を示す。また、第7表には、試料の詳細、検出された元素などを示す。

検出された元素は、鉄、アルミニウム、ケイ素、イオウ、カリウム、カルシウム、チタン、亜鉛がある。

なお、ロジウム (Rh) のピークは X線発生部の管球 (ロジウムターゲット) に由来するものであり、 試料に含まれる元素とは関係がない。また、イオウ (S) はセロハンテープに含まれる元素である。

# 第8表 石室床石の付着粘土質物から検出された元素

[元素記号] Al:アルミニウム、Si:ケイ素、S:イオウ、K:カリウム、Ca:カルシウム、Ti:チタン、Fe:鉄、Zn:亜鉛

遺物	出土位置	検出された元素
床石	竪穴系横口式石室内	Al,Si,S,K,Ca,Ti,Fe,Zn

#### ② X線回折分析

図2には、竪穴系横口式石室内床石から採取した赤みを帯びた粘土質物のX線回折スペクトル図を示す。

石英 (quartz)・含水珪酸塩鉱物 (silhydrite)・自雲母 (muscovite)・粘土鉱物の一種であるカオリナイト (kaolinite) などが検出された。鉄に関係するピーク (赤鉄鉱・hematiteや磁鉄鉱・magnetite) は検出されなかった。

第9表 石室床石の付着粘土質物から検出された鉱物

鉱物名	化学式	和名		
Silhydrite	3SiO₂•H₂O	シルハイドライト		
Muscovite	KAI ₂ (Si ₃ AI)O ₁₀ (OH、F) ₂	白雲母		
Quartz	SiO₂	石英		
Kaolinite-montmorillonite	Al ₂ Si ₂ O ₅ (OH) ₄₋ (Na,Ca) _{6,3} (Al,Mg) ₂ SiO10 (OH) ₂ •nH ₂ O	カオリナイト―モンモリロナイト		

# ③ 顕微鏡観察

不定形な赤色物が確認されたが、パイプ状ベンガラは観察されなかった。

# 4. 考察

一般的に赤色顔料には、ベンガラ( $Fe_2O_3$ )、水銀朱(HgS)、鉛丹( $PbO_4$ )が知られている(市毛、1984)。水銀朱は主成分元素が硫化第二水銀からなる辰砂(cinnabar、水銀朱)を磨り潰して作られるものを言う。

ベンガラは狭義には酸化第二鉄(赤鉄鉱、Fe2Os)の顔料をさすが、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の顔料の総称として使われている。ベンガラは原料として天然の赤鉄鉱を用いる場合のほか、沼沢地などに沈積する含水水酸化鉄を焼いて得た赤鉄鉱を用いる場合があり、これを含めればその産出地は全国無数にあることになる(成瀬、1998)。ベンガラの中には極めて定形なパイプ状を呈するものがあり、一般にパイプ状ベンガラと呼称されている。このベンガラは中空円筒状で直径約1.2μm程度、長さはおよそ100μm以下である。最近の研究でこのパイプ状ベンガラは、崖端の湧水部や池中に沈殿した、糸状体を形成する鉄細菌の生成物を燃焼した結果得られたものだと分かってきた。鉄細菌は水中に溶存する2価の鉄を3価の鉄とし、これを体の内外に沈積する能力を持つ。ごく普通に観察される鉄細菌で鞘細胞を形成する種類にLeptothrix sp. やSiderococcus sp. がある。前者は糸状体の幅はほとんど一定で、鞘に鉄酸化物を沈着し、赤褐色の綿状集落を形成する。この沈殿物を乾燥、燃焼すると赤色で、鉄の含有量が極めて高く、遺跡から出土しているパイプ状ベンガラ粒子

#### 32 第6章 自然科学分析

と同形状の粒子が得られる(岡田、1997)。

赤みを帯びた粘土質物は、水銀が検出されず鉄が高率で検出された。なお、顕微鏡観察より赤みを 呈すのは、鉄酸化物からなる赤色物と考えられる。

今回分析した赤みを帯びた粘土質物は、今まで分析したベンガラより褐色の色味が強く、床石には 類似した褐色の粘土が付着していたことから、この赤みが粘土にもとから含まれることも考えられ、 ベンガラとは断定できない。

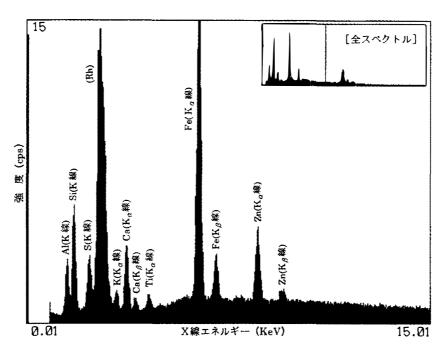
ベンガラは、広義には3価の鉄が発色の原因となる化合物の総称なので、一口に赤といってもその色は様々である。このため、ベンガラの有無を判断するには赤色を呈する部分と他の部分の比較も重要と思われる。埋葬施設や祭祀用具、土器の内側など、他と比べて明らかに赤みが強ければ、人為的な要素が強まり、意図的に赤を使用したと考えられる。床石を肉眼観察すると、石の全面でなくある一定面、赤みを帯びた粘土質物が付着していることから、ベンガラの可能性はあると考えられる。この床石の出土状況についてどの面が上であったか検討する価値がある。また、この赤みを帯びた粘土質物がもとから赤みを帯びた粘土であるか判断するには、古墳もしくは周辺地域の土壌観察を行うと良いと思われる。

#### 引用文献

市毛 勲 (1998) 「新版 朱の考古学」、考古学選書、雄山閣出版、42~48p

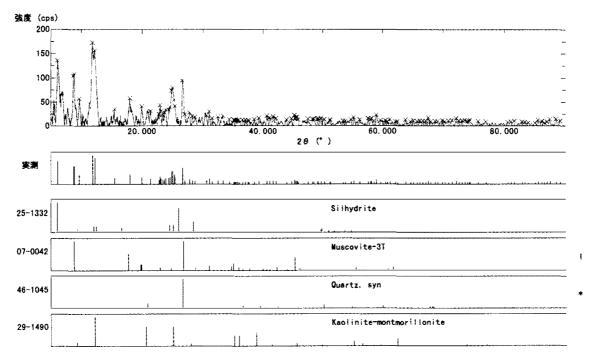
成瀬正和 (1998) 「縄文時代の赤色顔料 I - 赤彩土器-」、考古学ジャーナル438、10p

岡田文男 (1997)「パイプ状ベンガラ粒子の復元」、日本文化財科学会、第14圖大会研究発表要旨集、38、39p



[元素記号] AI: アルミニウム、Si: ケイ素、S: イオウ、K: カリウム Ca: カルシウム、Ti: チタン、Fe: 鉄、Zn: 亜鉛、Rh: ロジウム(X 線管球ターゲットから)

第150図 赤みを帯びた粘土質物の蛍光X線スペクトル図



〔英名〕Silhydrite:シルハイドライト Muscovite:白雲母、Quartz:石英、Kaolinite-montmorillonite:カオリナイト モンモ リロナイト

第151図 赤みを帯びた粘土質物のX線回折スペクトル図

## 第3節 後平遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

当遺跡の焼失住居跡SBA03から出土した炭化材32試料とSBB01の1試料、そしてSX03(SZA05より流失した炭化材)・SZA05から出土した2試料の樹種同定結果を報告する。住居跡SBA03とSBB01は、山中式終末期~廻間I式の土器を随伴することから、弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡と推定されている。この時期に当地で利用されていた住居建築材の樹種を調査した事例はあまり多くないため、木材利用を明らかにする目的で樹種同定が実施された。またその使用樹種からは、当時周辺に成立していた森林の様相をも類推することが可能である。土坑SX03(SZA05)とSZA05は遺物を伴わないため時期は不明であるが、発掘状況から中世以降と推定されている。

#### 2. 炭化材樹種同定の方法

先ず、炭化材の横断面(木■)を実体顕微鏡で観察し、分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリ・シイノキ属などは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下の観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定した。前述の分類群でも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料は実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあり、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

#### 3. 結果

表1に樹種同定結果の一覧を、表2に各遺構ごとに検出された分類群を示した。

弥生時代末から古墳時代初頭の焼失住居跡SBA03の32試料からは、針葉樹のヒノキ10点・ヒノキ属3点・針葉樹樹皮3点、常緑広葉樹のシイノキ属14点、落葉広葉樹のクリ・サクラ属・キハダが各1点であった。試料番号100からは、針葉樹樹皮とサクラ属が検出されたので、検出樹種の点数は試料数より1点多くなっている。SBA03の炭化材樹種構成は、常緑広葉樹のシイノキ属と針葉樹のヒノキまたはヒノキ属が優占出土し、落葉広葉樹はクリ・サクラ属・キハダの3分類群が検出されたが検出数は各1点づつと少なかった。また針葉樹樹皮3点はいずれも傷害樹脂道が見られたことから、モミ属またはツガ属の樹皮の可能性が高いが材の部分は検出されていない。針葉樹材で検出されたのはヒノキまたはヒノキを含むヒノキ属のみであった。SBB01の炭化材はタケ亜科で、いわゆるタケまたはササ類の破片であった。

中世以降と推定される土坑SX03(SZA05)とSZA05から出土した炭化材は、いずれも針葉樹のアカマツであった。

以下に樹種同定の根拠とした材組織の観察結果を分類順に記載する。

(1)アカマツ Pinus densiflora Sieb.et Zucc. マツ科 図版84 1 a - 1 c (SX03:SZA05)

垂直と水平の樹脂道があり、早材から晩材への移行はゆるやかで晩材部の量は多い針葉樹材。分野 壁孔は窓状、放射組織の上下端には1~3層の放射仮道管がありその内壁には鋸歯状の肥厚が顕著で ある。このような形質からアカマツと同定した。

アカマツは、主に内陸部の乾燥した陽光地に多く、自然災害や人間活動の跡地に成立する二次林の 主要構成樹種である。材は耐水性に優れ、燃焼時は火力が高い。

(2)針葉樹樹皮 *Conifer bark* 図版84 2 a - 2 c (SBA03-101)

同形の軸方向要素と放射方向要素が整然と配列しているが、二次木部(いわゆる材)とは異なり早材と晩材や年輪界は不明瞭である。放射組織は単列で、放射柔細胞は木部のものより細胞が大きい。

このような形質から針葉樹樹皮であり、特に材部に近い二次師部の組織と類似している。いずれの 試料にも傷害樹脂道と思われる接線方向に配列する樹脂道が観察された。傷害樹脂道は、針葉樹では モミ属とツガ属の二次木部に形成されることから、これらの樹皮と推測される。

(3)ヒノキ Chamaecyparis obtusa Endl. 図版84 3 a - 3 c (SBA03-113)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はどの試料も極めて少ない。分野壁孔の輪郭は円形で孔口はやや斜めに細く開いている典型的なヒノキ型であり、1分野に主に2個が水平に整然と配列している。孔口がより大きく開いている壁孔が多く観察された試料はサワラの可能性があるので、これらはヒノキ属までの同定に留めた。

ヒノキ属は温帯に分布する主要な針葉樹でヒノキとサワラがある。ヒノキは本州の福島県以南・■ 国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれる。サワラはヒノキより分布域は狭く、東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。

(4)クリ Castanea crenata Sieb.et Zucc. ブナ科 図版85 4 a - 4 c (SBA03-33)

年輪の始めに大型で孔口が楕円形の管孔が密に配列し除々に径を減じ、晩材部は非常に小型で多角形の管孔が火炎状に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、内腔にはチロースが発達している。放射組織は単列同性のみである。

クリは、北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は粘りがあり耐 朽性にすぐれている。

(5)シイノキ属 Castanopsis ブナ科 図版85 5 a - 5 c (SBA03-129)

年輪の始めに中型で孔口が丸い管孔が間隔を開けて配列し除々に径を減じ、晩材部は非常に小型の 管孔が放射状や火炎状に配列する環孔材。接線断面や放射断面の材組織は前述のクリと同様である。

シイノキ属は主に暖帯に生育する常緑高木で、関東以西に分布するツブラジイと福島県から新潟県 佐渡以南に分布するスダジイがある。

(6)サクラ属 *Prunus* バラ科 図版85 6 a - 6 c (SBA03-47)

小型の管孔が放射方向・接線方向・斜状など様々に複合して分布する散孔材。道管の穿孔は単一、 内腔にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~5細胞幅、道管との壁孔は小型で密在する。

サクラ属は暖帯から温帯の落葉広葉樹林の代表的な属で多くの種を含む。材は粘り気があり強く、 保存性も高い。 (7)キハダ Phellodendron amurense Rupr. ミカン科 図版86 7 a - 7 c (SBA03-58)

年輪の始めに単独または複合した中型の管孔が数層配列し徐々に径を減じてゆき、孔圏外では非常に小型の管孔が塊状・斜状に複合し、年輪界では接線状に配列する環孔材。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は同性、主に3~4細胞幅の紡錘形、細胞高は15~20細胞前後である。

キハダは北海道以南の温帯の山地に生育する落葉高木である。材質はやや軽軟だが広葉樹材の中ではクリに次い耐水性に優れた材である。

(8)タケ亜科 Gramineae subfam.Bambus●ideae. イネ科 図版86 3 (SBB01-302)

やや硬質の稈の破片である。維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。稈の外 周に位置する維管束には維管束鞘が特に厚く発達し稈を墜く支持している様子がわかる。このような 形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であると同定した。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの伸間で12属が含まれ、中■や東南アジアから移入され栽培により広まったものが多い。ササ類は多くの野生種があり、タケ類ではハチク・マダケは日本に野生していた可能性があるといわれている。

#### 4. まとめ

当遺跡の弥生時代末から古墳時代初頭の住居跡SBA03から出土した建築材と推定される樹種構成は、温帯性針葉樹のヒノキやヒノキ属と常緑広葉樹のシイノキ属を主体とし、落葉広葉樹のクリ・サクラ属・キハダの複数種を含む構成であった。全■の遺跡出土建築材の文献集成(山田、1993)において出土例が多いコナラ節・クヌギ節は、当遺跡のSB07からはまったく検出されずクリも少なかった。

岐阜県内では今回の調査住居跡とほぼ同時期の事例として、美濃加茂市の尾崎遺跡(藤根、1993)、関市の砂行遺跡(植田、報告中)や深橋前遺跡(植田、報告中)、岐阜市の堀田城之内遺跡(植田、1997)や下西郷一本松遺跡(植田、印刷中)、大垣市の今宿遺跡(沙見・岡田、1998、植田、1998)などがある。これらの報告と当遺跡の結果を比較してみた。

当遺跡から4~5km西方に分布する関市の砂行遺跡と深橋前遺跡そして更に西方に位置する岐阜市の下西郷一本松遺跡のこれら3遺跡は、当遺跡の結果と共通性が見られた。つまり樹種構成が、ヒノキやヒノキ属などの温帯性針葉樹と常緑広葉樹のシイノキ属・アカガシ亜属そして複数種の落葉広葉樹材からなることである。また、岐阜市の堀田城之内遺跡では針葉樹は未確認であるが、落葉広葉樹のクリと常緑広葉樹のシイノキ属が使われていたことが確認されている。大垣市の今宿遺跡は、竪穴住居跡はヒノキを主体としてヒノキ属・アスナロ・クロベのヒノキ科に属する針葉樹材が主に検出され柱にはコウヤマキが使用されていた。掘立柱建物跡の柱根は、常緑広葉樹のシイ属・サカキ属が多くこのほかに落葉広葉樹のクリ・ムクノキ・ムクロジが検出された。今宿遺跡では、竪穴住居にはヒノキとヒノキ科の針葉樹が主に使用され、掘立柱建物には常緑性と落葉性の広葉樹材が多用され、樹種の使い分けが成されていた可能性が指摘されている(春日井、1998)。今宿遺跡も全体的には、前述の遺跡や当遺跡と樹種構成は類似していると言える。しかし当遺跡から約8km南東に位置する尾崎遺跡はやや異なる傾向が見られる。ここのSB8はクヌギ節が主体で、SB24はクリが多くそのほかにトチノキが検出されており、針葉樹と常緑広葉樹材は検出されていない。

今回の調査および今までに蓄積された弥生時代末から古墳時代初頭の住居建築材の調査を総合すると、主にシイノキ属やアカガシ亜属などの常緑広葉樹材が多用されており、ヒノキを主体としてヒノキ科の針葉樹材の利用も目立ち、これらに加えて複数種類の落葉広葉樹材も利用されている事が明らかになってきた。この時期は近距離から建築材を調達していたと考えられる。従って、住居跡の炭化材樹種構成からは、シイノキ属を主体とした照葉樹林が成立していたことが予想される。またその照葉樹林内または周辺に、ヒノキなどの温帯性針葉樹や多種類の落葉広葉樹も共存しており、非常に種類数の豊富な森林が成立していたと推測される。森林の構成種類数が豊富で建築材を充分伐採できるほどの照葉樹樹林をが遺跡の周辺に成立していたことは、この時期はまだ森林に及ぼす人為の影響がそれほど大きくは現われていないと考えられる。

中世以降の土坑から検出された樹種はアカマツであった。アカマツは二次林要素であり、弥生時代 末から古墳時代初頭の住居跡からは検出されていないので、中世以降になると当遺跡の周辺に二次林 が拡大していたことが連想させられる。

#### 引用文献

山田昌久、1993、『日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史』、1-242、植生史研究特別第1号。

藤根 久、1993、「尾崎遺跡住居址出土炭化材の樹種」、『尾崎遺跡』、135-138、図版27-29、財団法人岐阜県文化財保護 センター。

植田弥生、(1998、報告中)、「砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定」、財団法人岐阜県文化財保護センター。 植田弥生、1997、「竪穴住居から出土した炭化材の樹種」、『堀田城之内遺跡』、125-126、図版24、財団法人岐阜県文化 財保護センター。

植田弥生、(印刷中)、「下西郷一本松遺跡の住居跡出土炭化材樹種同定」、164-176、(財)岐阜市教育文化振興事業団。 汐見 真・岡田文男、1998、「今宿遺跡出土木製品の樹種調査結果」、『今宿遺跡(第2分冊)』、71-74、財団法人岐阜 県文化財保護センター。

植田弥生、1998、「弥生時代後期の焼失住居跡から出土した炭化材樹種同定」、『今宿遺跡(第2分冊)』、31-37、図版 141-145、財団法人岐阜県文化財保護センター。

春日井 恒、1998、「第Ⅲ章 まとめ」、『今宿遺跡(第2分冊)』、87-102、財団法人 岐阜県文化財保護センター。

# 38 第6章 自然科学分析

第10表 後平遺跡出土炭化材樹種

遺構	番号	樹種	遺構	番号	樹種
SX03 (SZA05)	No. 3	アカマツ	SBA03	101	針葉樹樹皮
SZA05	No. 3	アカマツ	SBA03	101	シイノキ属
SBB01	302	タケ亜科(タケ・艹艹類)	SBA03	103	ヒノキ
SBA03	1	シイノキ属	SBA03	111	ヒノキ
SBA03	5	ヒノキ	SBA03	112	ヒノキ
SBA03	7	シイノキ属	SBA03	113	ヒノキ
SBA03	9	シイノキ属	SBA03	114	ヒノキ
SBA03	12	シイノキ属	SBA03	115	ヒノキ
SBA03	33	クリ	SBA03	116	ヒノキ
SBA03	47	サクラ属	SBA03	118	シイノキ属
SBA03	51	シイノキ属	SBA03	120	ヒノキ属
SBA03	52	シイノキ属	SBA03	122	シイノキ属
SBA03	58	キハダ	SBA03	129	シイノキ属
SBA03	64	シイノキ属	SBA03	132	ヒノキ属
SBA03	80	針葉樹樹皮	SBA03	133	ヒノキ
SBA03	88	シイノキ属	SBA03	134	ヒノキ属
SBA03	100	サクラ属	SBA03	139	シイノキ属
SBA03	100	針葉樹樹皮	SBA03	140	ヒノキ
	•	•	SBA03	142	シイノキ属

# 第11表 後平遺跡遺構別出土炭化材樹種

-1000000	中世	以降	弥生末~	古墳初頭	
樹種	SX03 (SZA05)	SZA05	SBB01	SBA03	合計
アカマツ	1	1			2
針葉樹樹皮				3	3
ヒノキ				10	10
ヒノキ属				3	3
クリ				1	1
シイノキ属				14	14
サクラ属				1	1
キハダ				1	1
タケ亜科			1		1
合計	1	1	1	33	36

# 第7章 考 察

# 第1節 砂行・南青柳・深橋前遺跡と後平遺跡との関連

#### 住居跡出土遺物概要・分析

A地区から検出された住居跡出土の土器の時期からみていくと、山中式後期を中心とした土器の出土する住居跡(SBA05、SBA08、SBA09、SBA11)と、山中式の高坏A類と廻間式の高坏C類が併存する住居跡(SBA03、SBA07、SBA10、SBA13)がある。高坏A類の出土する住居は斜面上部にあり、高坏C類が出土する住居は斜面下部にあることから、高坏A類とC類の混入は高坏A類の斜面上部からの転落の可能性も考えられる。また、砂行遺跡で報告のある条痕文系の在地の土器が共存することや、逆に砂行遺跡、深橋前遺跡ではみられない、口縁端部を受口状にする甕B類の出土が本遺跡の特徴である。甕B類や口縁端部に段をもつ鉢が出土しているのはSBA13で、この住居からは高坏C類や器台B類など新しい時期の土器がみられる。受口状甕B類の出土割合は、土器の実測点数236点のうちの甕68点中8点である。方形周溝墓からは高坏C類、器台B類が出土しており、住居跡より時期がやや新しいと考えられる。

B地区の住居跡から出土した土器には高坏C類がみられないが、山中式後期が中心で、条痕文系の土器もみられることからA区とほぼ同じ時期に形成された住居跡と考えられる。(安田正枝)

#### 後平遺跡について

本遺跡は近年発掘調査が実施された関市砂行遺跡(※1)・南青柳遺跡(※2)・深橋前遺跡(※3)と集落の状況・形成時期及び出土土器の様相がきわめて類似している。とくに砂行遺跡とでは古墳のあり方まで酷似している。地域的に隣接していることや立地条件が近似しているためと考えられる。

前述の関市の3遺跡は斜面に立地する弥生時代終末期~古墳時代初頭の美濃北部地域特有の集落として、近年注目されている遺跡であり、本遺跡は同様のあり方をもつ遺跡として新たな資料を提供することになると思われる。また、出土土器についてもそれまでには明らかにされていなかった土器様相が展開されていることが明らかになりつつあり、その概要が判明してきた。土器様相も地域特有の集落様相と重複するようにして、地域特有の土器様相を有しており、他地域との関連や編年的位置づけあるいは地域特有の土器様相が生まれる要因の解明など今後新たに取り組む課題も多く、資料的にもおおいに注目されている。こうした周囲の状況を考慮すると本遺跡は資料的には不十分ではあるが、検討すべき課題も多いと考えられる。本報告では筆者に前述した課題を結論づける力量もないため、関市の3遺跡との相違点を中心に以下にいつくかの課題を述べることにする。

#### 集落の形成について

立地条件・形成時期ともに関市3遺跡とすべてにおいて類似する。後述するように出土土器の関係から住居は斜面の上から下へ向かって順次築成されたと考えられる。また、住居の残存状況、すなわち斜面上方の1/2程度しか残らない点なども共通している。こうした現象は弥生時代終末期~古墳時代初頭の美濃北部特有のものであると考えられる。関市3遺跡と相違する点として出土遺物の少なさ・炉跡の少なさがあげられる。前者については集落規模にも作用される要因だが、本遺跡における

#### 40 第7章 考 察

遺物の出土量はそれを考慮しても少ないように思われる。その代表例がA地区SBA11とSBA12である。住居の残存状況は良好だが、土器はほとんど皆無にちかい。B地区の住居ではより顕著となって現れている。また、後者も住居の残存状況にも左右されるが、炉跡がもともとなかったのではと思われる住居も存在する。A地区SBA05B地区SBB05、SBB06などがそれにあたる。以上の観点から、本遺跡は関市3遺跡とは異なり、やや生活の痕跡が薄い遺跡といえる。立地条件・形成時期は類似するものの集落の規模などからみてすべてを同次元では捉えるにはやや問題があると考えられる。関市3遺跡(※4)は弥生時代終末期~古墳時代初頭の中心的集落であり、本遺跡はその中心的集落の補完的な集落と想定される。今後は補完的な役割についての具体的な内容を解明することが課題であると考えられる。

#### 出土土器について

土器については出土量が少ないために、細分を怠ったことをここでお詫びしたい。以下に本遺跡の 資料として断片的ながらも注目可能な資料を以下に述べる。

#### 1. 高坏について

本報告では高坏をA~Cに分類しているが、当然時間的にはA類→B類→C類と流れていくはずだが、住居跡出土資料では必ずしも、そうなっていないケースもある。これは第4章や本章の集落形成の項でも述べたように斜面上方の住居からの混入の結果と想定される。おおよそ、斜面上方の住居に高坏A類、斜面下方の住居に高坏C類が伴うと考えられる。その結果として斜面下方の住居に高坏A類が混入すると推測される。高坏B類は確認できた資料としては図示した245、301の2点のみである。住居からの出土例は皆無である。高坏B類すなわち廻間I式0段階の時期がまったく抜け落ちているかのような印象をうける。つまり、廻間I式0段階の時期に集落の形成がなかったとの判断も可能ではある。しかし、もともと短期間に形成された本遺跡においてそのような理解はやや危険性があり、やはり連続して形成されたとみる方が妥当と思われる。本遺跡の周辺地域では元来、高坏B類を土器様式のなかに持っていない可能性があり、結果としてその時期がないように見えてしまうのではないかとも想定される。こうした現象は本遺跡だけでは判断できないので関市3遺跡も含めて検討すべき課題と考えられる。

SBA11出土182、方形周溝墓出土252は口縁部外面に加飾のある高坏である。これまで加飾された高坏としては、西濃地域を中心に分布する内面加飾が顕著な高坏が注目されてきたが、それとは異なる資料と思われる。加飾が外面にある点ならび文様は相違している点において西濃型高坏と異なる。文様は182では本来は鉢の口縁部や肩部の文様を構成している直線文と列点文が用いられている。こうした現象は鉢の文様が高坏にも採用された一種の折衷的な資料と考えられる。出土量は鉢が最も多いことから、鉢が土器様相のなかで中心的な位置を占めているとみられ、それだけ、他の器種への影響を与えやすい立場にあったと判断される。その観点からすると、182のような資料は鉢の文様を転用した高坏C類の例外的資料と想定されるが、今後、同じような資料が増加するならばそれは偶発的な現象ではなく、安定した資料と認知する必要が今後、生じる可能性があることを指摘しておく。

## 2. 甕について

甕については関市3遺跡の資料により、平底甕が他地域に比べて専有的であることが大きな特徴としてこれまで指摘されている。なかでも条痕文系の甕の存在が注目されている。それらの特徴は本遺

跡でも共通した特徴として掲握できる。平底甕といっても口縁部形状・胴部形状に様々な形状が認められ、文様にも差異が存するため、本来は細分する必要があったと思われる。しかし、断片的資料にとどまっているため、本報告では細分していない。将来的には整理する必要があると考えられる。本遺跡においては、口縁部が受口状を呈し、口縁部もしくは胴部に列点文・刺突文をもつ資料が多くみられる。また、直線文をもつ資料もみられる。こうした現象は前述した高坏同様、鉢の文様を転用したものと考えられる。こうした、平底甕の他に、関市3遺跡では確認できていない新たな甕としてSBA 03出土153・SBA13出土243・包含層出土324などの受口状口縁というよりは有段にちかい形状を示す甕が注目される。胴部形状も肩部が大きく張り、口縁部径を凌駕する。これまでの平底甕とは明らかに別系統と考えられる。平底とも断定できない資料である。3点とも文様など細部に違いはみられるが平底甕以外の新たな甕の資料として、今後、本遺跡特有の現象なのか関市周辺に普遍的に存在するのか、その展開が注目される資料と思われる。(藤田英博)

# 第2節 後平茶臼古墳について

本古墳は試掘調査以前より、埴輪をもつ古墳であることがすでに判明していたが、本調査によって その詳細な内容が明らかとなり、いくつかの特徴的な事柄を確認することができた。とくに墳形、埋 葬施設、埴輪、馬具があげられる。以下の項目で詳述する。

#### 1. 墳形

全長19.6mの造り出し付円墳であることが明らかになった。規模は小さいが、県内では7例目の発見となった。とくに関市砂行1号古墳・南青柳古墳とはほぼ時代も5世紀末と同時期で、埋葬施設は異なるが、墳形が共通する。県内で数少ない造り出し付円墳が時期・地域ともに限定してみられる傾向がある。こうした現象が生まれる理由についての究明が今後必要となろう。また、関市砂行1号古墳・南青柳古墳とは副葬品・埋葬施設・外表施設で差異が認められ、こうした差異は被葬者あるいは出自集団の差異によって生じた可能性がある。

### 2. 埋葬施設

埋葬施設は竪穴式石室でなく、竪穴系横口式石室であることが判明した。県内では竪穴系横口式石室と確認されている古墳は可児市羽崎大洞3号墳、ちかいもので関市陽徳寺裏山3号古墳など数例にすぎない。従来は羽崎大洞3号墳の地理的な位置から、竪穴系横口式石室が多くみられる西三河地域との関連を想定していたが、本古墳の確認により、竪穴系横口式石室の出現は一元的なルートのみで説明が付かなくなってきた。複数系統によってその出現を探る必要があろう。また、古墳の構築時期が5世紀末~6世紀初頭と県内では横穴式石室の導入時期に相当する。導入期の横穴式石室は二又1号墳を指標として畿内系石室が県内に最初に導入されると理解されていたが、本古墳が二又1号墳とほぼ同時期に位置付けられることにより、県内の横穴式石室の導入期に対する理解が一面的な理解ではなく、多面的に理解する必要に迫られたと考えられる。将来的には小地域単位での系統理解を進める必要があると思われる。

#### 3. 埴輪

本古墳に採用された埴輪は古墳出土の尾張型埴輪としては県内では5例目の確認となった(※5)。 今後の調査の進展によってその分布はさらに広がると予想されるが(※6)、現状では尾張型埴輪の北 限にあたると考えられる。本古墳出土の尾張型埴輪は調整手法から2系統に分類できるが、工人差なのか産地による差なのかは判断できない。胎土分析の結果によると在地産の粘土を使って作ったものであるが、K・Rbの量の違いで2群に分けることが可能で、両群は素材粘土が異なるとともに、焼成条件も異なっていることから、同一地域内の別場所での製品である可能性が強いようである。尾張型埴輪は尾張連氏がその生産に深く関与しているとされていることから、本古墳の被葬者が尾張連氏と何らかの関係を有していた可能性が高いと判断される。県内において発掘調査が実施されて、尾張型埴輪を確認した事例に宮之脇11号墳がある。埋葬施設は異なるが、墳形は互いに造り出し付円墳でそれほど墳丘規模が大きくない点など共通する点が多くみられる。また、その被葬者については大首長ではなく、中小首長と想定されている。本古墳においてもその点は類似し、被葬者は中小首長と推測している。というのも、正式な発掘調査は及んでいないが、本古墳の規模を上回る古墳が富加町内に展開している可能性が高いからである(※7)。尾張型埴輪を古墳の発掘調査で確認した事例は県内では2例にしかすぎないが、現状では尾張型埴輪を採用した古墳の被葬者は小地域の首長であった可能性が高いとみられる。今後の資料の増加によってさらに検討されるべき課題と考えられる。

- ※1 2000財団法人岐阜県文化財保護センター『砂行遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第65集。
- ※ 2 2002財団法人岐阜県文化財保護センター『南青柳遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第68集。
- ※3 2003財団法人岐阜県文化財保護センター『深橋前遺跡』岐阜県文化財保護センター調査報告書 第79集。
- ※4 3遺跡で1つの集落を形成していた可能性もある。
- ※5 大野町南屋敷古墳・可児市宮之脇11号墳・御嵩町美佐野古墳など
- ※6 美濃加茂市山之上町の佐口遺跡で出土している。2001財団法人岐阜県文化財保護センター『佐口遺跡』岐阜県 文化財保護センター調査報告書 第69集。
- ※7 春日古墳・池下1号墳・杉洞1号墳・夕田茶臼古墳などが本古墳に先行するもしくは同じ時期にちかい首長墓 と考えられる。

#### 4. まとめ

富加町は「大宝二年(702)御野国加毛郡半布里戸籍」が残る地域として知られ、在地系の「カモ県主」の一族と渡来人系の「秦氏」の一族が居住していたことが明らかである。本古墳の構築年代と戸籍に残された年代には約200年の開きがあり、本古墳の被葬者と直接結びけるのは早計とも思われる。しかし、前述した2つの氏族が仮に本古墳の構築時に富加町にすでに居住していたとしたら、どちらかの氏族が本古墳の被葬者にあたると考えることができる。あくまで仮定として想定すると、尾張型埴輪の採用や埋葬施設が竪穴系横口式石室である点からみて畿内的要素が薄く、在地的要素が強いと考えられることから、この観点からみて、本古墳の被葬者像は在地系の一族、すなわち「カモ県主」の一族の可能性が高いとみることができる。そうした場合、「カモ県主」と「尾張連氏」は尾張型埴輪を介して結びついていたとも考えられる。いずれにせよ、資料の制約や年代の開きがあるので、すべて推測の域をでていない。しかし、全国最古の戸籍が残る地域でもあるので、今後の研究によって本古墳の被葬者像が具体化することが望まれる。(藤田英博)

# 遺物観察表

土器・埴輪・鉄製品・石器

# 第12表 土器観察表A地区

777	123			THE PE	ルボン		سون									 			
		写真							,										
_	<u></u> —І-	¥						D			+-				面				
1	24	35	ı	Α	J 13	5			<u> </u>						•	0.5- 2mm . 1.2mm	7.5YR7/6(	10/R7/4( I	
2	24	35	1	А	F 15	5						•			۰	1nm . 0.5mm	10YR7/4(	IO/R6/6( I	
3	24	35	1	Α	G 15	5										J, , 0.5"	10YR7/4(	10/R6/6( I	No3 -
4	24	35	ı	A	JII	5					<u> </u>		•			0.5nm . 1nm	10YR7/6(	10/R6/4( I	
5	24	35	ı	A	K14	5							0			O. 5, , k , , , ,	IOYR6/4(		
6	24	35	1	Α	L14	5				-	+		·^-		•	2nm 、2nm		10/R6/6( I	
7		—- <u> </u> -			L14	5					1	•			0	2nm , 1nm	7.5/R6/6(	IO/RJ/3( I	
-	24	$\rightarrow$	- 1	A	L16	2	<u> </u>	1	-	-	+	•	-^-		0	2mm 、 2mm	7.5YR4/4(	7.5YR4/J( I	!
-	24	$\rightarrow$		Α	K15	3	<u> </u> 	1		+		•	k		•	。 3nm · − 。	5/R6/6( I	7.5YR6/6(	1
-		$\rightarrow$				<u> </u>	<u> </u> 	1		<u> </u>		۰	۰^-		•	0. 3mm	5/R5/6( I	10/R5/3(	<u> </u>
-	24				L14	5		+	-			0		۰		. 0.5nm	1.5/R4/61   7.5/R5/4(i	5/R5/6( I	No12 —
	24			Α	H14	4U					+		•	۰		、0.5" 。	10YR4/3(	7. SYRS/411	0
-	24			Α	H14	4U			_	-	$\perp$		•	۰		0.5- Inm	I IO/R6/4(1	7.5YR4/4(	No 16 —
13	24	35	1	Α	H14	4							•	۰		0. 2- 2nm . 1. 2nm	- 7.5YR5/6( I	7.5YR6/41 I	
14	24	35	_	Α	H14	4U					$\perp$		•	۰		•	IO/RS/3( I - 3/1( I	75YR6/61	No15 —
15	24	35	1	Α	H14	4U						=	۰	۰		0.2 0.5mm	10YR5/4( I	7.5/R5/6(	:
-		1							1							2nm . 1nm		/.SIK3 Q	
16	24	35	_	A	H13	5					Ļ		۰	•		· 2, — ·	10YR6/4(1 I - 3/3( I	7 5/R5/4(1 I	
17	24	35	1	Α	HT4	4U							0	۰		2nm . 5nm	IO/RS/3(1	5/R5/6( I	
18	24	35	ı	Α	H14	4U						^-	۰	۰		2mm . 1mm 。2mm — 。	7. SYRS/6( I - 3/2( I	7.5YR5/6( I	
19	24	35	1	Α	H14	4U	•					<b>^-</b>	•	۰		0.5nm . 1.5nm . 0.5nm	7.5YR6/4(	7.SYR6/6( ) - SYR6/6	
20	25	36	1	Α	H14	4U						ı	۰	%		l" . 0.5"	7 5YR5/4(i	7.5YR6/4( I	
21	25	36	ı	Α	H14	4U							۰	%		0.5mm . 1mm 。 0.5- Imm	IO/R6/4(	7.5/R6/6(	
22	25	36	ı	Α	113	5						-	۰	۰		J,, J,, . 2nm	10/R6/4( I	IO/R6/4(1 I	
23	25	36	ı	Α	J15	4U						3 .		0		2mm 、 1mm 。 1mm — 。	7.5YR5/4(	5/R5/6(	No24 -
24	25	36	1	А	114	4M				T i		3 .	۰	۰		2nm . 1mm 。4nm — 。		SYRS/6( I	
25	25	36	1	А	F 13	1	Ì					,	0 2			Imm . Imm	7.5/R7/6( I	7.5YR7/4(1 I	9
26	25	36	ı	А	SBA05	1		İ			İ	` `	• 2			2nm 、2nm 。	7.5YR7/6(	7.5YR7/4(	
					<u> </u>				1			•							

報	E							——											
載	¥	時期	地区															內面	
27 25	5 36	I	A	GII	3		1					2 、	۰	o		2, m . 2"	7.5YR7/ <i>6</i> (	7.5YR6	
28 25	5 36	1	А	SBA05	1							•	。 2	- 0		2, m 、2nm 。 Im, 。	7. 5/R7/6(	7,SYR7/4(	
29 25	5 36	г	Α	GI,	4U								- 3 .	-	1	1, m -1 2, m	7.5YR6/4( 1億)	7.5YR6/4(IC	
JO 25	36	ı	А	с 9	3											1nm 1	5/R6/6( - 7. SYR/ /6( I	5YR5/6( - 5YR6 /6(	No 31
31 25	5 36	ı	А	G 14	4							,		, o		Imm , Imm , Imm	5/RS/6(i 5	SYR I	
32 25	36		А	NRA01	ı							`	0	,	0	2mm 2, m	7.5YR4/4(	7. 5YR5/4(	
33 25	5 36	1	А	H14	4							•	۰	`	۰	2mm Imm	7.5/R7/6(	IOY /311 I	
34 25	36	1	А	G 19	4								۰		•	0.5mm 1nm _	10YR6/4(	7 5/R5/6( I	
35 26	37	1	А	K 14	3		İ			İ		•	o · o	`	0	2mm . 1mm	10/R4/3(1 I	IO/R4/3(1 I	
26	37	1	А	GII										,	•	2mm	7.5YA5/4(	7. 5YR5/6( I	
37 26	37	1	А	L14	4M				ĺ			,		0		1mm ,,	7.5YR6/6(	10/R4/2( I	
3 26	37	ı	А	L16	2							0		•		1mm 1mm –		7.5/R7/4(1 I	
39 26	37	1	A	G 13	2							. 0		0		1mm • . 2 F	SYRS/61	7 5/R7/6( I	
40 26	37		А	G 15	3		†						0	,	0	1.5m, 1.5"	7. 5/R6/4(1	7.5YR7/61	
41	37	1	A	FIt	3		<del> </del>		<u> </u>			•				3mm 、2mm 。	7. 3110 4(1		No 42: 43 —
	-					~~~~~~	ļ				_			. •			7. SYR6/6(	5/R6/6(	"c
42 26	1/	1	А	F 11	3							•				2, 3mm - •	7.5YR6/6(	7 SYR6/6( I	No 41 • 43 C
43 26	37	ı	Α	Fil	3							(		. 0		3nm	7.5/R6/6( I	7 IYH6/6(	No 4H 2
	37	n	A.	NRA O1	1									o		1nmn 、?nmn	10/R6/4( I	10YA7/4(1 I	No 45
45 26	37	I	Α	NRA O1	1							. •		0		1mm 、2mm	10/R6/4(	IO/R?/411 I	
46 26	37		А	NRA 01	1							`	۰		۰	1- 1.5mm \ 1.5" \ 2mm -	5/R6/61 I	71YR6/6(	
137 44	38	ı	A	SBA03	2	***************************************	-		<b> </b>			(5-				0.5, m	7 5/R8/4(	7 1Yf 8/4( I	
138 44	38		А	SBACS. S1AO1	1	Α :	-					•		•		1. 5nm \ 1mm	10Y3/6(	SYRS/6(	A\2
1131 44	38	n	А	SBA03	1	Α .						0		·		4m o	10Y3/6(	5/R6/8(	SKA 12 .
14C 44	38	Ш	A	SBA03	1								0	,	•	3	7. 5YR7/4(	7. SYR?/4( I	0
141 44	38		А	SBA03	1		-		4. 7	4	(J. 3)	***************************************	* *	,	•	0. 5mm 。	10/B/4(	10/8/3(	
							_		L	l	0.0						10/B/4(	10/8/3(	

掲	择 2 図 1	写真		14.57		1	器隊		注		±		i ia		1		<u> </u>	. 14	I
掲載	(S) 1	<b>#</b>	時期	地区		1	1	1	残存率	直径	残存率			, A	1		外面		
167	50 4	40	п	А	S BAO5	1	А	24.9	3			(49	0	v	ゆゆ	径1mm程度の長石を少量、径1mmの石英を少量含む。径2mm程度のチャート・赤褐色粒を含む。	10YR6/4(にぶい着種)	10YR6/2(灰黄褐)	SBA10埋土出土資料と接合。No168と同一保体の可能性あり。反転実務。
1	50 4	40	ш	А	SBA05	1	А			12.3	3	(11.11	1 .		やや 良	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を少量含む。細かいチャートを含む。	10YR6/4(にぶい黄檀)	YR2/1(累)	1組1孔の透孔が3方向。No 167と同一個体の可能性あ り。反転実測
169	150   4	41	Œ	А	SBA05	1	А		2			1, 1	1 •			保1mm程度の長石を普通に、径1mm程度の石英をや	4 ₄ (にぶい他)	7.5YR4/1(掲 灰)~3/1(黒 灰)	反転実測。
1701	50 13	39	ı	Α	SBA05	1	А	25	4			(5.5)	1 6	٥				10YR6/3(にぶい黄橙)	K18区出土資料と 接合。反転実測。
171 1	  50 [3	39	1	Α	SBACS		A	22	1.5			, 		•				10YR6/3(にぶい黄檀)	
172	50 3	38	ш	Α	SBA05	1	А			14.8	1.5	(9.4)					-	7.5YR7/4(にぶい程)~7.5 YR3/1(黒)	1孔1 が3 方向 [。]
173	50 4	41	Ш	A	SBA05	1						0	1 •	٠ .				7.5YR7/6(橙)	1孔: の透 方向
1741	50 3	39	ш	A	SBA05	1	A			10. 8	1	1(511	I	, •				10YR3/I(集)	1孔1 の透 が3 方向。反転実測。
175 1	50   3	39	П	Α	SBACS	1				6	3	(3.1)	ナデ、指頭圧痕あり。				_	7.5YR	ı
1761	151 4	40	ш	Α	S BAO5	1	C2	18. 1	8			(14)	口縁部ハケ目?のちヨコナデ、口縁端 による列点文。類部以下不整方向の 部に列点文、施文工具は口縁端部と「				_	5/R7/6(	C 21- C 20 • E 12 • F 11 U
177	51 4	10	m	A	SBA05	1	壺					119.91	1 .					7.5YR3/1(	113   jı,
178	54 4	11	ш	Α	SBA06	1	器台											7.5YR6/6(	
179	54 4	11	ш	A	SBA11	1	器台					ı	•					25YR6/81 I	μ,
180	54 4	11	ш	Α	SBA06	3	鉢						, • •	•				7.SYAS/8( 11	
181	54 4	11	ш	A	\$BA11	3	ミニチュア	5.3	6	2	6	5		, ,				7. 5YA7/61	0
182	54 4	11	ш	Α	SBA11	3	高坏C類	21	2			5. t	B 5 .	1				5/R7/B(	
1851	59  4	12	ш	А	S! A07	3	А											JOYR?/61	
1	59 4	12		А	\$BAO?	3	С						•	•			_	5YA6/81	
1871	59 4	12	1	А	SBAO7	1							A I 17 (2 、		普通	径1mm程度の長石を普通、径1mm程度の石英をやや 少量含む。赤褐色粒・径1mm程度のチャートを含む。	10YR8/4(浅黄橙)	IO/R8	
188	5914	12		А	SBAO7	3	А	20	6			o.sl	1 2	凝凹線文3条。ナデ。	養通	後1mm程度の長石を普通、任2mm程度の石英をやや 多く含む。程1mm程度のチャートを含む。	7	5Y /S( I	No19I —
1 f	59 f 4	12		А	SBAO7	1	器台B類			24	2	(2)	摩耗著しく、調整観察不可能。	摩耗著しく、調整観察	やや 不良	径0,1mm程度の長石をやや少量含む。赤褐色粒を含む。	ī	IO/RB/4(	
190	59 4	1	m	Α	SBA07	3	高坏A類	27.9	3			(8)	縦方向のミガキ。	縦方向のミガキ。	やや 良	径1mm程度の長石を養通、径1mm程度の石英をやや 少量含む。径1mm程度のチャートを含む。	7.5YR7/6(	7.5YR7/4( I	
191	59 4	2	п	А	SBA07	1	ミニチュア			2.7	12	(8)	縦方向のミガキ。	手づくね。		1m - 2 d	I 1. 5YR7/8(	7.SY 6(	

掲載	播写	F   84	RA .	1	I 1	1	**	L_		<u> </u>	斌		調	整	焼成	胎士	色	39	備者
戦	24		110)	<u> </u>	41		::	口径	残存率	底径	残存率	器高			JOE POL	***************************************			
216	73 4	5 M	А	SBA	3 3	:	Ą					1 	1 · L		普通	径1mm程度の長石をやや多く、径2mm程度の石英を 普通に含む。径2mm程度のチャートを含む。	5YR6/8(橙)	5 4/4(1	外面に炭化物付 着。
217	73 4	5 I	А	C 2	3		A 2						8 •	•	普通	径2mm程度の長石をやや多く、径2mm程度の石英を 普通に含む。径2mm程度のチャートを少量、赤褐色粒 を含む。	5Y飛6/8(橙)	5YR5/8(明赤褐)	外面に炭化物付 着。
218	73 4	5 UI	А	SBA	3 3	4	EA2類								普通	径0.5mm程度の長石を普通に、径1mm程度の石英を 普通に含む。径5mm程度のチャートを多く含む。	10YR7/6(明黄褐)	10YR6/4(にぶい黄檀)	縄文土器の可能性 あり。混入資料か。
219	73 49	5 H	А	SBA	3 3	5	2000年								良	径0.1mm程度の長石をやや多く含む。赤褐色粒を含む。	iOYR7/3(にぶい黄橙)	10YR3/1(黒褐)	
220	73 45	5 п	А	SBA	3 3	8	器台						摩耗著しく、調整観察不可能。	, ,	普通	径1mm程度の長石、径1mm程度の石英を少量含む。 径1mm程度のチャートを含む。	7,5YR7/6(橙)	7,5YR\$/6(克黄 I	
2211	73   4°	Sim	Α .	SBA	3   1								類部に工具Bによる直線文。調整は摩耗のため 観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	やや 不良	径().1mm程度の石英を少量含む。赤褐色粒を含む。	10YR8/5(黃檀)	7,5YR8/6(浅黄橙)	
2221	73   4!   	5   m	ι Α	SBA	3 3								類部に工具Bによる痕線文、その下に棒状工具による刺突文。調整は摩耗のため観察不可能。	· , j	不良	径1mm程度の石英を少量含む。赤褐色粒、チャートを含む。	5YR7/6(槍)~7.5YR8 /6(浅黄)	7.5YR7/6(橙)	
223	73 46	6 II	А	SBA	3 3										普通	径1mm程度の長石を普通に、径1mm程度の石英を含む。径2mm程度のチャートを多く含む。	7.5/R6/61	7.5YR7/6(	
224	73 45	5 <b>I</b> I	А	C 2	3										普通	径1mm程度の長石をやや多く、径2mm程度の石英を やや多く含む。チャートを含む。	5/R5/8(	SYR S(	No216
225	73 45	5 m	A	SBA	3 3		Α									0.1,a · • •	12.57 73( I	17.5/R4/2( I	
226	73 45	5 III	Α	SBAI	3 3	委	B類						縦方向のミガキ。	殺方向のミガキ。	普通	径1m 呈度のチー 赤褐色粒を含む。	7.5YR7/6(檀)	IO/R8/6(	
227	73 46	a m	А	SBA	3 3	•	į						横方向のミガキ。	ハケ目。	やや 良	経1mm程度の最石をやや多く、径1mm程度の石英を やや少なく含む。径1mm程度のチャートを含む。	赤彩10YR4/6(赤)	7.5YR7/6(橙)	外面に赤彩。
228	73 46	5 11	Α	SBA1	3 3		А	8.8	3			(2.2)	口縁端部に工具Bによる直線文4条、工具Aによる列点文の中央に竹管による刺突文。	竹管による刺突文の間に列点文。	普通	径2mm程度のチャート、赤褐色粒を含む。	7.5YR8/6(橙)·赤彩10 R4/6(赤)	7.5YR7/6(權)·赤 彩10R4 (泰)	反転実測、内面に 赤彩。
229	73 46	5 15	А	SBA1	3 3		Α						上から工具Bによる直線文、工具Bによる波状文、工具Bによる直線文(10条)、工具Bによる直線文(状文、工具Bによる直線文。	指頭圧痕あり。		O. 1, m	7.5/R7/6( • 10 R4/6(	1.5YRI /61	-
230	3 45	5 11	А	SBA1	3 3	23	C類						ミガキ?。	摩耗著しく、調節観察不可能。	普通	径1mm程度の長石をやや多く含む。径1mm程度の チャートを含む。	赤彩10日4/6(赤)	赤彩10R4/6(赤)	
231 7	3 46	5 m	А	SBA1	3 3	壺	C類			3.4	12	1 1 (1 !	, , ,	ナデ。	良	径1mm程度の長石をやや多く、径1mm程度の石英を やや少なく含む。径1mm程度のチャートを含む。	赤彩10R3/6(暗赤)	7.5YR7/6(橙)	
232	/3 45	<u> </u>	Α	\$BA1	3 1	赱	C類						1,	ナデ。	普通	径1mm程度の長石をやや多く、径1mm程度の石英を やや少なく含む。径1mm程度のチャートを含む。	赤彩10R4/6(赤)	7.5YR6/6(橙)	
233 7	3 45	5 III	A	SBA1	3 3		С					(23)			普通	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mm程度の石英を少量含む。径2mm程度のチャートを多く含む。	5YR7/8(檀)	7.5YR8/6(浅黄橙)	
234 7	3 45	100	А	SBA1	1							i, .21		ירו ר •.	良	径0.1mm程度の長石を普通に含む。チャートを含む。	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	•
23517	73   45	5 1	A	SBA1	3 3		Α					(7.5)	1		普通	径1mm程度の長石を少量、径1mm程度の石英を少量 含む。径1mm程度のチャートを含む。	7.5YR7/4(に ぷ い 橙)	7.5YR7/6(橙)	1孔1組の透孔が3 方向。反転実測。
236  7	3   45	511	А	SBA1	3 3							(4.41	1 ,,		やや 不良	径0.1mm程度の長石を普通に、径1mm程度の石英を やや少なく含む。径2mm程度のチャートを含む。	7.5YR7/8(橙)	7.5YR8/S(	1 I 3
23717	73   45	j m	А	SBA1	3		С			11	?	15. 51		۰	やや 良	2㎜程度の石英をやや少なく含む。チャートを含む。	10YR8/6(黄橙)	10YR7/6(	٠
238 7	3 45	E	А	SBA1	3					9	3	(3)	」 ^{ミガキ} ネ。	ヨコナデ。	普通	径0.5mm程度の長石を普通に、径1mm程度の石英を 少量含む。	10YR8/6(黄橙)	IO/R7/6(	1 1
239 7	3 45	ш	А	SBA1	3 1		А		<b></b>	11	2	(3.8)	摩耗著しく、調節観察不可能。	ヨコナデ。	普通	径0.1mm程度の長石を普通に含む。径1mm程度の チャートを含む。	10YR8/6(黄橙)	10YR7/6(	,1 2 3 •
240 7	4 46	П	А	SBA1	3		В	10	3			(3, 8)	口縁端部に工具Bによる直線文、横方向のミガキ。	横方向のきがキ。	良	径0.1mm程度の長石をやや少なく含む。径1mm程度 のチャート、赤褐色粒を含む。	7.5YR7/6(橙)	7. 5YR 7/ <i>6</i> (	4
241 7	4 45	ıc	А	SBA1	3 1		Α	29	2		ĺ	(4)	摩耗著しく、調節観察不可能。	摩耗著しく、	不良	径1mm程度の長石を普通に含む。径1mm程度の チャート、赤褐色粒を含む。	10YR8/6(黄橙)	IO/RS/6(	反転実測。

掲載	挿図	写真	時期	地区	出土区	層位	器形 器		注	,	量	nn str			焼成	胎土	N 35	<b>.</b>	
242	$\top$	1		A	\$BA13	3	鉢	19	<b>残存率</b> 2	底径	残存率	(8.4)	外 面 口線端部に工具Bによる直線文、その下に工具 Aでよる前線文。預部に工具Aによる直線文(7 条/1単位)、その下に工具A?による刺突文。文様 以外は横方向のミガキ。	内面 、以 う 7 の	Đ.	径0.1mm程度の長石をやや少なく含む。径1mm程度 のチャート、赤褐色粒を含む。	外面 7.5YR7/6(程)	内 面 7.5/R6/8(1-7161	o t
243	74	45	п	Α	SBA13	3	賽B類	20.4	2			(4.6)	口線部に工具日による波状文(4条1単位)、その下に棒状工具による列点文。文様以外はナデ。	· ').	普通	径1mn程度の長石を普通に、径2mm程度の石英を普通に含む。径3mn程度のチャートを含む。	10YR8/6(黄檀)	IO/RI/6( I	lo
244	74	46	ш	A	SBA13	3	甕D類	25.6	2			(13.6)	頸部に工具Bによる直線文、その下に工具B?による刺突文。口縁部ナデ?。頸部以下の調整不明。	σ.	やや 不良	径1m程度の長石をやや多く含む。径1m程度の チャート、赤褐色粒を含む。	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)〜6/4(にぶい 橙)	反転実測。外面胸 部に煤付着。
2451	174 [	461	m	A	ssA13	3	I B	(23)	1	02	2	1 111JI	•	o 1 .1 .	良	径1mm程度の長石を普通に、径2mm程度の石英を少量含む。径2mm程度のチャートを含む。	2.5YR6/8(橙)	2.5YR6/8(橙)	反転合成実測。2孔 1組の透孔3方向。
2461	177	47 [		A I	方形周	3							A (2 σ)		普通	径0.5mm程度の長石を普通に含む。径2mm以下の チャートを多く含む。赤褐色粒を含む。	7.5YR8/4(浅黄橙)	7、5YR8/4(浅黄檀)	
247	77	47	11	А	方形周 溝墓	3	器台						2 ' ,,	. 1.	普通		7.5YR1.7/1(黑)	YR)/6( I	
248	77	47	П	Α	方形周 漢墓	3	高坏A類						o	摩耗著しく、調整観察不可能。	普通	径0,5mm程度の長石を普通に含む。細かなチャートを含む。	7.5YR8/4(浅黄橙)	7. 5/R8/4( I	
249	77	47	П	Α	方形周 濱墓	3	高坏 C 類			ļ			o	*	良	様21m4程度の長石を少量、径0.1m2程度の石英を やや多く含む。細かなチャートを含む。	10YR8/3(浅黄橙)~10 YR2/1(黒)	IO/R 61	
250	77	47	ш	Α	方形周 溝墓	3	雙D類			ļ			摩耗著しく、調整観察不可能。工具B?による列点 文。	ヨコナデ。		径3mm程度の長石をやや多く含む。径2.5mm以下の 細かなチャートを多く含む。赤褐色粒を含む。	   <del>'-'''</del>	IO/R8/4(	
251	77	47	ш	Α	方形周 満墓	3	賽D類						摩耗著しく、調整観察不可能。工具B?による列点 文。	ナデ。	不良やや	径1.5mm程度の石英をやや少なく含む。径2-5mm以下の細かなチャートを多く含む。赤褐色粒を含む。 径0.5mm程度の長石をやや少なく、径0.1mm程度の	7.5YA8/4(浅黄楷)	R8 4( !- 1.7/1	
252	77	47	ш	Α	方形周	3	高坏C類	18.6	1			(6,51	「口縁端部 こ正具 Bによる直線文、縦方間のまだ」	縦方向のミガキ。	良	在英をやや多く含む。チャートを含む。	7,5YR8/8(黄橙)	7.5YR8/6(浅黃檀)	<u> </u>
253	77	47	m	Α	方形周 溝墓	3	器台B類			17	12	(14.5)	斜位のハケ目(5~6本1単位)のちミガキ?。	/ I (5- 6 1 \ I•	普通	径0.5mm程度の長石を多く、径1mm程度の石英をや や少なく含む。細かなチャートを多く含む。	10YR4/8(赤)	7.5YR8/4(浅 黄 橙)~1,7/1 (黑)	外面全体に赤彩。
254	77	47	п	А	方形周 満墓	3	高坏C類			15.7	6	(19,8)	坏部は摩耗著しく、調整観察不可能。凝部は縦方 向のミガキ。	摩耗著しく、調整観察不可能。	普通	径1mm程度の長石を多く、径0.1mm程度の石英を多く 含む。チャートを含む。	7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/8(黄檀)	2 1 3
255	77	47	Ш	Α	方形周 溝墓	3	器台B類			17.5	12	(14,4)	斜位のハケ目(5~6本1単位)のちミガキ?。	斜位のハケ目(5~6本1単位)、板ナデ?。 指頭圧痕あり。		1, m 、 。トを多く	IOYR4/8(赤)	7,5YR8/4(浅 黄 橙)~1,7/1 (里)	外面全体に赤彩。
257	81	49	u	Α	SUA 01	1	賽D類	15.6	2			(2.8)	ヨコナデ、口縁端部に刻み。	ヨコナデ。	ļ.,.	1mm の 、Imm 少量含	10YRB/4(浅黄根)	10YR8/4(浅黄檀)	反転実測。
258	81	49	П	A	SUA 01	1	蹇D類	18	2			(2)	ヨコナデ、口縁端部に刻み。	ココナデ。	やや不良	t _o	10YR7/3(にぶい黄 掲)	10YR7/3(にぶい黄褐)	反転実測。
259	81	49	ĮŪ	Α	SUA 01	1	器台					(6,55)	縦方向のミガキ?。	板ナデ。	ļ	Inmii の 0,3mm ()	1f R8/6(	7.5YR8/6(浅黄橙)	1孔1組の穿孔が3 方向。反転実測。
260	81	49	ш	Α	SUA 01	1	₹			2.5	12	(2.9)	摩耗著しく、調整観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	普通	径2mn程度の長石をやや少なく含む。	10YR	10YR5/1(	反転実測。 1孔1組の穿孔が3
261	81	49	I	A	SUA 01	1	器台B類	<u> </u>		14.5	6	(4.9)	摩耗著しく、調整観察不可能。測端部に工具Bによる直線文2条。	ヨコナデ。	普通	径0、3mm程度の石英を普通に含む。	7.5YR8/6(浅黄橙)	7. 5Y RB/6(	方向。
262	 181   	   49   	ı	   A 	SUA 01	1	器台A類	1s	   6	[ 14	f 3	   c11  	受部は摩耗 。	[ 	普通	佳3m程度の長石をやや多く、径2m程度の石英を やや多く含む。チャート・赤褐色粒を含む。	5YR6/8(橙)	6/8(	°1 I 3
263	i 81 i	491	m I	A	SUA 01	1	變			7.3	1 12	(9,9)		0	普通	径3mm程度の長石をやや多く、径2mm以下の石英を やや多く含む。径5mm程度のチャートを含む。	10YR7/6(明黄褐)	IO/R6/4(i	
264	81	49	ш	А	SKA15	3	鉢						1		やや良	径 Inn程度の長石をやや少なく含む。径0.5mn程度 のチャート・赤褐粒を含む。	7 YR9/4(	7.SYR?/6( I	
265	84	50	10	Α	115	2	高坏	1s. 1	1 1. s				T B 4 、		不良	径1mm程度の長石を普通に含む。	7.5YR8/61 I	7, 5/R8/6( I	° c
266	84	52	П	А	114	2	<b>\$</b>	18	2			(4151	B 4、の 1 ))	 	やや不良		7 \YR8/4(	7.5Y R6/6(	

掲	桶 写	1	1,14,67			<b>36</b> 36	i I	ř	Ę					200 143	97.	L	. w-l	
掲載	挿 写 図 真	時期	地区	出土区	潜電			残存率	底径	8	器高			焼成	胎 土	外面	内面	1
2671	84   49	9 11	Α	C20	3	变	-			-		I	, 0	普通	経1mm程度の長石を普通に、径3mmの石英をやや多く含む。径1mm程度のチャートを多く、赤褐色粒を含む。	5YR3/1(黒橋)	EYR5/紅(明赤褐)	
	4 50		А	J15	2	· D						1 •		やや 良	径1mm程度の長石を少量含む。	10YR7/4(にぶい黄橙)	10YR7/4(にぶい黄檀)	
	50	) <b>II</b>	А	J14	3	CI						口縁端部に工具A3による列点文、文様以外の 調整は摩耗により観察不可能。		やや 不良	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を少量含む。	7.5YR6/4(にぶい機)	7.5YR6/4(にぶい権)	
2701	1 49	) II	А	J14	2	D						口線端部に工具A?による列点文、文様以外の 調整は摩耗により観察不可能。	摩耗署しく、調整観察不可能。	やや 不良	径1mm程度の長石を少量含む。	7.5YR6/6(橙)	7.5YR7/S(N)	
271	84 49	ın	A	L15	2	高坏						口縁端部に工具Bによる直線文4条、文様以外の調整は摩耗により観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	やや 不良	径1mm程度の長石を少量含む。径0.5mm程度の赤褐 色粒を少量含む。	7.5YR8/6(浅黄檀)	10YR6/4(にぶい黄檀)	
272	84 49	ш	A	115	2	\$ <b>*</b>						口縁端部に工具Bによる直線文、その下に工具 Bによる刺突文。ミガキ?。	ナデ。	普通	径1mm程度の長石を少量含む。	7,5YR6/4(にぶい権)	10YR6/4(にぶい黄檀)	
273	84 49	п	A	C20	3	蹇D類						口縁端部に工具 B による列点文、ナデ?。	∃コナデ•	普通	径5mm程度の長石を普通に、径2mmの石英を普通に 含む。径2mm以下のチャートを多く含む。	5YR6/8(槽)	5YR6/8(橙)	
274	84 49	п	A	C20	3	高坏						ミガキ?。	口縁端部に工具Bによる直線文。ミガキ?。	普通	径1mm程度の長石をやや少量含む。細かいチャート、 赤褐色粒を含む。	7.5YR7/6(檀)	7.5YR7/6(	
2751	84   52	2	А	J15	2	СІ	ļ					口縁端部に工具Bによる列点文、文様以外の調整は摩耗により観察不可能。	摩耗者しく、調整観察不可能。	不良	径2mm程度の長石をやや少なく、径2mmの石英をやや 少なく含む。	10YR7/4(	I IO/R)/4(1 I	
2761	84 I so		А	115	2	C 2						口縁端部に工具Aによる列点文、類部にわずか に工具日による商線文が残る。文様以外の調整 は摩耗により観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	やや 不良	径1mm程度の長石をやや多く、径1mmの石英を少量 含む。	7,5YR7/4(にぶい機)	7.5YR7/4(にぶい権)	
2	84 \ 50 		А	J16	2							口線端部に工具Bによる直線文。その下に工具 Aによる列点文。横方向のハケ目の後ナデ。		普通	径1mm程度の長石をやや少なく含む。径3mmのチャートをやや少なく含む。	10YR5/2(灰黄褐)	JOY 13( I	
278	84 50	102	A	L23	3							口縁嫉部に工具Bによる直線文、その下に棒状 工具による列点文。文様以外の調整は摩耗により 観察不可能。	•	やや 不良	径1mm程度の長石を少量、径1mmの石英を普通に含む。径2、5mm程度のチャート、赤褐色粒を含む。	5YR6/6(橙)	5YR7/8(艦)	
279	84 50	П	Α	C20	3	D						摩耗著しく、調整観察不可能。	摩耗著しく、調整骸寮不可能。	やや 不良	<b>径0.5mm程度の長石を少量含む。赤褐色粒を含む。</b>	10YR8/3(浅黄橙)	10YFB/3(浅黄橙)	
280	84 50	ш	А	J15	2	D	15	2			(3.7)	口縁部に工具Bによる列点文。文様以外の調整 は摩耗により観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	やや不良	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を少量含む。	7.5YR7/6(增)	7.5YR7/6(槍)	反転 。
281	84 52	ш	А	L23	3	D	16	4			(5)	口縁端部に工具Aによる列点文、文様以外の調整は摩耗により観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	やや 不良	7 、1m をやや少なく 。 m — 。	SYRS/6( I	5YA576(	ĺo
282	84 50	ш	A	115	2	В					(4)	摩耗著しく、消整観察不可能。	摩耗著しく、調整観察不可能。	普通	1mm •	) SYRB/6( I	17.5YR 6(	0
2831	B4 j 52	п	А	F17	3	C 2	17.7				(6.2)	口縁端部に工具Aによる列点文、顕部直下に工 具Aによる直線文。文様以外の調整は摩耗により 観察不可能。	ナデ。	1	沒^			
284[	[ 50	ı	А	115	2	СІ	14.5	2			(6.8)	口縁部ヨコナデ、類部に工具Bによる直線文(5条 1単位/2帯)。厠部はハケ目。						
2851	84   50	ш	А	K15	2	D	<b>1</b> 0. I	6			(5.8)	口縁端部に棒状工具による押圧、ヨコナデ。						0
286	34 50	л	Α	F17	2						(5)	類部直下に工具Aによる直線文。文様以外の調整は摩耗により観察不可能。						
287	34 52	П	Α	L23	3				6.8	12	ا لــــــــــــــــــــــــــــــــــــ							
288	34 52	П	Α	115	2-3				4.5	12	(4.9)	^ •	, a					
289	34 52	п	Α	K15	2				6	4	1, 1	0			ı	7	l	
290	34 52	ш	Α	F13	1				5	1	<del>-  </del>	ANAGARANA	-	やや 良	径0.5mm程度の長石を少量含む。径0.5mm程度の チャートを含む。	7 ~1.7 / ; "	7.5YR1.7/1(	Ч
291	52	ш	А	L23	3	:			4	: ;				やや 不良	€2mmの石英を普通に含む。径4mm程度のチャートを	2 5YR5/61	7.SYR6/6(	iJψ

掲載	番 写 図 真		;		1 2	器形 器		ä		苯			*	焼成	胎士	色	調	備考
載店	图真	<del> </del>		<u> </u>	ļ	種	口径	残存率	底径	残			内 面	39EAX	雅 工	外面	内底	- PRI -
319 8	5 51	П	A	L23	3	高坏A類			14				摩耗著しく、調整観察不可能。	普通	径1mmの石英を普通に含む。赤褐色粒を含む。	7. SYRI /61	7.5YA 61	
320 8	5 51	п	A	SBA09	1	А			13.8	2	1 12 s1	1 J L		普通	径1mm程度の長石をやや少なく含む。	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(檀)	3
321 8	5 51	Ш	A	C21	3	A			16. 8	3	1 (4sJ	 	6	普通	径0.5mm程度の長石を少量、径0.5mmの石英を少量 含む。径1mm程度のチャートを含む。	7.5YR8/4(浅黄橙)	7,5YR8/4(浅黄橙)	反転実測。
322 8	5 51	ш	A	K15	2	А			15.5	2	1 12.61			é	径1mm程度の長石をやや少なく含む。	7.5YR7/6(楷)	7.5YR7/6(橙)	1孔1組の選孔が3 方向。反転実測。
32318	6   53 	п	А	J 16	3	СІ	20	5.5			114,1	J\ •	1 •	やや 不良	径11mm程度の長石をやや多く、径7mmの石英をやや 多く含む。径5mm程度のチャートを多く、赤褐色粒を含む。	7,5YR7/6(檀)	7.5YR7/6(橙)	No324と同一個体の可能性あり。胸部外面に炭 化物付着。反転実測。
32418	86   53	ш	А	115	2	賽€1類						-		やや 不良	径10mm程度の長石をやや多く、径5mmの石英をやや 多く含む。径5mm程度のチャートを多く、赤褐色粒を含む。	7.5YR7/6(橙)	7. 9/R7/6(	No323と同一個体 の可能性あり。反転 実測。
32518	36   52	п	A	115	2	雙C1類	16,4	6			(12.7)	',			径4nm程度の長石をやや多く、径2.5nmの石英をや や多く含む。径3nm以下のチャ−トを多く含む。	7.5YR6/6(橙)	7.5YR6/6(	No326 I
32618	6 I s2	1	A	C 21	3	СІ			6.4	4	(8.5)	摩耗著しく、調整観察不可能。			径3mm程度の長石をやや多く、径3mmの石英を蓄通に含む。径3mm程度のチャートを多く含む。	7.5YR6/6(億)	7.IY 161	No325 — J .
327 8	6 53	n	А	K15	2	CI	20	4	6	9	(35, 5)	口縁部横ナデ、その他はハケ目(6本程度/1.2 cm・1単位)。	o	普通	径2mm程度の長石をやや少なく、径0.5mmの石英を普通に含む。細かいチャートを含む。	10YR7/6(にぶい黄檀)	10YR7/6(にぶい黄橙)	•
328 8	6 49	III.	А	H14	2							工具Aによる波状文、工具Aによる直線文。	0	良	径1mm程度の長石をやや少量、径1mmの石英を少量 含む。	10YR4/2(灰黄褐)	10YR4/2(灰黄褐)	
329 8	6 50	п	Α	C20	3	Α						工具Bによる波状文(8条)、直線文?。		やや 良	径2mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を少量含む。径1mm程度のチャート、赤褐色粒を含む。	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/6(橙)	_
330 8	6 49	П	Α	115	2	鉢・甕					<u> </u>	丁夏 Δ に上る南線文 子の下に丁夏 良に上る列占		普通	径1mm程度の長石を少量含む。	10YR7/4(にぶい黄檀)	10YR7/4(にぶい黄橙)	
331 8	6 50	ш	Α	J14	3	鉢・鞭						~		普通	径1mm程度の長石を少量含む。	10YR7/3(に込い黄橙)	10YR7/3( にぶい黄橙 )	
332 8	6 49	ш	Α	115	3	鉢·甕						_		普通	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を少量含む。	5YR6/6(橙)	10YR6/M(にぶい黄檀)	
33318	E   50	M	А	115	2	«								普通	径1mmの長石を少量、径1mm程度の石英を少量含む。	10YR7/4(にぶい黄橙)	10YR7/4(にぶい黄橙)	
334 8	6 j 49		А	ΕI	2	E						I\	, ,	やや 不良	径1mm程度の長石をやや多く径1mmの石英をやや 多く、径2mmの金 黎 母を少量 含む。径1mm程度の チャートを含む。	7.5YR7/6(檀)	7. SYRS/8( I	
33518	5   50	Ш	А	К 8	2	A 2						۰	. '6	やや 臭	径1mm程度の長石をやや少なく、径1mmの石英を普通に含む。径1mm程度のチャートを含む。	7.5YR7/6(欄)	7.SYR?/61	
336110	4172	īV	А	С	2		12.4	3			(15.5)	回転ナデ、回転ヘラケズリ。		良	1mm •	2.5Y8/3(※ 黄)・自 然 糖SYS/2(灰オリーブ)	25¥7/21 I	,Nd - I,Nd117t t 。 •
337 10	4 72	īV	А		2		J 11. 6	2	1 18.4	3	(35.6)	口縁部・胴部上半ナデ。胸部に沈線3楽、沈線間 に波状文2帯。胴部下半平行タタキ。	-I		O.5m	<b>1.547/3</b> (張英)	2.5¥7/2(灰黄)	1/一 が釉着。反転合成実演、1組 段(長方形)の通孔4方向。No 242セットの可能性がり。
338 10	5 73	īV	А	後平茶 臼古墳	2							, ,	•		1nm o	10YR7/2(に ぷ い 黄 橙)・自 然 釉7.5Y3/2 (オリーブ黒)	10YR7/2(にぶい黄橙)	反転実測。
339 10	5 73	IV	А	後平菜臼 古墳周溝	2	紐付蓋	13	1			(4.71	1	0			N5/(灰)·断面10R4/ 2(灰赤)	N4/(灰)	天井部外面路灰あ り。反転実測。
340 10	5 72	īV	А	後平茶臼 古塘湖溝	2	坏蓋	12.4	11			4.2.		•		1mm	25Y6/I (	2SY5/1(	

棉	挿	写真	54 MA	14.00	01.25	89 AL	器形 器	T					T			<b>\$</b>			-	D/s 1	9	P. 1	備考
掲載	挿図	Ă	時期	地区	出土区	瘤位	種	口径	残存	車 底径	養存品	器高器		外面		内	面		燥成	胎土	外面	内面	
482	123	48	П	Α	後平茶 臼古墳		器台					8 (7.9)	,	۰		,			不良	径1mm程度の長石を少量、径1mm程度の石英を少量 含む。赤褐色粒を含む。	10YR8/3(浅黄橙)	10YR8/2(灰白)	1孔1組の穿孔3方 向。反転実測。
483	123	48	Ħ	A	後平茶臼 古墳D区	2	А				1	2 15.8)	1	•					普通	赤褐色粒を含む。	7.5YH8/6(浅黄檀)	5YR7/6(橙)	1孔1組の穿孔3方 向。反転実測。
484	123	48	П	А	後平茶臼 古墳A区	2				14		† 'i		-		1 !			やや 不良	径1mm程度の長石を少量含む。	7.5YA7/6/10)	7.5YR7/6(橙)	<b>反転実測。</b>
485	123	48	Ш	А	後平茶日 古墳8区	2				6.2	2	6 (3.2)	,						不良	径3mm程度の長石を普通に含む。赤褐色粒を含む。	10YR8/6(黄榕)	7.5YR8/6(浅養權)	反転実測。
486	11231 1	148	Ш	A	後平茶日 古墳8区	3	更			6		4 1{J.sl		· •	)	· ·	0		普通	径1mm程度の長石を少量、径2mm程度の石英を少量 含む。径2~3mm程度のチャートを少量含む。		10YR7/6(明養橋)	反転実測。
487	11231	148	ш	Α	後平茶臼 古墳C区	2	高坏A類			8		(95)						o		径2mm程度の長石を普通に含む。赤褐色粒を少量 含む。	5YR7/6(橙)~7.5YR 8/6(浅黄橙)	5YR7/6(権)~7.5YR7/6 (權)	1孔1組の穿孔3方 向。反転実測。
4881	1231	48	П	Α	後平茶 臼古墳	3	烫			6.4		6 (46)				,		•	不良	径3mm程度の長石をやや多く含む。	10YR6/8(黄檀)	7.5YR7/6(#*\	<b>反転実測。</b>
4	123	48	П	А	後平茶臼 古墳B区	3	樂			8		6 1471		0		,		•	不良	径4㎜程度の長石 。	5YR7/6(橙)	7.5/R7/6(	Ja
498	130	77	٧	A	SZA01	1	小皿			3.9		5 (1.81	1   1 	•				,		1m °	7.5/8/1(	7.SY8/H	0
499	130	77	v	А	SZA01	1	小皿	7.9		41 4.6	,	5 1. 6		•J		٥		************		1n <b>m</b> n •	5/R8/1(	5/R1/1( I	• •
500	130	77	ν	Α	SZA01	1	小皿	8.2		6 4.8	3	5 2	! ! 1		o				良	3mm 。	5/R8/1(	5YA8/1( I	
501	130	77	v	A	SZA01	1	小皿	8.9		6  4.3 		1 61u s 1	;   • 	9		,				2mm •	5Y /1	SYRB/11 I	焼け歪み顕著。反 転実測。
502	130	77	v	A	SZA01	1	山茶碗			5.3	3	6 (2s)		o	5			•		2n .	7.5Y7/1(灰白)	7.5Y7/1( I	0
503	130	77	V	A	SZA01	1	山茶碗	14. 2		6		(4,51	1   1						良	O, 7nm	2.5Y7/1(灰白)	2 5 7 7 1 (	
504	132	77	V	А	G13	п							,			,				0. S .	7. 5/R7/4(	7.5YR7/4( I	
505	132	77	v	A	D21	п	小皿	7.8		4 5	16	1.3	3							Inm •	2.5Y8/3(淡黄)	2.5 <b>Y</b> 7/2(	-
506	132	77	v	A	SDA 01	1	山茶碗			3. 7		3 (2, 1			9	回転ナデ。			良	lm .	2.5¥8/2(灰白)	2.5Y8/2(灰白)	J.
507	132	77	v	Α	SDA 02		山茶碗	12.3		2						回転ナデ。			良	径2.5mm程度の長石を少量含む。	2.5Y8/2(灰白)	2.5Y7/2(灰黄)	
508	132	77	v	Α	H10	В							a						良	径0.5~1mm程度の長石、径0.5~1mm程度の石英 をやや少なく含む。	5YR4/6(赤褐)	7.5YR6/2(灰褐)	<b>x</b> 0x 滩。
509	132	77	٧	A	SDA 02	П		43.8		1						•			良	0.5- 1.3mm . I- 1.2mm		2.5Y7/1(灰白)~7.5YR 4/2(灰褐)	胎土赤い、産地不明、在地。内外面と もに降灰。反転実 割。

第13表 土器観察表B地区

	1320	_				_	C   E												
掲	<b>挿</b> 写	2						-	:	-		1	-	<u> </u>					
	1		_					—-j				<u> </u>				1 . 1mm .		i	
510	146 83	3 11	_ E	3		1				4.6	3	(2,2)			_		YR4/1(	IO/RI / (1	0
511	146 83	3	E			1	Α :					16851				Im, . Imm ,	7.5YR7/6(	7.5YR7/6(1 1	11_l = 3 /วเพง(X 軽 突 別s)
512	146 83	3 m	E		8B02,	1	Α	_					***************************************		_	Inm Im	7,SYRI /6(	7.5YR7/ (	
513	146 83	3 II	E	3 SI	ВВ	2							• "	. •		Inn . 1mm •	25Y5/6( I	1.545/6(	
514	146 83	3 III	E	SI	BBO4	2									_	住1㎜程度(	5/R6/8(	7.5YA 4(	
515	146 83	3 1	8	3 SI	BB04	1				5.8	6	(J,41	a		ı	<u>h</u> 9	7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/4(浅	lo lo
516	146 8	3 1	E	3 SI	BB04	I		13	1, 5			(1.51					10YR8/3(浅黄褐)	IO/RS/3(	۰
517	146 8	3	E	3 SI	BB04	2	高坏A					(8)			-		10YR8/4(浅黄褐)	10VR8/4(	1 1 3
518	146 8	3	E	3 S	BBO4	1	高坏A類					(7.6)	摩耗着。	ţ ii		Im	IOY 141	IO/RS/41	1 1 3 J i,
519	146 8:	3 1	E	3 S	BB05	1							1	J ?。		1nm s	5/R7I 8(	5/R7/S(	No5 - 5
520	146 83	3 🗓	E	3 S	B80	1							• ("	J\ ?,		1mm •	5YA /8(	5¥f 5(	No519+521+522と - li a 。
521	146 83	3 <u>m</u>		3 \$	8805	1					~~~~~		• •	0		1nm , Im	YR6	SYR 6(	No519'51 •522
5	146 8	3 m	E	_		1	l 						• •	· o		1mm Imm	25Y /8(	5/R6/6(1)	No519- 521
523	146 83	3 III	E	3 S	DB 1	1	В						f , 1	0	やや良不良		I( RI /4(1 I	IO/R7/4( I	
524	146 83	3 111	. 6	s	BB06	1							B 2 , B	,		Im	7.5/R8/S(	7.5Y /8(	
525	146 83	3 111	E	3 S 01	DB 1	3							В	,		-lm 。	7.5/R6/4(1	7.5YR7/4(1	
526	146 83	3 M	E	3 S	DB 1	2							. •	. •		1nm s	5YR7/8(	5YR7/8(	
527	146 83	3 II	€	3 S	DB 1	3							, , o			径1m程度の長石作やや小かく、径2mm程度のチャートーやや少なく含か。	5YR7/8(	5YR7/S1 I	No528 s
528	1 8	з	8	3 O	ЮВ 1	3							, 0	,		径1mm程度の長石 少なく、径2mm程度のチャートをややけなく☆かo	R7/S(	5YR7/8(	No 527 — 。
529	146 8	3		ВВ	BE 12	3	АІ						口縁端部に斜方向の 。	· •		1" A 1	5/R6/6(	5/R6/6(	
530	146 8	3	E	в в	BM1	3	А			14. 2	3	(8)	. В 3	,j o		1mm . 1mm	2.5YR7/8(	2.5YR7/	1 1 3 J ¢
531	1 8	3 1	: E	в в	BE 12	3							. В 3 о			1	IOYRI/4(! I	JOYRI/4(	
532	14€ 8	3	E	в в	BE12	3	А			12.2	1.5	(1.3)				1mm	7.5YR7/4(	7. 5YR7/6( I	1 1 3

# 第14表 埴輪観察表

掲載	播図	写真	T	T	// with	进	. 1	l l	I	突	帯			i,	ž	1	a, 1	色	調	
番号		図版	出土区	層位	分類	部位	cm	残存率	部位	形状	142	高さ	:	外面	内 面	焼成	胎士	外 面	内 面	備考
						口径 底径	21,5	12	第1 突帯		1,4	0.6	第1段:	ハケ調整 A (8本/2cm)、基部に底部設定工具 を離脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズリ・ナ デア、または底部設定工具の痕跡。	ハケ調整 A (8本/2cm)、ナデ。輸積み痕・ 指頭圧痕顕著。基部ケズリ・指頭圧痕。			7,5YR8/6(浅黄橙)	7,5YR8/6(浅黄橙)	
388	110	63	後平茶 臼古墳 一P02	1	円簡形 埴輪 A類	第1段高 第2段高							第2段	ハケ調整A(7本/2cm)。	部分的にナデ _• ハケ調整A(8本/2cm)。	やや 良~	径2mm以下の長石を普通に、径 2mmの石英を少量含む。径3mmの チャートを含む。	7.5YR8/6(浅黄桧)	7.5YR8/6(浅黄橙)	<ul><li>透孔あり、ヘラ記号不明。 底部設定痕跡あり。反転実 測。</li></ul>
						第3段高 器高	(14.6)		第2 突帯				第3段	ハケ調整A(7本/2cm)		不良				
						口径 底径	26.0	1.5	第1 突帯				第1段							
389	110	62	後平茶 臼古墳 C区		円筒形 増輪 A類	第1段高 第2段高			第2				第2段			普通	径3mm以下の長石を普通に、径     2mm以下の石莢をやや少なく含   む。径4mmのチャートを含む。			反転実測
						第3段高 器高	(9.0)	/_	突帯				第3段	ハケ調整A(7本/2cm)	ハケ調整A (7本/2cm)			7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	
			46.707.99		円筒形	口径 底径 第1段高		<del>  _</del> ,	第1突帯				第1段				径     以下の長石を少量、径4			
390	110	62	後平茶 臼古墳		填輪 A類	第2段高	(3.8)		第2					ハケ調整 A (7本/2cm)	ハケ調整A (7本/2cm)	不良	性  mg  ドの長石を少量、性4  mm以下の石英を少量含む。	7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	-
	-		<u> </u>			器高 口径	(4.9)	/_	突帯				第3段	ハケ調整 A (6本/2cm)	指頭圧痕	<u> </u> 			]	<u> </u>
391	110	62	後平茶日古墳	2	円筒形 埴輪	底径 第1段高	(1.7)		第1字帯				· · · · · · ·	ハケ調整 A (04/2011)	TEMPELLINE	10 PD	経1mm以下の長石を少量、経4 mm以下の石英をやや少なく含	7.5YR8/6(浅黄橙) 7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙) 7.5YR8/6(浅黄橙)	
			C区		A類	第2段高第3段高	(1.0)		第 2 突帯				第3段			不良	む。径2mmのチャートを含む。	7.31円0/0(没具位)	/.5186/0(汉英位)	
			後平茶			口径 底径	19.7	11	菜 1 突帯				第1段	ハケ調整A(8本/2cm)、基部に底部設定 工具を難脱した際の痕跡あり、基部ケズ リ・ナデア、または底部設定工具の痕跡。	ハケ調整A (9本/2cm)。基部ケズリ。			7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	<u> </u>
392	110	63	日古墳 C区-	1	円筒形 埴輪 A類	第1段高 第2段高	(6.9)		第2				第2段			やや 不良	様2㎜以下の長石を普通に、径 2㎜以下の石英をやや少なく含む。径1㎜のチャートを含む。			反転実測。 -
			"			第3段高器高口径	(6.9)	<u>/_</u>	突帯				第3段			ļ				
			後平茶		円筒形	底径 第1段高	16.3	2	第1 突帯				第1段	不明	不明	**	径3mm以下の長石を普通に、径	7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	<u> </u> 
393	110	62	日古墳	1	埴輪	第2段高 第3段高		]/	第 2 突帯				第2段			不良	2mm以下の石英をやや少なく含    む。	Add to district to the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of the same of		反転実測 -
<u> </u>	<u> </u>		l			器高 口径	(1,7)		第1				1	ハケ調整 A (7本/2cm)	ハケ調整A (8本/2cm)	$\vdash$		7.5YR8/6(浅黄橙)	3 (100 /c//* # :=)	
394	110	62	後平茶 臼古墳		円筒形 埴輪	底径 第1段高	16.8 (7.3)	-	突帯				第2段	***************************************		普通	径5mm以下の長石を普通に、径 1mm以下の石英をやや少なく含	7.5YR8/4(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	反転実測
					A類	第2段高 第3段高 器高	(7.3)		第 2 突帯				第3段		1		t.			
ĺ						口径 底径	18.9	1.5	第1 突帯				第1段	ハケ調整A(7本/2cm)	ハケ調整A (8本/2cm)	Ī		7.5YR8/6(浅黄橙)	7.5YR8/6(浅黄橙)	
395	110	62	後平茶 臼古墳		円筒形! 埴輪 A類	第1段高	(7.5)	/	第2				第2段			普通	径2mm以下の長石をやや少なく、 径3mm以下の石英を少量含む。			反転実測
						第3段高器高	(7.5)	<u>/_</u>	突帯				第3段	MANUEL				744		

			_			т	244				突	-			誤 2	ž			色	in .	
掲載		写真図版	出:	土区 用	位	分類	部位		残存率	2014	形状	幅	**		外面	内面	焼成	胎士	外面	内面	
11175	NEI NIX	∠D/MX	-		+		口径	om 34,4	0.5	第1	119.4X	1.7		第1段	ハケ調整 A (10本/2cm)、部分的にナデ。	ナデ。綸積み痕顕著。指頭圧痕あり。	<b> </b>		2.5YR6/6(明黄褐)	5YR7/6(セ)	
						±G es T∕	底径 第1段高	17.8 6.1	2	突帯 第2		1.6			ハケ調整 A (10本/2cm)、カカカカリにフラミ	ナデ。			2.5YR6/6(明黄褐)	5YR7/6(橙)	2 • 3
3	111	64	<b> </b> ⅓.	c		埴輪	第2段高 第3段高	6.1		突帯 第3		1.5			ハケ調整 A (10本/2cm)	ナデ。輪積み痕顕著。指頭圧痕あり。	やや不良	径1mmの長石、径1mmの石英を 普通に含む。	2,5YR6/6(明黄褐)	5YR7/6(橙)	. `
	-		ſ'	6		A類	第4段高 第5段高		/	突幕	-					ナデ	1			5YR7/6(橙)	C 4 A
1 1							第6段高		/	突帯		1.3	0.8	第5段高	ハケ調整 A (8本/2cm) ハケ調整 A (9本/2cm) ハケ調整 A (8本/2cm)	ハケ調整 A (8本/2cm) ハケ調整 A (8本/2cm)	1		2.5YR6/6(明黄褐) 2.5YR6/6(明黄褐) 2.5YR6/6(明黄褐)	5YR7/6(橙) 5YR7/6(橙)	19
Н			H	$\dashv$	-+			26.0	3			1.0	Ų. /			ハケ調整A(8本/2cm)、基部ケズリ・指頭			210171070(77)74197		
			l		- 1		底径	17.0	3	第1 突帯		1.6	0.7	第1段:	ハケ調整 A (8本/2cm)、基部付近に指頭 圧痕あり。	圧痕がり			7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(	
v	111	58	f,		1	円筒形 埴輪	第1段高 第2段高	(8, 3) 6, 1		1~"				第2段	ハケ調整 A (7本/2cm)、部分的に指頭圧 痕あり。	ハケ調整 A (10本/2cm)、接合部を中心に 指頭圧痕顕著。	やや 不良	後0.5mmの長石・石英を少量含む。	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	• 1 C
			A			A類	第3段高	(8.5)		第 2 突帯					ハケ調整 A (8本/2cm)	ハケ調整A(9本/2cm)、部分的に指頭圧	-1		7.57.57	7.07///	
			<u> </u>		_+		器高	24.5	/	-	-					痕あり。	1		7.5YR7/6(	7. 5YR7/6(	l I
							口径 底径	27.2		第1				第1段							
				平茶		円筒形	第1段高		· /	突帯					111111111111111111111111111111111111111		i	0.5mm •			
398	111	55	5Ì⊟ IA	古墳		埴輪 A類	第2段高		/					第2段				1			•
			ľ		- 1		第3段高	_	1/	第2				筆3段	ハケ調整 A (8本/2cm) 、口縁部ナデ。	A (8 /2cml 、			·		
			<u> </u>		_4		器高	5.6	<u>/</u>	1	<u> </u>					e e	ऻ		7. 5YR7/6(	7.5YR7/6(	
					١		口径 底径	21,7	3	第1				第1段	ハケ調整 A (8本/2cm)	A (7 /2,m).	1		7. 5YR7/6(	7,5YR7/6(	
		ĺ	1		١	円筒形	第1段高		1	突帯							i	1nm • .			1
399	111		ΙA		•	埴輪 A類	第2段高	1	1 /					第2段				1 0			
			1				第3段高器高	(7.6)	1/	第2 突帯				第3段			]				
$\vdash$	<u> </u>	<u>                                      </u>	t	<u> </u>	-+		口径	(7.0)	<del> </del>	-	+				B (19 /2 、		†		7. 5YR8/8(	1	
			1				底径	17.0	3	第1突帯				1 .	l '}。	1 _e	Ţ	1	IOYR4/1(	7. 5YR8/8(	
400	111	62	21	- 1	2	円筒形 埴輪	第1段高	(8.0)	1 /	1				第2段				Inm 3cm			٥
1 -00	l '''	٦	A		_	B類	第2段高	ļ	1/	第2	1						1	- •			-
							第3段高 器高	(8.0)	1/	突帯	1			第3段							
$\vdash$	<u> </u>		+	<del>-  </del>	-+		口径	26.0	0.5	$\vdash$	+-						i –	i			
							底径		1	第1突帯				第1段			_				
401	112	50	<b> </b> 81	- !	n	円筒形 埴輪	第1段高			1^"				第2段	ハケ調整B(18本/2cm)	J 8 (11 12cm)		2mm • -			• g
"	'''	1 ~	В		"	B類	第2段高	L	1/	第2	1						-		7.5YR8/6	7. 5YR8/6(	l i
							第3段高器高	7.9	/	突帯		1.8	0.5	第3段	ハケ調整B (15本/2cm)	B (12 11cm)			7.5YR8/6(	7.5YR8/6(i	
İ	1	Ì	Ť	T			口径			第1				第1段							
			1			#DOKT!	底径			突带				25 1 12			4	Immi			
402	112		ı	- !	n	朝顔形 埴輪	第1段高		1 /	1		-		第2段			1	Imm .I 1.2 m			
			D			A類	第2段高第6段高			第2				3	J A (8 12m)		1				
	<u> </u>	<u> </u>	Ļ				器高	(4.0)	<del>/</del>	1						`	+		7.5YR8/6(	7. 5YR8/6(	
							口径 底径	-	-	第1 突帯				1							
403	112	54		を平茶 3古墳		朝頗形 埴輪	第1段高		1	7 × ***	_			2				1- Imm 。			
				) Z		A類	第2段高 第5段高 器高	<u> </u>		第2				3	d s •				7. 5YR7/6(	7.5YR7/6(	

掲載	挿図	写真	!	1		法	. 1	1	i	突	帯			ia 1	*	T.,,,	胎士	é	<b>19</b>	備考
番号	図版	図版	出土区	層位	分類	部位	CITE	残存率	部位	形状	幅	高さ		外面	内 面	焼成	加工	外 面	内 面	, m 2
			<del>                                     </del>	1		口径			1						ハケ調整B					
				1		底径			第1 突帯		1.8	0.6	弗1段:	ハケ調整B	7.7 sq.32.0			10YR6/3(にぶい名)	7.5YR7/4(にぶい橋)	
404	112	59	後平茶 臼古墳		円簡形 埴輪	第1段高	(0.3)	1	大帝				第2段	ハケ調整B(16本/2cm)	ハケ調整B(17本/2cm)	良	径2mm以下の長石を普通に、径 4mm以下の石英を普通に含む。	10YR6/3(にぶい掲)	7.5YR7/4(にぶい掲)	
			ĐŒ		B類	第3段高		1/	第2				第3段							
			1	$\vdash$		器高口径	(6,7)	<del>/</del> —			-	_						***************************************		
			後平茶		円筒形	底径	(0.10)	ļ,	第1 突帯		1.6	0.6	第1段	ハケ調整 B 	ハケ調整 B	1	(7. )	7.5YR8/4(浅黄橙) ————————————————————————————————————	7.5YR8/4(浅黄橙)	
405	112	59	日古墳 D区		埴輪 8類	第1段高 第2段高	(3.5)				_		第2段	ハケ調整 B (17本/2cm)	ハケ調整日	良	径1mm以下の長石を普通に、径 1mm以下の石英を少量含む。	7.5YR8/4(浅黄橙)	7.5YR8/4(浅黄橙)	ļ
						第3段高 器高	(5,8)		第2 突帯				第3段							
İ				†		口径	25.6	12	第1				第1段			ĺ		2.5YR7/6(橙)~10 YR8/6(黄橙)	5YR7/ <b>6(權)</b>	
406	112	63	後平茶日古墳		円筒形 埴輪	底径 第1段高	(0.8)		突帯		1.3	0.5	第2段		     ハケ調整A(7本/2㎝)	普通	径lmm以下の長石・石英を普通	2.5YR7/6(橙)~10	***************************************	透孔・ヘラ記号あり。後平 茶臼古墳周溝B区とも接
100	. ""	03	AZ		A類	第2段高 第3段高	7.9		第2 突帯		1.8	0.7		□縁端部ナデ。ハケ調整A ⁽ 7本/2cm)。	□縁端部ナデ。ハケ謝整 A (8本/2cm)。		に含む。	YR8/6(黄橙) 2,5YR7/6(橙)~10	5YR7/6(權)	숨.
						器高	(19.6)	$V_{-}$	1						THREE MICHAEL S G. 18 BAILTE TO CONTY SCHOOL			YR8/6(黄橙)	5YR7/6(橙)	
						口径 底径	27.1	5	第1		1.5	0.7	第1段	ハケ調整B(14本/2cm)、基部に底部設定工具の難脱痕あり。基部ケズリーナデ?、または底部設定工具の痕跡。	ナデ。指頭圧痕・輪積み痕顕著。ハケ調 整B(11本/2㎝)。基部ケズリ。			5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	
407	112	63	後平茶 臼古墳	п	円筒形 埴輪	第1段高	8.6	7	突帯					ハケ調整B (14本/2cm)。	ハケ調整B (18本/2cm)。	良~ 不良	径0.5mm以下の長石を普通に、 径0.1mmの石英を少量含む。径3 mmのチャートを含む。	5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	透孔・ヘラ記号あり。反転 実測。
			C⊠		B類				第2 突帯		1.6	0.6	第3段	ハケ調整B(18本/2cm)。	ハケ調整 B (15本/2cm)。		mmv)テヤードを含む。	5YR7/6(橙)	5YR7/6(橙)	
			i	ΤĪ		口径	28.4	4	第1			•	第1段	口縁端部ナデ?。ハケ調整A(7本/2cm)。	ナデ。ハケ調整 A (7本/2cm)。	T		10YR6/6(明黄褐)	10YR6/6(明黄褐)	
408	113	58	後平茶日古墳	2	円筒形 埴輪	底径 第1段高	-	1	突帯		1.9	0.9		ハケ調整A(8本/2cm)。	ハケ調整 A (8本/2cm)、部分的に指頭圧 復あり。	やや不良	径1mmの長石・石英を少量含む。 雀2mm程度のチャートを少量含	10YR6/6(明黄褐)	10YR6/6(明黄褐)	-   透孔あり・ヘラ記号不明。   反転実測。
			C⊠		A類	第2段高 第3段高	7.4		第2 突帯		2.1	9.7	第3段	ハケ調整 A (8本/2cm)。	ハケ調整 A (7本/2cm)、部分的に指頭圧	4	€.	10YR6/6(明黄褐)	10YR6/6(明黄褐)	
						器高 口径	(23.0)	12	第1					ハケ調整 A (9本/2cm)、基部に底部設定工具 を離脱した際の指頭圧痕がり。基部ケズリ・ナ	痕あり。 部分的にナデ・指頭圧痕。ハケ調整A(8				2.5YR7/8(橙)	
409	114	65	後平茶 臼古墳		円筒形埴輪	底径 第1段高	18.7 9.3	11	突帯		1.8	0.6	36.2 EV	デ?、または底部設定工具の痕跡。 ハケ調整 A (9本/2cm)。	本/2cm)、基部ケズリ。 ハケ調整A(8本/2cm)、部分的に指頭圧	· 良~ やや	径1m程度の長石をやや少なく、 径1m程度の石英をやや少なく	2.5YR7/8(橙)		透孔・ヘラ記号あり。
	- 14	03	周溝B 区		A類	第2段高			第2		1.9	0.7		口緑塔部ナデ。ハケ調整A(8本/2cm)。	痕あり。 口縁幾部部分的にナデ。ハケ調整A(7	<b>-</b>	含む。	2.5YR7/8(橙)	2.5YR7/8(橙)	
						器高	27.2	/	A-18						本/2cm)、部分的に指頭圧痕あり。			2.5YR7/8(橙)	2.5YR7/8(橙)	
						口径 底径	26.6	10	第1 突帯		1.7	0.6	第1段	ハケ調整A(8本/2cm)、基部に底部設定工具 を離脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズリ・ナ デ?、または底部設定工具の痕跡。	部分的にナデ・指頭圧痕。ハケ調整 A (8本/2cm)。基部ケズリ・指頭圧痕。			10YR6/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	<u> </u>
410	114	66	間溝B		円筒形 埴輪 A類	第1段高 第2段高	_	/	大市	-			第2段	ハケ調整A(8本/2cm)、部分的に指頭圧 痕あり。	ハケ調整A (9本/2cm)、部分的にナデ・ 指頭圧痕。	良	径1mm程度の長石を普通に、径 1mm程度の石英を普通に含む。	10YR6/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	透孔あり。ヘラ記号は不明。後平茶臼古墳 B 区・J 15区とも接合。
			×		A ##	第3段高器高	_		第2 突帯		1.7	0.6	第3段	ハケ調整 A (9本/2cm)。	ハケ調整A(8本/2cm)			10YR6/2(灰黄褐)	7.5YR6/3(にぶい褐)	
				Ī		口径 底径	29.0		第1		2.0	0.6	第1段	ハケ調整 B (16本/2cm)、基部に底部設定工具を難脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズリ・ナデ、または底部設定工具の痕跡。	ナデ?。基部ケズリ・指頭圧痕。			7,5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	
411	115	55	後平茶 臼古墳 周溝 B		円簡形 埴輪		8.9	1/	突帯		2.0			ハケ調整B(16本/2cm)。	接合部にわずかに指頭圧痕。ハケ調整B (17本/2cm)		径1mmの長石・石英をやや少なく 含む。	7.5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	透孔あり。ヘラ記号不明。 後平茶臼古墳A区・B区
			×		B類	第3段高	<del> </del>	1/	第 2 突帯		1.4	0.5	第3段	口縁部ナデ、ハケ調整B(12本/2㎝)。	ハケ調整日(16本/2cm)。	1		7,5YR7/6(橙)	7.5YR7/6(橙)	_  とも接合。反転実測。   

5 <b>a</b> kt   1	<b>神図</b>	写真	i T	i	i	i					帯							色	6 (B)	備者
号 [	图版	図版	J	審	1	· ·	çm	残存率	部位	形状	幅	高さ	1		内 面	1	1	外面	内 面	TW 零
$\top$	-f		1	1	<b>†</b>	T		1			<del>                                     </del>		1			t				
						底径		1	第1				第1段			-				
			1		朝顧形	第1段高	<b>†</b>		突帯	1						- b+	径1mmの長石を少量、径1~5.5			†
1201	Ш	54	11 E	I	埴輪 B類	第2段高	<del> </del>	1 /	1	$\vdash$			第2段			不良	m以下の石英・チャートをやや 多く含む。			
					DX	第6段高	(3.6)	1 /	第2	1			<u> </u>		。 A (6 12cm)	-	9 (a 0 o			1
ĺ	- [		ĺ	İ	ĺ	器高	(3.6)	1/	突帯	ĺ			6 .	A (B /2m),	• A (6 12cm)	'	(	7.5YR7/6(	7, \$VR7/6(	
÷	÷		i	<del></del> -	<del>                                     </del>	口径	1=12/	۲	+	├──						+				
						底径		<del>                                     </del>	第1				1f							
	-				朝顔形	第1段高		<del>                                     </del>	突帯							40.40	径0.5mm以下の長石を少量、径			i
21	1171	54	11 B	п	埴輪 A類	第2段高		1 /	1	<b>—</b>	-		第2段			不良	1〜2mm以下の石英・チャートを 普通に含む。			
	ì		Į		A XXI	第4段高	(3.7)	1 /	第2					***************************************	***************************************	_	苦趣に高む。			1
1			ľ			器高	(3.7)	1/	突帯	İ			第3段	ハケ調整 A (7本/2cm)。	۰			7.5YR7/6(	7.5YR7/6(	
Ť	Ť		<u> </u>	†		口径	28.0	3	<del> </del>	<del>                                     </del>						<del>i</del>	i		i	i
-	- 1					底径		<del> </del>	第1				第1段					10YR8/4(	10YR8/4(	ļ
			後平菜 臼古塘		円筒形	第1段高		<del> </del>	突帯						I A (9 12cm)	-1	1nm .		1	1
22	117	71	周溝日	2	埴輪 A類	第2段高	(7.6)	1 /					第2段	ハケ調整A。	, A (7 12di)	1	2mm – 。	JOYR8/4(	10YR8/4(	l i,
1			X	1	A-48	第3段高			第2	1	1.8	0.7	T			-		·····		1
	- 1		l	1	1	器高	(19.8)	/	突帯				第3段	口縁端部ナデ。ハケ調整 A (8本/2m)。	ハケ調整 A (8本/2cm)。			10YR8/4(	10YR8/4(	
+	$\neg$		<b> </b>	1		口径	26.5	9		<del>                                     </del>	<b></b>			ハケ調整B(20本/2cm)、基部に底部設定工具を離脱した際の指領圧痕あり。基部ケズリ・	接合部のナデ・指頭圧痕顕著。ナデ、指	i	i İ			Ì
1			後平落		1	底径	16.9	12	第1 突帯	ĺ	1.6	0.6	第1段:	呉を離脱した際の指領圧痕あり。基部ケスリーナデ?、または底部設定工具の痕跡。	/ 頭圧痕。ハケ調整 B (20本/2cm)、基部ク   ズリ。		ĺ	7 YR7/6(	7.5YR7/6(橙)	鹿部設定痕跡あり。透
			C3-1-40		円筒形	第1段高	8.5		<b>矢帝</b>				,			1	Irr 1mm			へう記号あり。後平茶F
23	118	69	潤溝B		埴輪 A類	第2段高	6.9	1 /					第2段;	ハケ調整 B (20本/2cm)。	B ( 12cm)			7.5YR7/6(	7.5YR7/6(橙)	墳周溝C区・J15区と
			X		1	第3段高	7.1	1/	第2		1.9	0.6	** 0.00	made which a man of the state of the state of						合。
	_					器高	26.0	V	大市				第3段:	口縁端部ナデ、ハケ調整 B (20本/2cm)。	部分的にナデ。ハケ調整 B (20本/2cm)。			7. 5YA7/6(	f 7.5YA 7/6(	
Т						口径			1				第1段			T				
	- 1		後平条		l	底径			第1 突帯				95 I PX							
24	118	59	臼古墳	1,	円筒形 埴輪	第1段高			1^"				26 7 EC	ハケ調整 B (20本/2cm)	I B (20 12cm) • 9	1	1m .			
-7	"1	33	周溝B	1	B類	第2段高	(5.2)						965 E PX	/ 17 周玉 D (20本/20H)	0		2mm . ,	sYR6/3(	7.5YR5/3(	
			E.			第3段高	(0.4)		第2 突帶		1.7	0.6	第3段			1				
_				<u> </u>		器高	(7.3)	<u> </u>	1				995 3 FX			<u> </u>		5YR6/3(	7.5YR5/3(にぶい褐)	<u> </u>
	1					口径	25.6	6	第1	1			第1段			1				
			後年茶		COLAM TIC	底径			突帯				23.172				_			1
<b>I</b> 251	118	58	臼古墳	2	円筒形 埴輪	第1段高		1	1				2000年	ハケ調整 B (19本/2cm)。	ハケ調整 B (16 /20)、	1	1nm 5			K 14• K 15• L 14• L 15
Ĩ	7	**	周溝 B 区	1	B類	第2段高	(6.6)		第 2				20.00	- 7 2532 10 (10740 20117)	圧痕あり。			5YR6/4	5YR6/4(にぶい橙)	
			162			第3段高	9,1	1/	突帯		2.2	1 0.6	3	I\ B (18 1.2cm)₀	, I 8 (16 12cm) o	.				
4	_			ļ	L	器高	(17.9)	<u>/</u>							7. 0 (10 1221)	<u> </u>		5YR6/4(t	!5YR6/4(	
1						口径	22.8	4	第1				1			1				
					meas:	底径			突帯				. :			_!	   径0.5~1mm程度の長石を普通		1	
26	118	58	1	2	円筒形 埴輪	第1段高		/	1				2	B (19 12cm)	6 (12 12cm) T ,	1	住0.5~1ml枝及の栽石を普通 に、径1~1.5mm程度の石英を			
1		Ĩ	В	i	B類	第2段高	(6.4)	/	第2					5 (17 124),	0 (12 1231)	4	普通に含む。	10YR7/4(	tO/R6/4(1 I	•
1						第3段高	8.0	1/	突帯		1.5	0.5	第3段	ハケ調整 B (15本/2cm)。	B (18 /2					
+	-	$\dashv$		<del> </del>		器高	(15.9)	<u>/</u>							5(10 72 1			10YR7/4(	I 10YR6/4(	
						口径	34.2	1	第1				第1段			Í				
			後平茶		朝顔形	底径		ļ	突帯				L			_			1	1
27	119	:	臼古墳 周溝 C		連輪	第1段高		/	1	L			第2段:				径0.5~1mmの長石を少量、径			Jr.
			周溝に		A類	第2段高		1/	第2	Ι.					1		0.5~1mmの石英を普通に含む。		4	<u> </u>
			_			第6段高	(4.7)	1/	突帯				6	" " A (9 12cm),	A (9: /2m)					
	,	- 1		1 1	ĺ	器高	(4.7)	V	f I	í i	1 1		1 :	(	i	1	1 1	7.5YR7/4(	/ 7.5YR 7/6(	i

掲載	挿図	写真	41.1.5	T	0.42	i i	± 1	 l	T	突	- 帯			9	ž	1		色	調	
		図版	出土区	層位	分類	部位	CITI	残存率	部位	形状	幅	高さ	:	外面		-		ī i	内	
						口径		1	1					ハケ調整A (7本/2cm)、基部に悠部設定工具	ځ له ۱۰۰۰	ı		***************************************		
	- 1		後平茶			底径	19.5	6	第1 突帯		1.8	0.65	第1段:	を離脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	A (8 12cm) 部ケ 。			10Y 13(	10YR 8/3(	
436	119	71	臼古墳		円筒形 埴輪	第1段高		1	1~"				無の段:	ハケ調整 A (7本/2cm)。		1	1mm •	-		1 .
		,	周溝 C 区		A類	第2段高		1/	第2				:	. A margin 21 and prouving	•	1	3mm — "	I OYRB/3(	I OYRB/3(	
						第3段高 器高	(7.1) 26.4		突帯		1.6	0.55	;	ハケ調整A(8本/2cm)。 	摩耗のため観察不可能。			IOYR8/3(	10YR8/3(	
						口径 庭径	17.7	4	第1		2.1	0.6	第1段	ハケ調整 A (9本/2cm)、基部に底部設定工具 を離脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズリーナ デ?、または底部設定工具の痕跡。	ハケ調整A(9本/2cm)。ナデ。輪積み痕・ 指頭圧痕顕著。基部ケズリ・指頭圧痕。			7.5YR6/3(	7.5YR7/2(	
437	110				円筒形 埴輪	第1段高	4	-	突帯			0.0				1.	1m			透孔あり。ヘラ記号不明。
45/	119	60	1 c	12	A類	第2段高	8.2	] /	第2				第 4 校	ハケ調整 A (8本/2cm)。 	ナデ。ハケ調整A(9本/2㎝)。	良	Im ^m	7.5YR6/3(1	7. 5YR 7/2(	反転実測。
	- 1					第3段高	(13.4)	1/	突帯				第3段							
H	Ti			<del></del>		口径	1122.17	f	<del>                                     </del>		-	_	· ·			i	<u> </u>			
						底径	20.0	1	第1突帯				第1段	ハケ調整 A (8本/2cm)	ケ、			7.5 YR8/6(	7.5YR8/6(	
438	1 9	(2)			円筒形 埴輪	第1段高	(3.7)		大帝			- 1	第2段	444500		ĺ	径0.5~1mmの長石を少量、径1			
450	19	62	C	12	A類	第2段高			第2				务 Z 较			1	~2.5mmの石英を普通に含む。			
						第3段高	1	1/	突帯				第3段							
$\vdash$	1			┼╌┤		器高口径	(3.7)	<del> </del>	┼—	$\vdash$	-+			ハケ調整 A (8本/2cm)、基部に底部設定工具		<del> </del>				
1 1	- 1			1 1		底径	16.4	3	第1	1 1	1.7	0.5	第1段	を繋脱した際の痕跡あり。基部ケズリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	ハケ )、基部ケズリ。部 分的。::::i	1		7.5VR8/4(	7. 5YR8/4(	
	- 1		後平茶日古墳		円筒形	第1段高		/	突帯		'.'	0.3			ハケ調整A (8 /2cm) ・		l mm	-		
439	119	ου	周濱C	2	埴輪 A類	第2段高	<del></del>	1 /			1	$\neg$	第2段	ハケ調整 A (8本/2cm)	指頭圧痕。	; :	. mm .	:	7.5YR8/4(	j.
			X		, , , ,	第3段高		] /	第2	1		- 1	第3段			ĺ				
$\vdash$				1_1		器高	(16.2)	<u>/</u>	/				35 J KZ			<u></u>				
						口径 底径	29.7	0.5	第1		1.7	0.7	第1段	ハケ調整A(8本/2㎝)。	ハケ調整A(8本/2cm)、部分的にナデ・ 指頭圧痕。			5YR7/6(	7.5YF18/6(浅黄橙)	
	l				円筒形	第1段高	(4, 3)	-	突帯		1-/		<del></del> ÷		ハケ調整A(8本/2cm)、部分的に指頭圧	1	5nm	311(7) 0(	7.0110/0/2294(82)	透孔・ヘラ記号不明。反転
440	120	56 ⁻	1 _J C	12	埴輪 A類	第2段高	7.2	1 /				$\neg \uparrow$	第2段	ハケ調整 A (7本/2cm)。	痕あり。		!	-	7.5YR8/6(浅黄橙)	実測。
1					~~	第3段高	8.4	1/	第2 実帯		1.6	0.7	36 2 FO	口縁端部ナデ。ハケ調整 A (8本/2cm)。	<ul> <li>A (8 12cm) •</li> </ul>	1				
Щ		!		<u>└</u> _↓		器高	(23.2)	V					95 2 FX :	口標X6DD チッパク 調気2 A (645/2017)。	• A (8 1201)•	<u> </u>		5YR7/6(	7.5YR8/6( J	
		ı				口径	27.3	10	第1		l		第1段:							
	- 1				円筒形	底径 第1段高		ļ,	突帯			ŀ				!	径1mmの長石をやや少なく、径1			
441	120	71	С	12	埴輪 A類	第2段高	(5, 3)	/		$\longrightarrow$	+	$\dashv$	第2段	ハケ調整A(8本/2cm)。	tケ A (8 12cm)。	1	mmの石英を少量含む。径2mm程	2 5Y8/3(	2.5Y8/3(	۰
	- 1	l			ΑĦ	第3段高	9.8		第2		1.4	0.6				i	度のチャートを少量含む。		,	i
		_				器高	(16.5)	/	突帯				第3段:	口縁端部ナデ、ハケ調整 A (8本/2cm)。	A (9 /?am)。	1		2. SYS/3(	2. 5Y8/3(	
				ΙT		口径	26.0	3	ag ,				第1段			Γ				
		I			円筒形	底径			第1 突帯			- 1	PR TPX			ļ				
4421	120	57 ₁	В	12	埴輪	第1段高	72 -3		1				第2段:	ハケ調整A。	ケ A (9 12cm),	l	径1mmの長石、径immの石英を	101/6 0/4/	10 1/4 0 / 4 /	0 0
	- 1	1	ь		B類	第2段高 第3段高	(0.8)	/	第2			- 1			0	ļ	やや少なく含む。	10 Yf 8/4(	10YA 8/4(	J
	- 1					来 3 投高	(12.4)	/	突帯			I	第3段	ハケ調整 A (8本/2cm)。	Ιケ A (10 12cm)		·	10YR8/4(	10 YR 8/4(	
	$\neg +$					口径		ř					<del></del>			<del>i                                     </del>	<u> </u> 			
	- 1	- 1	後平茶			底径			第1突帯				1 4		^J ታ A					
443	120		臼古墳		円簡形 埴輪	第1段高			(X-07)					# A (B. /2m²)	ハケ調整A(9本/2cm)、部分的にナデ・	1	2mm			
773	الما	- 1	周溝C 区		·····································	第2段高	(6.8)		第2				2 ;	ケ A (B /2cm)	指頭圧痕。		0	5YR6/3(	5 YRI / 41	
	- 1					第3段高	(1.2)	/	ポイ 突帯		1.51	0.5	3 •	。I ケ A (S 12cm),	., A (9 /2,m)			EVD(/2/	5 YR 7/4( J	
						器高	(9.5)	<u></u>		$\sqcup$			:			<u> </u>	<u> </u>	5 YR6/3(	3 IK // 4( J	L

			Ι	T	T	j j	ŧ 1	ŀ	Т	突	帯			ᆁ		T				
				1	分類	部位	cm	残存率	部位	形状	幅	高さ				İ	1			
						口径			<b></b>				第1段			1				
						底径			第1 突帯				粉!按:							
45?	121	57	 1   ⁰	1 2	円筒形 埴輪 B類	第1段高	(2.3)	/	1	-			第2段	ハケ調整 B (18本/2cm)。	ハケ調整B(13本/2cm)、部分的に指頭 圧痕あり。	良	1, rn [ : - 3"	تد -	7.5YR7/4(	^ ¢
						第3段高 器高	8.9 (12.7)		第2		1.5	0.7	第3段	ハケ調整 B (17本/2cm)。	口縁端部ナデ。ハケ調整 B (13本/2cm)、 輪積み痕あり。			7.5YR7/4( L1	7.5YR7/4(	
			後平莽			口径 底径			第1 突帯		1.6	0.6	第1段	ハケ調整日(20本/2cm)、基部に底部設定工具を離脱した際の痕跡あり。基部ケズリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	ナデ、指頭圧痕、ハケ調整B (17本/2 cm)。基部ケズリ。			, YRJ/6(	5 YR 7/6(	
453	121	61	C7-2-48	. !	円筒形 埴輪 B類	第1段高 第2段高							第2段	ハケ調整 B (19本/2㎝)。	ハケ調整 B (19本/2cm)。		2, . 2mm 5nmn	5 YR 7/6(	5YR7/6(橙)	
						第3段高 器高	15.7		第2 突帯				第3段							
					iri ma w	口径 底径	21	2	第1字帯		1.5	0.6	第1段	ハケ調整 B (19本/2cm)、基部に底部設定工 具を離脱した際の指頭圧痕あり。基部ケズ リ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	ナデ・指頭圧痕、ハケ調整B。基部ケズ リ。			2.5Y7/3(浅 黄)~7.5 YR7/4(にぶい橙)	10YR7 4 に 9 4 橡)	
454	121	61	C	2	円筒形 埴輪 B類	第1段高			第2				第2段	ハケ調整 B (19本/2cm)。	ハケ閼整B(15本/2㎝)。		m程度 ・チャート 含む。	2.5Y7/3(浅 黄)~7.5 YR7/4(にぶい橙)	10YR7 4 に 9 権)	i ≼)  · 1),
				<u> </u>		第3段高	(12.1)	/_	突帯				第3段	ハケ調整B(18本/2cm)、基部に底部設				-		
			後平落			底径		3	第1 突帯		1.5	0.7	第1段	アリー 新発音(18本/2cm)、泰部に底部設定工具を離脱した際の痕跡あり。基部ケズリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	.l 8 (19 /2 cm) .			5YR7/4(	5YR7/6(	
455	121	60	臼古墳 周清C 区		円筒形 埴輪 B類	第1段高 第2段高	(4.1)		第2				第2段	ハケ調整 B (18本/2㎝)。	8 (19 /2am) ""		2nmn Imm 。1nm	5YRI /4( 、億)	5 YR 7/6(	透孔あい、ヘラ記号不明。 反転実測。
			-			第3段高 器高	13.7		突帯				第3段							
			後平落		/Deeps	底径	27	3	第1 突帯				第1段							透孔あり。ヘラ記号不明。
4561	122	58			円筒形 増輪 A類	第1段高 第2段高	(0,4)		第2				2		A (8 12m)		Im 1, "' C	10YR6/2(	IOVR6/4(	透れめり。ヘラ記号不明。 K15区とも接合、反転実 測。
						第3段高器高	9.3		突帯		1.31	<b>●.</b> 1 1	3	. A (8 /2	₀I A (8 12cm),		***************************************	IOYR6/2(	10YR6/4(1 ⁻	
						口径 底径			第1 突帯				第1段							
4571	122	59 ⁻	1		円筒形 埴輪 A類	第1段高 第2段高	(2.7)					-	第2段	ハケ調整A(9本/2㎝)。	A (B /2cm)。		径4mm以下の長石を普通に、径 5mm以下の石英を少量含む。	5YR7/3(	7.5YR7/4(1	
				<u> </u>		第3段高 器高	(3,8)		第2 突帯		1.5	0.7	第3段	ハケ調整A(8本/2cm)。 	A (8 /2, m),			5YA 7/3(	7.5 YR7/4(1C -l' '	
					円筒形	底径	(0.0)	ļ	第 i 突帯		1.4	0.6	1 ,	A (S 12cm)	A (9 12am)		径1.5mm程度の長石を普通に、	5YR7/4(にぶい橙)	5YR6/6(	
458	122	60	L 15	1 1	道輪 A類	第1段高	(3.6)		第2				2	/\ A (8 /2w).	A (8 /2cr).	やや 良	任: . Smife及び長相を審通に 径1~6mm程度の石英を審通に 含む。	5YR7/4(にぶい橙)	5YR6/6(橙)	透孔あり。ヘラ記号不明。 」 15・L 14区とも接合
	1					第3段高器高	(10.6)	/	突带				3							
					円筒形	底径	11 = 1		第1 突帯		1.71	0.6	1	A (8 /2ao)。	A 8 /2cmL			oYR7/6(	5YR7/6(	
4591	122	591	1 25	D	埴輪 A類	第1段高	(4.5)		第2				2 :	A (8 /2 •	ハケ講整 B?(11本/2cm)、部分的に指頭 圧痕あり。		::	5YR7/6(橙)	5 YR7/6(	• •
-						第3段高器高	(12.9)		突帯				3							

掲載	捧図	写真	出土区 層位 3	Δ幅	法	1			突			清 <u>整</u>			9/4	色			
番号	図版	図版	MIK	PRINT LIAL	77 %R	部位	cm	残存率	部位	形状	幅	高さ	: 外面	内 面	焼成	胎土	外 面	内面	演 考
						口径			<b>.</b> .				:ハケ調整B(19本/2cm)。基部に底部設	上二、1555FF (数图5)第二节 (数 4. 元年)					
- 1				1		底径	18	2	第1		1.6	0.6	第1段・定工具を離脱した際の痕跡あり。基部ケ ズリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	ナテ、指頭は根頭者 o 整部 ケスリ。			7,5YR7/4(にぶい橙)	5YR7/6(橙)	
468	122	61	L 151X	п	円筒形 埴輪	第1段高	7.8	/	1^"		i		:			径1㎜の長石を少量、径1~2㎜			反転実測。
700	122	01	L 15/ks	"	B類	第2段高	(1,9)		<b>.</b>		Ţ		95 2 FX 7 17 39 36 D 5	ハク調整 B (20本/2cm)。	普通	の石英を普通に含む。	7.5YR7/4(にぶい橙)	5YR7/6(槍)	<b>汉</b> 和美测。
- 1						第3段高	縞		第2 突帯		1		第3段:	1	- 1			1	
			1			器高	(11.3)	/	10.00				96 3 492 7						
1			1			口径			I				・ハケ調整 B (18本/2cm)、基部に底部設	**************************************					
						底径	16.2	2	第1 突帯		1.7	0.5	第1段・定工具を離脱した際の痕跡あり。基部ケ スリ・ナデ?、または底部設定工具の痕跡。	基部ゲスリ。アナ・僧如庄復。			7.5YR7/4(にぶい橙)	5YR8/4(淡橙)	)
469	122	61	L 23⊠	ш	円筒形 埴輪	第1段高	(0.2)	/	1 ~ "				第2段・ハケ調整日。		***	径1〜1,5mm程度の長石を普通 に、径1〜2,5mm程度の石英を			透孔あり。反転実測。
703	.22	0.	2.50		B類	第2段高	8.4						96 2 PX 7 7 7 54 38C 13 6	]:	不良	ル、住1〜2、5MR程度の石矢を 少量含む。	7.5YR7/4(にぶい橙)	5YR8/4(淡檀)	12.71.007-76/天平4 天 769。
						第3段高			第2				第3段:			,		1	
	J		]			器高	(10.3)	V	^ "	] ]			mosex;		- 1			1	]

## 第15表 鉄製品観察表 単位:cm

掲載 番号	名 称	出土位置	層位	全長	鏃身部長	鎌身部 最大幅	箆被部長	箆被部 最大幅	茎部長	備考	挿図 図版	写真
356	短頸鏃	盗堀孔	L	(2.15)	(2.15)	(1.85)				三角式鎌身部。	107	74
357	長頸鏃	主体部	L	(3.60)	2.50	0.80	(1.10)	(0.50)		片羽式鏃身部。	107	74
358	長頸鏃	主体部	L2	(2.70)			(1.30)	(0.65)	(0.90)	片刃式镞身部。	107	74
359	長頸鏃	主体部	L	(3.40)			(3.40)	(0.55)		類部片。	107	74
360	長頸鎌	主体部	Ļ	(3.35)			(3, 35)	(0.65)		頸部片。	107	74
361	長頸鏃	主体部	L	(3.10)			(3.10)	(0.55)		<b>頸部片</b> 。	107	7
362	長頸鏃	主体部	L	(2.20)			(2.20)	(0.60)		類部片。	107	7.
363	長頸鏃	主体部	L	(2.50)			(2.50)	(0.60)		類部片。	107	7.
364	長頸鏃	主体部	L	(2.35)			(2, 35)	(0.65)		類部片。	107	7.
365	長頸鏃	主体部	L	(6.60)			(6.60)	(0.50)		類部片。	107	7
366	長頸鏃	主体部	L	(5.80)			(5.80)	(0.70)		頸部片。	107	7
367	長頸鏃	主体部	L	(3.35)			(2,00)	(0.70)	(1,35)	台形状の頸関部を有する。頸部~茎部片。茎部樹皮巻・木質残存。	107	7
368	長頸鎌	主体部	L	(2.85)			(1,65)	(0.80)	(1.20)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹皮巻?・木質残存。	107	7
369	長頸鎌	主体部	L	(2.00)			(1.30)	(0.85)	(0.70)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹木質残存。	107	7
370	長頸鏃	主体部	L	(2.00)			(0, 70)	(0.90)	(1.30)	台形状の頸関部を有する。頸部~茎部片。茎部樹皮巻?残存。	107	7
371	長頸鏃	主体部	L	(1.50)			(1.00)	(0.70)	(0.50)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。	107	7
372	長頸鎌	主体部	L	(3.65)			(2.20)	(0.80)	(1.45)	台形状の類関部を有する。頚部~茎部片。茎部樹皮巻残存。	107	7
373	長頸鏃	主体部	L	(3.80)			(1.55)	(0.85)	(2.30)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹皮巻?残存。	107	7
374	長頸鏃	主体部	L	(5.65)			(4.65)	(0.60)	(1.00)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。	107	7
375	長頸鏃	主体部	L	(6.50)			(5, 60)	(0.75)	(0.90)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹皮巻・木質残存。	107	7
376	長頸鏃	主体部	2Tr	(9.10)			(7.70)	(0.90)	(1.40)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹皮巻残存。	107	7
377	長頸鏃	主体部	L	(3,55)			(1,35)	(0.90)	(2.20)	台形状の類関部を有する。類部~茎部片。茎部樹皮巻?残存。	107	7
378	長頸鏃	主体部	L	(2.40)					(2.40)	茎部片。樹皮巻残存。	107	7
379	長頸鏃	主体部	L	(2.25)					(2.25)	茎部片。木質残存?	107	7
380	長頸鏃	主体部	L	(2.50)					(2,50)	茎部皮巻?残存	107	7
381	長頸鏃	主体部	L	(4.00)					(4.00)	茎部片。木質残存?	107	7
382	刀子	主体部	L	(1.65)	(1.65)	(0.95)				切先	107	7
383	刀 <del>?</del>	主体部	L2	(1.90)	(1.90)	(1.15)				切先	107	7
384	刀子	主体部	L	(3.60)		(0.70)				鞘木質残存。	107	7

掲載 番号	名 称	出土位置	層位	全長	最大幅		<b>質量</b> (g)	備考	挿図 図版	写真 図版
385	鉸具	後平茶臼 古墳埋葬 施設内		(6.20)	4. 60		(29.1)		107	7 4 76
386	鉸具	後平茶臼 古墳主体 部	L	(6.20)	4.50		(27.6)		107	7 4 76
387	**	後平茶臼 古墳主体 部	L.LL.L2	24.30	17.30		(320.0)	木心鉄板張輪鎧。質量は保存処理後に計測。	108	7 5 76
497	轡	後平1号 古墳		(30.00)	8.00		(235.5)	栗環鏡板付轡	125	7 5 76

L:床面想定の高さ L2:盗掘孔埋土下層(床面想定ラインより下位レベル)

## 第16表 石器観察表 A地区

わ! 掲載 番号	出土区	層位	器種	時期	石材	加工	素材形態	素材技術	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	備考	挿図 図版	
7	K 15	П	石鏃	不明	珪岩	HP	不明	不明	26	17.1	5.9	トロトロ石器の可能性もある。	27	7
3	H14	NU	石鏃	不明	珪岩	HP	剥片	不明	17.9	20.4	6.7		27	
	H14	T _V	石鏃	不明		НР	不明	不明	17.7	18.9	4.1		27	Ŧ
-	H15	$\pm \frac{1}{v}$	石鏃	不明	珪岩	SP	不明	不明	21.4	16.4	4.1	The state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the s	27	1
	l 14	īv.	石鏃	不明	珪岩	HP	不明	不明	13.5	16.3	3.6		27	+
2	114	- v	石鏃	不明	下呂石	нР	不明	不明	18	16.1	3.9		27	
3	114	- <del>  v</del>	石鏃	不明	珪岩	HP	不明	不明	17.3	15.4	5.1		27	
4	115	- V	石鎌	不明	珪岩	HP	両極剥片	両極打撃	19.5	14. 1	3.9	A LANCE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR OF THE CONT	27	_
5	115	V	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	16.8	12.6	3.5		27	_
6	J14	- NO	石鏃	不明	下呂石	SP	不明	不明	17.8	14.7	3.2		27	_
7-	K 14	- 🔻	石鏃	不明	下呂石	SP	不明	不明	20.4	17. 1	3.5		27	
8	K 16	v	石鏃	不明	サヌカイト	SP	不明	不明	18.8	16.7	2.8		27	_
9	L 14	- 🔻	石鏃	木明	珪岩	HP	不明	不明	17.2	14.6	3.8		27	_
0	L 14	_	石鏃	不明	赤珪岩	HP	不明	不明	17.3	15.1	3.2		27	
1	I 14	ίν	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	19.9	16.9	4.3		27	
2	115	v	石鏃	不明	下呂石	SP	不明	不明	19.8	14.4	3.4		27	_
3	K14	v	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	18.8	10.7	2.8		27	
4	1 14	v	石鏃	前期?	下呂石	SP	不明	不明	20.2	11.5	3.9		27	
5	K 14	v	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	19.3	16.1	4.8		27	
6	J ₁₃	v	石鏃	不明	珪岩	HP	不明	不明	23.4	16.3	4.6		27	
7	J 13	v	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	29	15.9	4.7		27	_
8	14	_ v	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	28.3	9. 4	3.6		27	_
9	K 14	IV	石鏃	不明	下呂石	HP	不明	不明	25	11.4	4.6		27	_
0	J 15	ΝU	石鏃	不明	サヌカイト	SP	不明	不明	19.8	13.3	3.2		27	
1	H14	v	石鏃	不明	五角形凹基	HP	不明	不明	25	17.1	3		.27	_
2	1 14	V	石鏃	不明	サヌカイト	SP	不明	不明	26.2	18.8	3.6			
3	L 14	v	石鏃	不明	下呂石	HP	両極剥片	両極打撃	22.5	17.7	3. 1		27	
4	L-15	NB	器種不明	不明	珪岩	HP	小礫	なし	21.3	20	5.9	尖頭器断片?。	27	
5	1 12	MB	石鏃未製品	不明	赤珪岩	HP(不規則)	両極剥片	両極打撃	16.8	13.6	3.8			
6	1 14	v	石鏃未製品?	不明	珪岩	HP	剥片	不明	26.8	21.3	7.2	末端辺に石鏃の拝圧剥離の加工痕。	.27	
7	J 14	- <del> </del> v -	削器	不明	<b>珪岩</b>	HP	縦長剥片	垂直打擊	35,9	20.8	8.2	正面左側辺は古い折れ面。加工はそれを切っている。	28	
8	K 14	V	水晶の礫	不明	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし	22	24	22		28	
9	H 8	N	削器	不明	珪岩	HD	剥片	直接打擊	43.7	38.8	15.2	両側辺に潰れ痕や微細剥離が観察できる。蓋柄痕の可能性がある。	28	
10	14	IVB		不明	ホルンフェルス	HD	剥片	直接打擊	55	41.5	14.6	鋸歯状の部の削器。	28_	_
31	J12 _	v	石核	不明	珪岩	HI	礫片	HD	22.6	24.5	21.8		28_	
32	114	v	両極剥片	不明	サヌカイト	なし	剥片	両極打撃	25.8	30	8.2		28	
33	K14	v	両極石器	不明	珪岩	HvD ⋅ HP	剥片	垂直打擊	19.1	18.4	6.5	ピエスエスキーユの末端片に不規則な押圧剥離をした石器。石鎌未製品の可能性あり。	28	
94	K 14	v	両極剥片	不明	珪岩	なし	剥片	両極打撃	23. 1	14.4	6.6		28_	4
os -	1 14	V	両極剥片	不明 不明	下呂石	なし	剥片	両極打撃	33.2	16.1	8.8	裏面側の側辺の剥離は不規則剥離。	28	

掲載 番号	出土区	層位	器種	時期	石材	加工	素材形態	素材技術	長 (mm)	幅(prop.)	厚 (mm)	僕考	挿図 図版	写真図版
125	F 12	N	打欠石錘	不明	砂岩	HD	扁平小円礫	なし	45	35.3	10.5		32	80
126	J 14	V	打欠石錘	不明	砂岩	HD	扁平小円礫	なし	67.5	48.7	27.5		32	80
127	H15	V	磨石・敲石	不明	安山岩	なし	楕円礫	なし	96.2	78.5	46		33	81
128	SUA01	1	敲石	不明	細粒砂岩	なし	小楕円礫	なし	79.7	56.3	33.3	叩き痕は使用痕。	33	81
129	f 14	v	扁平特殊磨石	不明	砂岩	研磨・敲打	扁平礫	なし	144.4	53.4	24.6		33	81
130	SBA07	3	敲石	不明	砂岩	なし	長楕円礫	なし	113.4	45.2	24.8	表裏面と端部に叩きの使用痕。	33	81
131	K 14	v	特殊磨石	早期末	砂岩	なし	楕円礫	なし	145.4	89.2	53.8		33	81
132	SBA13	1	敲石	不明	凝灰岩	なし	長楕円礫	なし	61.2	56.1	31.4		33	81
133	SZA03		敲石	不明	砂岩	なし	楕円礫	なし	87	100.8	43	表裏に敲打の使用痕。側面にザラザラの機能面。	33	81
134	SBA06	1	敲石	不明	砂岩	なし	長楕円礫	なし	104.8	66.4	53	使用痕は表裏側面に敲打の使用痕。	34	80
135	SZA01	1	石皿	不明	砂岩	なし	扁平礫	なし	171.2	89.6	60		34	80
136	SBA06		石皿	不明	砂岩	なし	不明	なし	185.7	80.9	97.8		34	80
155	G15	I	敲石	不明	細粒硬質凝灰岩	なし	楕円礫	なし	134.5	112.3	78	端部に叩きの使用痕。柔らかい対象物に使用。トチ敲き石の使用痕に近似。	45	81
183	G 6	I	砥石	不明	砂岩	なし	不明	不明	214.8	153.2	68.4	細い溝状の砥面が数条観察される。	54	81
184	J 15	П	砥石	不明	細粒砂岩	なし	不明	不明	136.6	52.9	43.1	金属に使用する砥石。	54	81
256	J †5	ш	石錐素材礫	不明	砂岩	なし	扁平小円礫	なし	46.8	29.1	11.3		77	81
490	J 14	Ш	石鏃	不明	下呂石	НР	剥片	不明	39.3	19.7	4.5		124	82
491	G14	Ш	磨製石鏃	弥生	凝灰岩	研磨	不明	不明	14.8	28.6	3.2	基部の断片	124	82
492	I 13	Ш	石包丁	不明	頁岩	研磨	不明	不明	51.6	53.8	8.8		124	82
493	G16	Ш	石包丁	不明	片岩	研磨	不明	不明	59.3	74.2	11.1		124	82
494	I 11	Ш	石檔	不明	砂岩	敲打	不明	不明	81.3	38.4	33.4		124	82
495	J 15	I	砥石	不明	砂岩	研磨	不明	不明	101.1	50.4	22.3		124	82
496	L 14		砥石	不明	砂岩	研磨	不明	不明	112.3	80.5	10.4		124	82

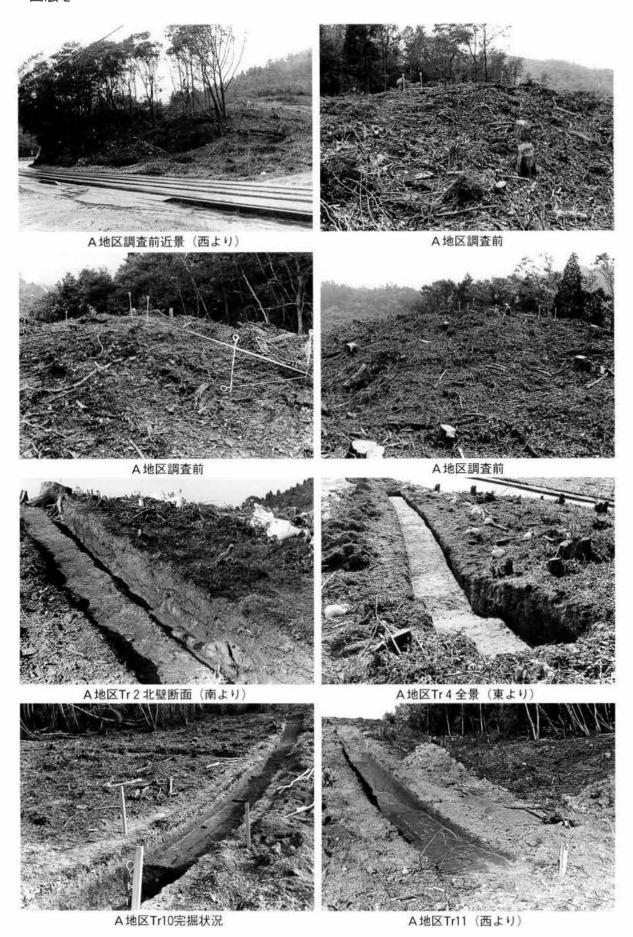
## 第17表 石器観察表 B地区

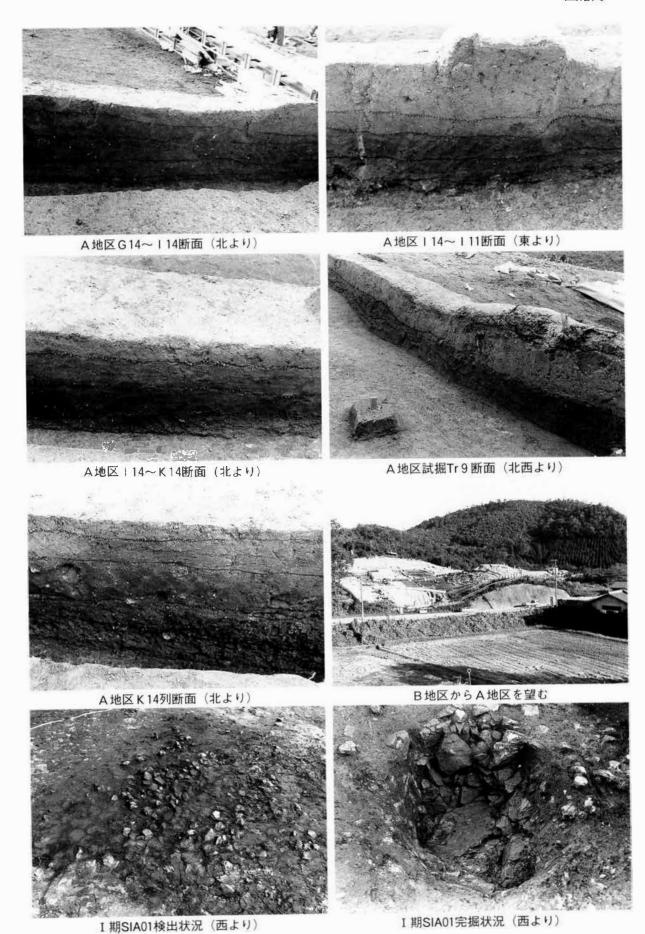
掲載 番号	出土区	層位	取上番号	器種	石材	加工	素材技術	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	<b>挿図</b> 図版	写真 図版
533	BE12	П	198	水晶の小礫	水晶	なし	なし	19	11	9	147	82
534	BM11	v	368	水晶の小礫	水晶	なし	なし	14	9	7	147	82
535	BN9	V	355	石鏃	下呂石	SP	不明	19.4	12.1	2.8	147	82
536	SDB01	1	287	剥片	下呂石	なし	直接打擊	25.5	25.3	10.1	147	82
537	SDB01	1	282	石鏃	下呂石	HP	不明	35.1	16, 1	6.1	147	82
538	SBB04	1	119	砥石	砂岩	なし	不明	120.1	68.6	<b>3</b> 0.3	147	82
539	ВМ11	IV	349	片刃礫器	ホルンフェルス	HD	直接打擊	102.6	104.1	48.8	147	82
540	SDB01	1	290	両極剥片	頁岩	なし	両極打撃	50.1	16. 9	7. <b>7</b>	147	82

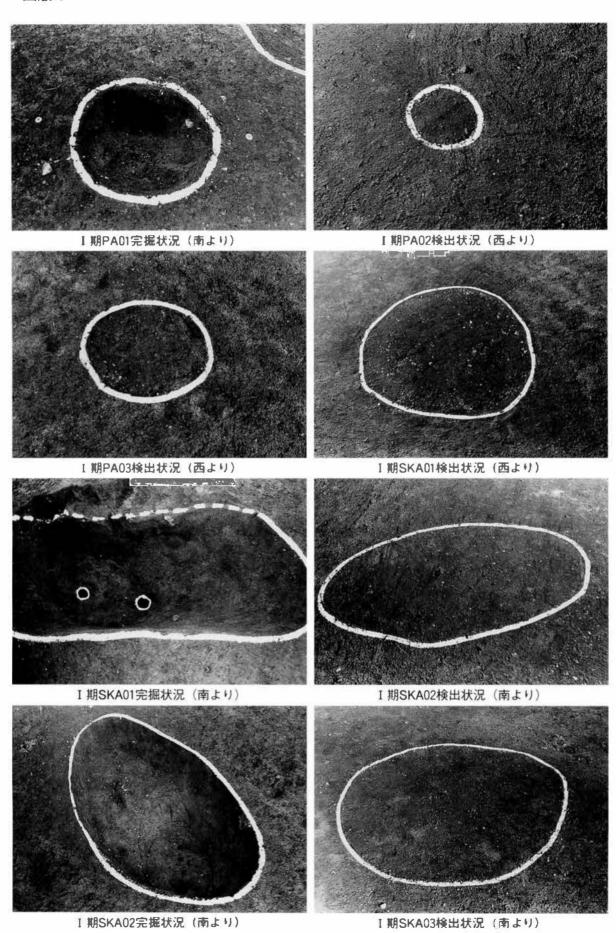
## 図 版

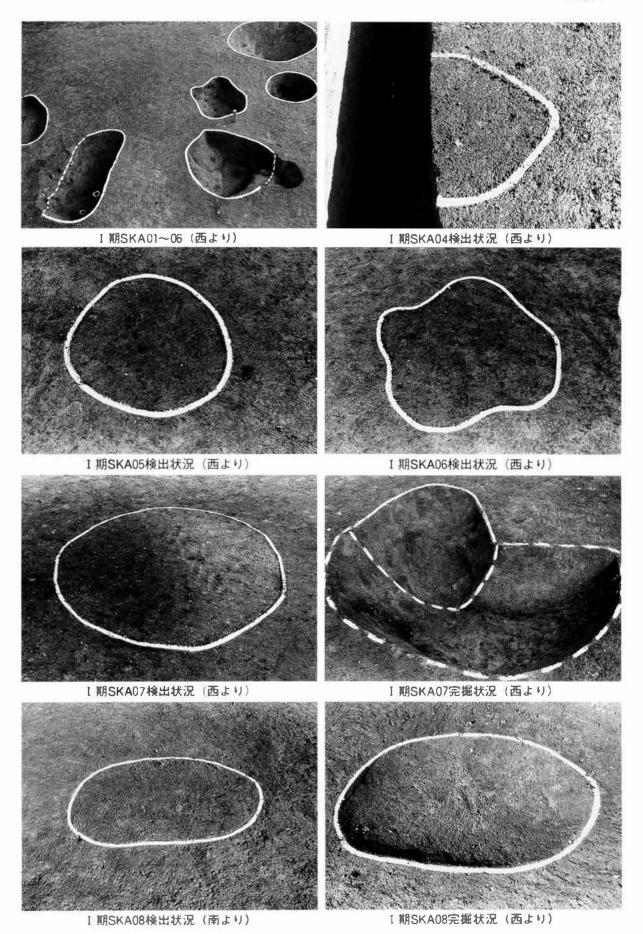


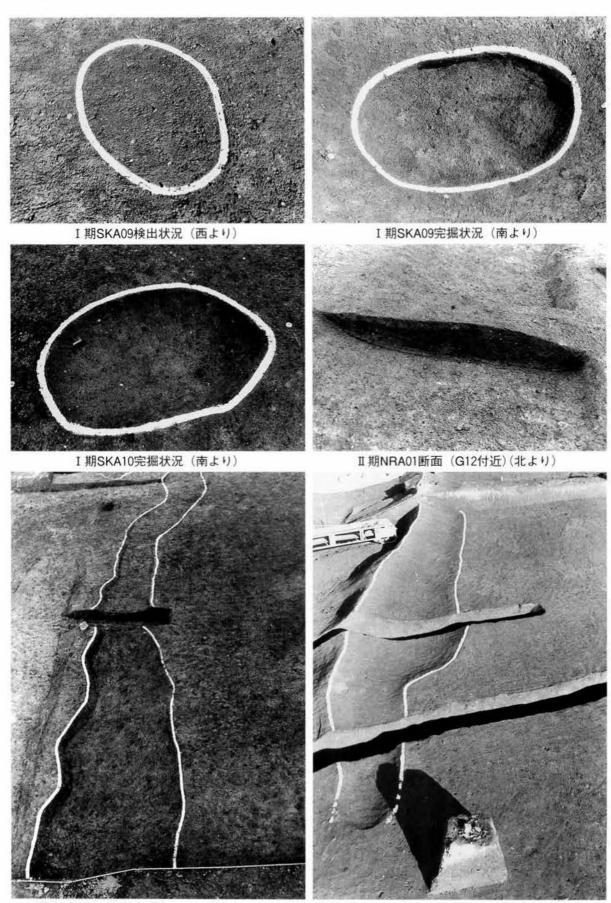
後平茶日古墳・後平1号古墳・後平遺跡空中写真撮影(南より)





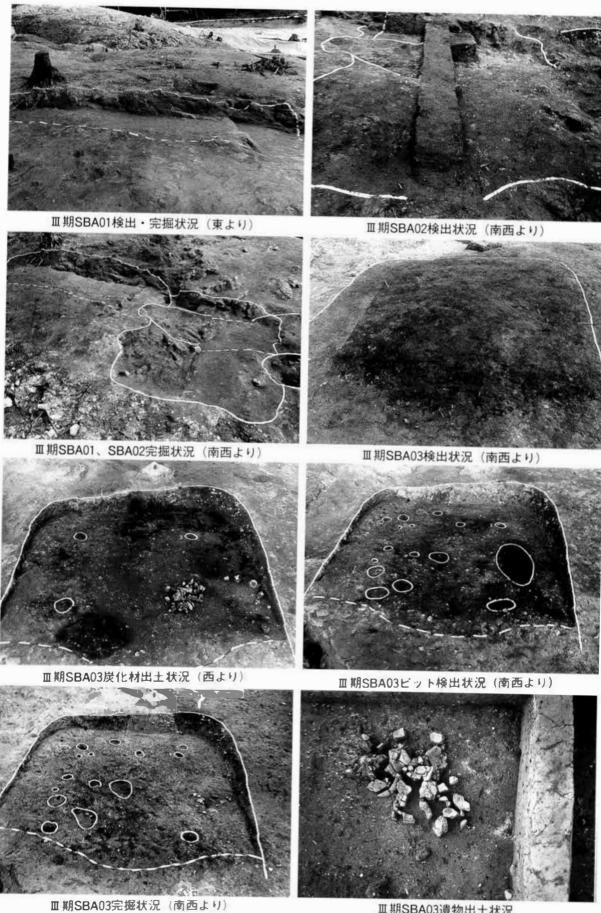




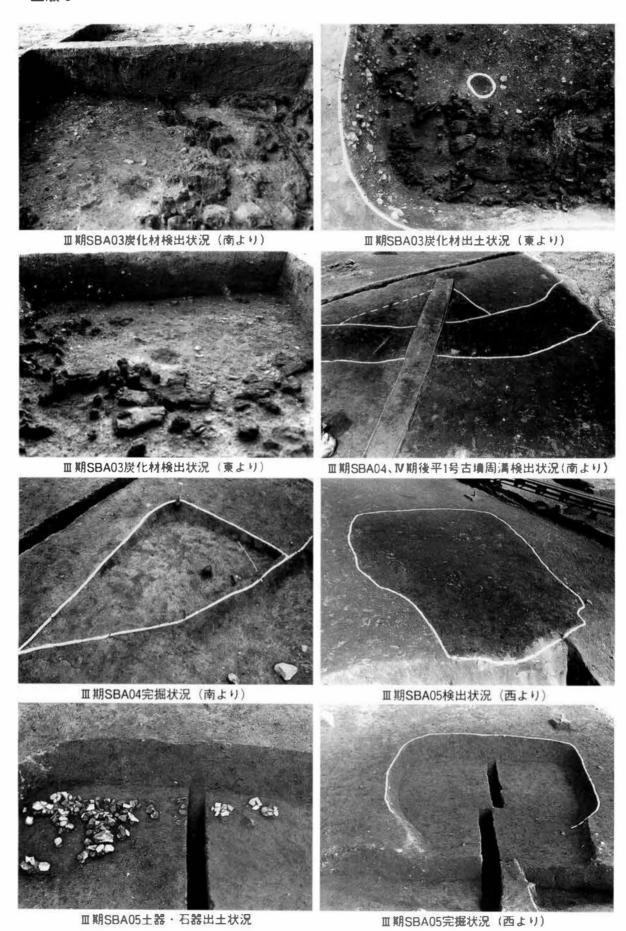


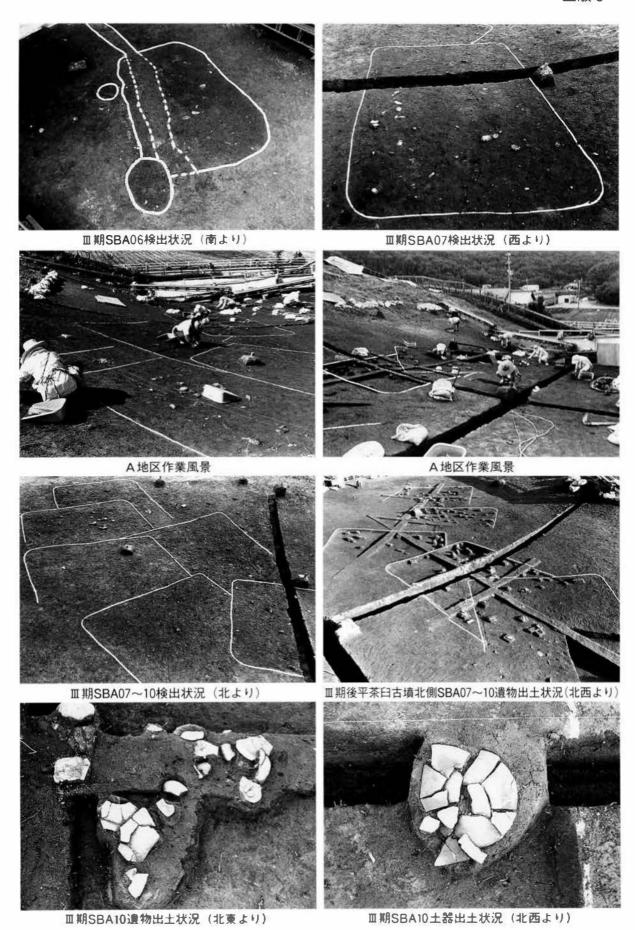
Ⅲ期NRA01完掘状況 (南より) 10列~12列まで Ⅲ期

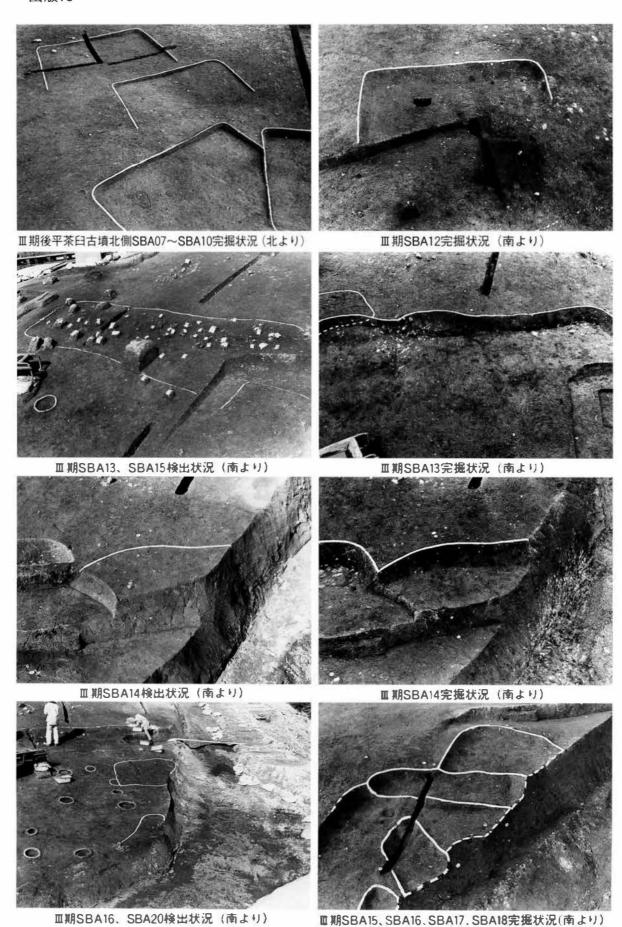
Ⅲ期NRA01完掘状況 (南より)(14列より南)

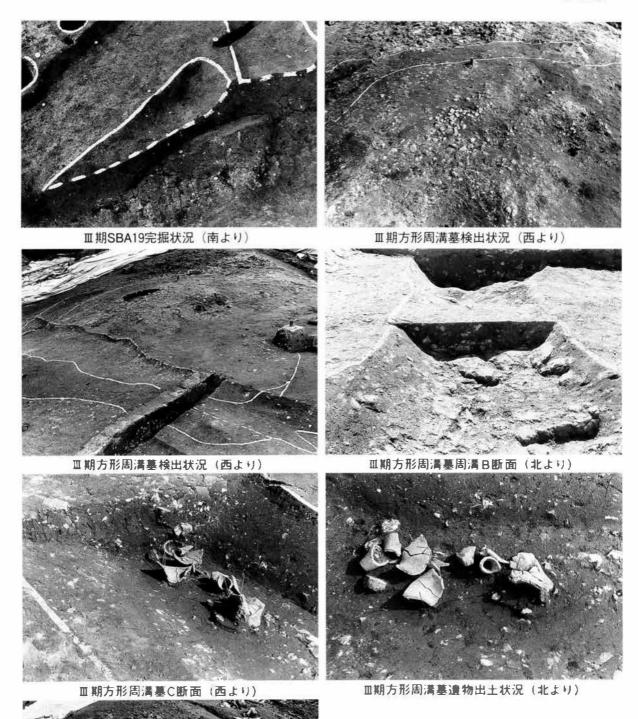


Ⅲ期SBA03遺物出土状況

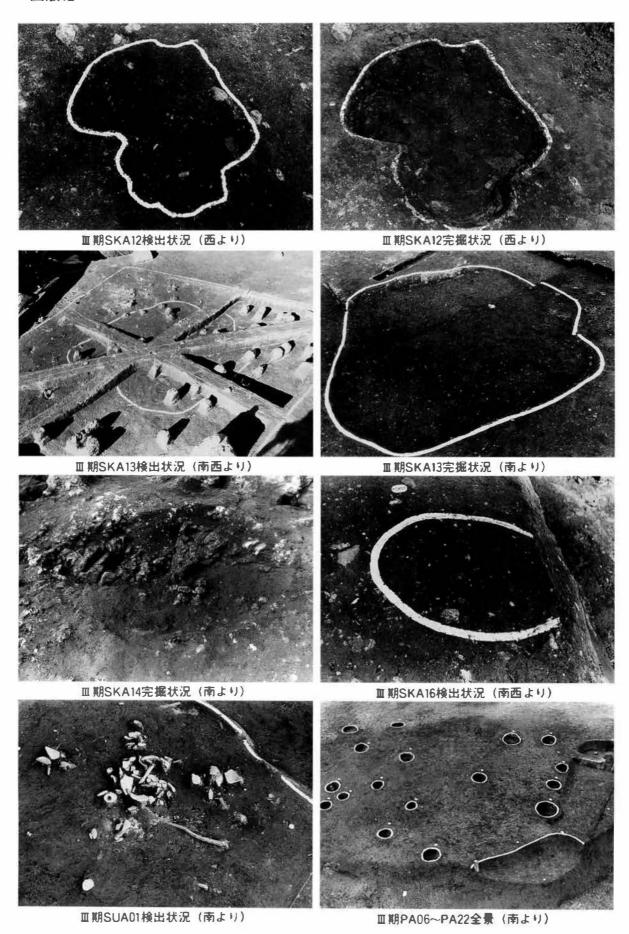


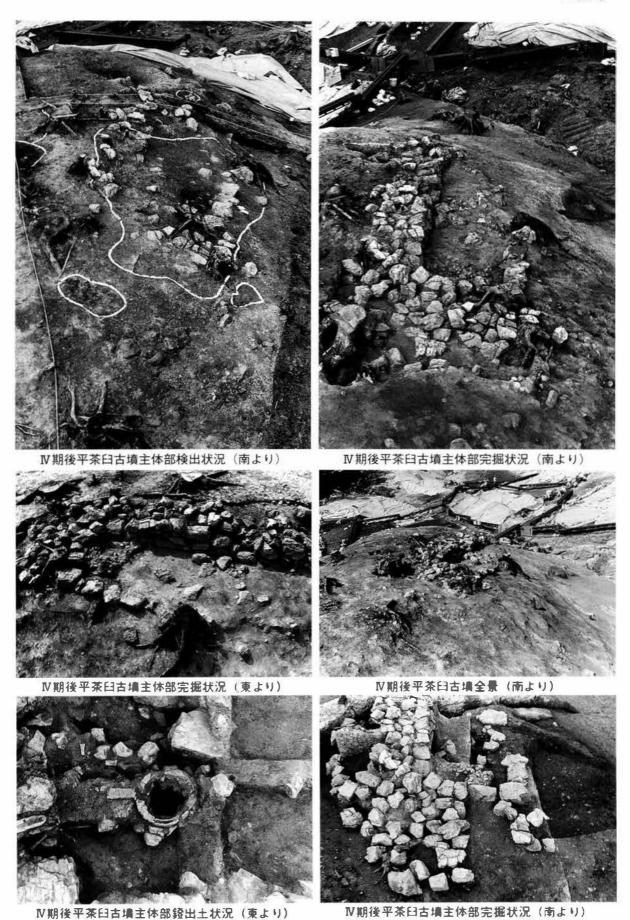






Ⅲ期方形周溝墓完掘状況(南西より)







Ⅳ期後平茶臼古墳周溝検出状況(東より)



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝B区断面(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主軸東西アゼ (北より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主軸東西アゼ(北より)



IV期後平茶臼古墳周溝C区断面(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝C区断面(南より)



IV期後平茶臼古墳周溝C区断面(南より)



B地区からA地区を望む



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況(南より)



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝遺物出土状況(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝B区埴輪出土状況(西より)(413、423)



Ⅳ期後平茶臼古墳周溝内埴輪出土状況(東より)



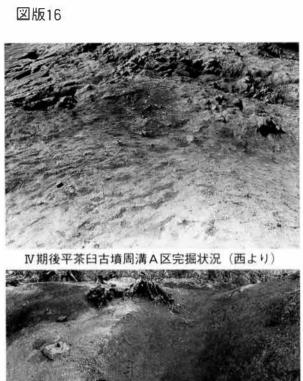
Ⅳ期後平茶臼古墳周溝内埴輪出土状況(東より)UP



N期後平茶臼古墳B区作業風景



A地区作業風景





Ⅳ期後平茶臼古墳周溝C区完掘状況(東より)



IV期後平茶臼古墳全景(東より)



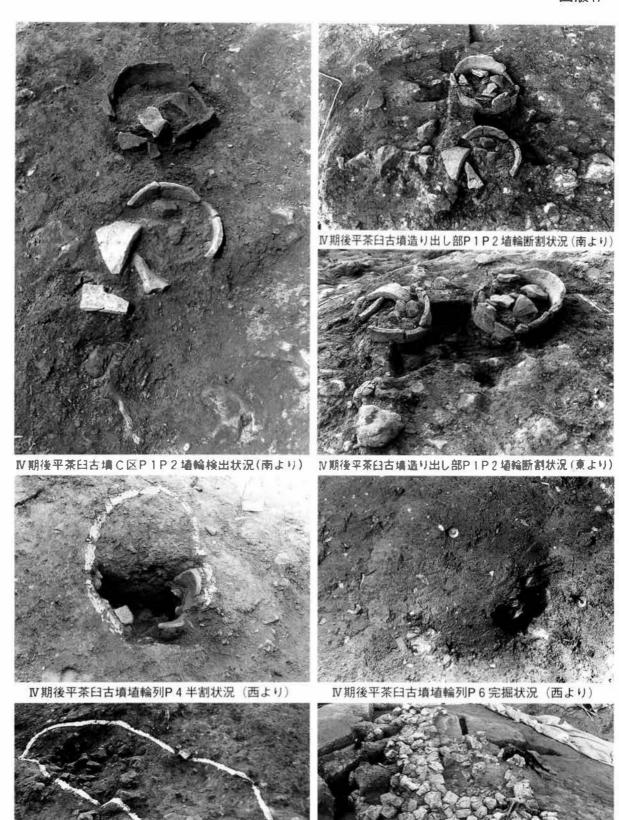
Ⅳ期後平茶臼古墳周溝A区完掘状況(北より)



IV期後平茶臼古墳周溝B区完掘状況(南より)



Ⅳ期後平茶臼古墳周清C区完掘状況(北より)



Ⅳ期後平茶臼古墳造り出し部埴輪列完掘状況(南より) Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(南より)



N期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)



IV期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)





Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より) Ⅳ期後平茶臼古墳主体部控え積み検出状況(西より)





Ⅳ期後平茶臼古墳盗掘範囲検出状況(南より)



Ⅳ期後平茶臼古墳検出状況(南より)



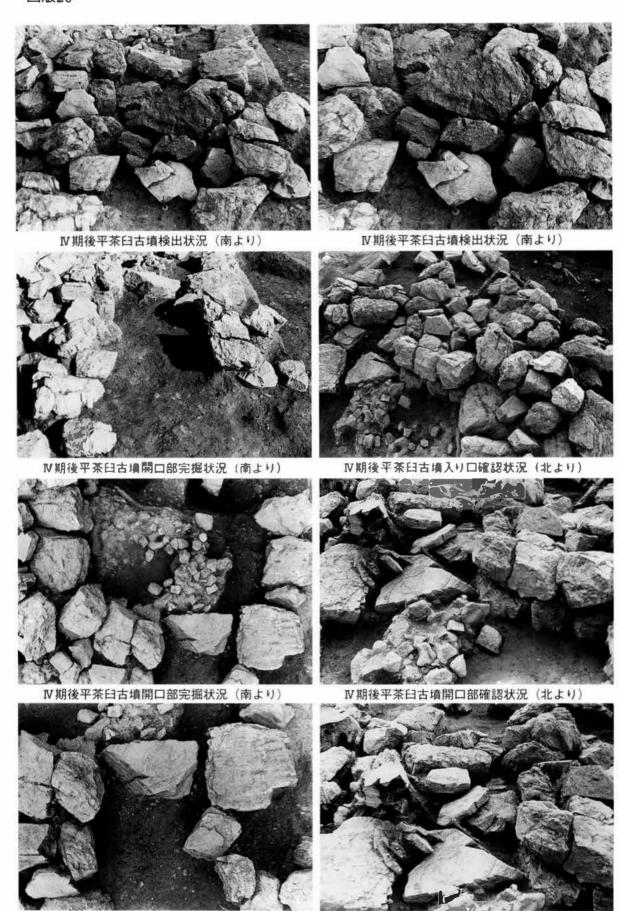
IV期後平茶臼古墳盗掘範囲完掘状況(南より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部盗掘坑掘削状況(東より)

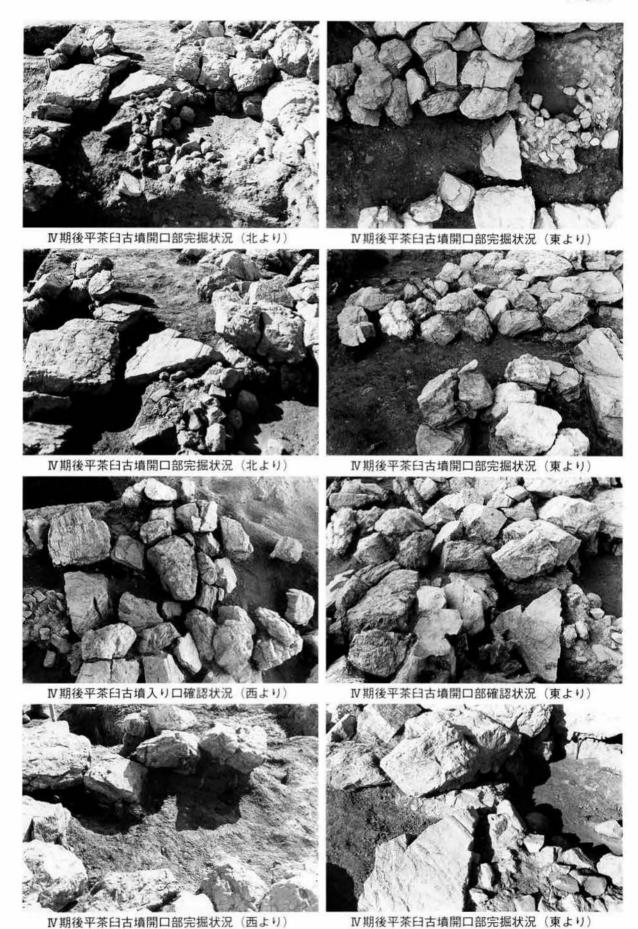


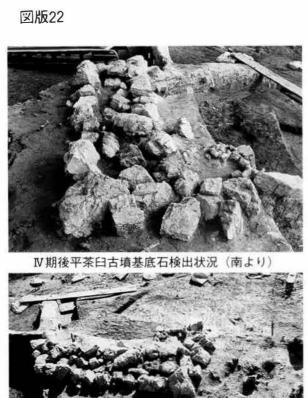
Ⅳ期後平茶臼古墳検出状況(南より)



Ⅳ期後平茶臼古墳開口部完掘状況(南より)

Ⅳ期後平茶臼古墳開口部確認状況(北より)







Ⅳ期後平茶臼古墳石室西側壁解体状況(下から2段目)(西より) Ⅳ期後平茶臼古墳石室西側壁解体状況(下から2段目)(西より)





Ⅳ期後平茶臼古墳基底石検出状況 (西より)



Ⅳ期後平茶臼古墳石室解体状況(下から2段目まで)(北より)





Ⅳ期後平茶臼古墳B区第II工程検出状況(南より) Ⅳ期後平茶臼古墳B区第II工程検出状況(南より)



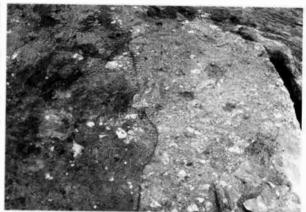
IV期後平茶臼古墳主休部断面



IV期後平茶臼古墳主体部断面



Ⅳ期後平茶臼古墳西側壁(東より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部掘削状況(南より)



IV期後平茶臼古墳主体部断面



Ⅳ期後平茶臼古墳主軸アゼ(南より



Ⅳ期後平茶臼古墳石室開口部半割状況(東より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部Cライン(東より)



Ⅳ期後平茶臼古墳主体部Bライン(北より)





Ⅳ期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面全景(東より) Ⅳ期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面①(東より)



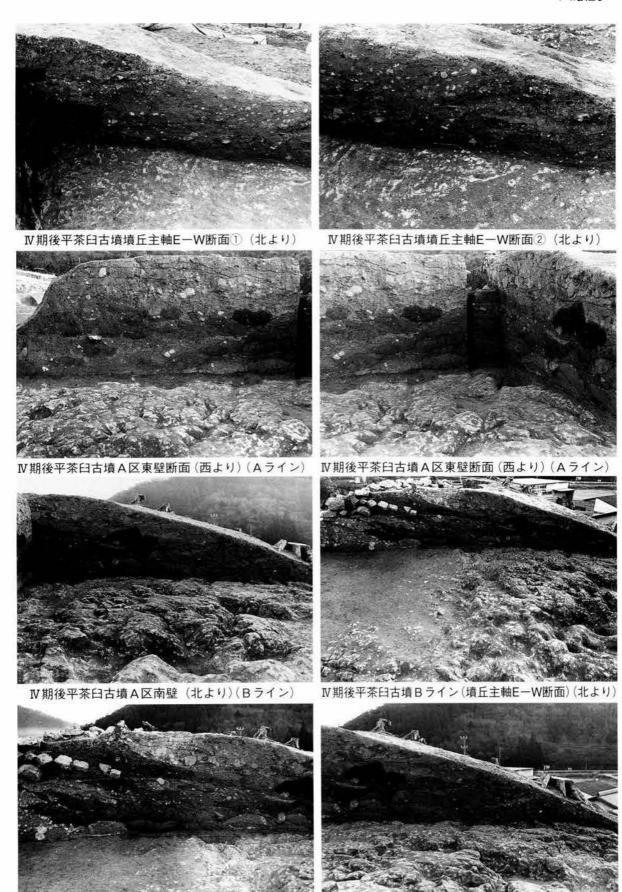


IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S−N(A ライン)断面②(東より) IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S−N(A ライン)断面③(東より)

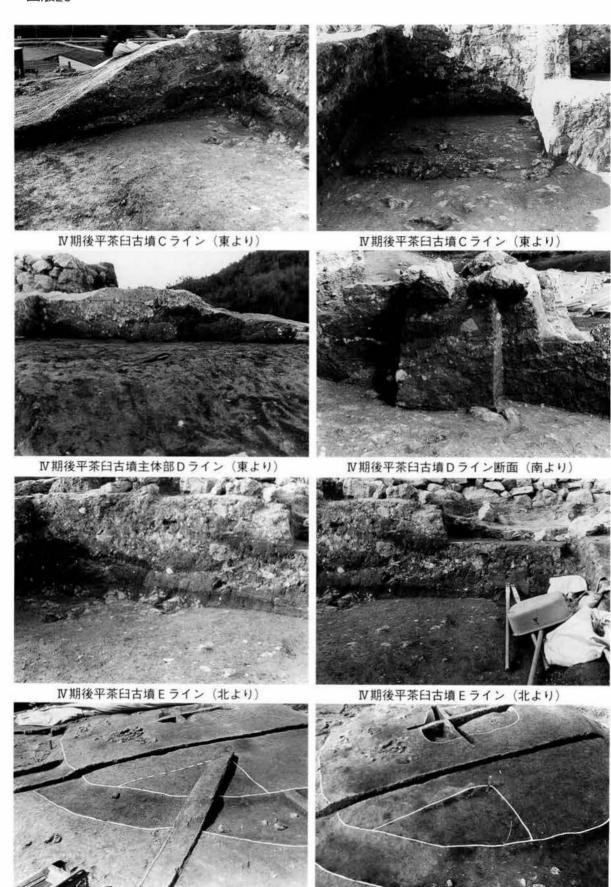


Ⅳ期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N(Aライン)断面4(東より) IV期後平茶臼古墳墳丘主軸S-N断面(東より)



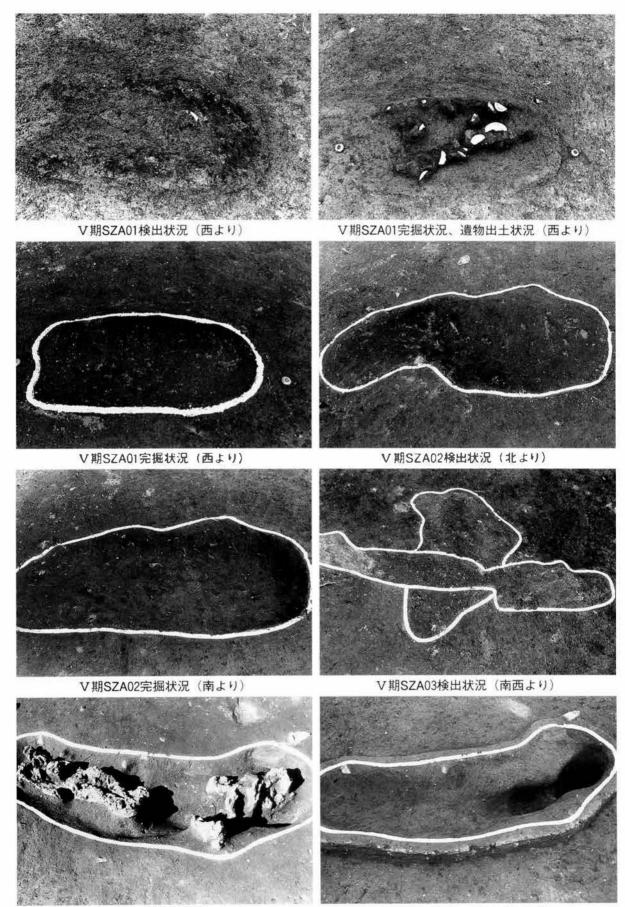


Ⅳ期後平茶臼古墳BラインUP(北より) IV期後平茶臼古墳BラインUP(北より)



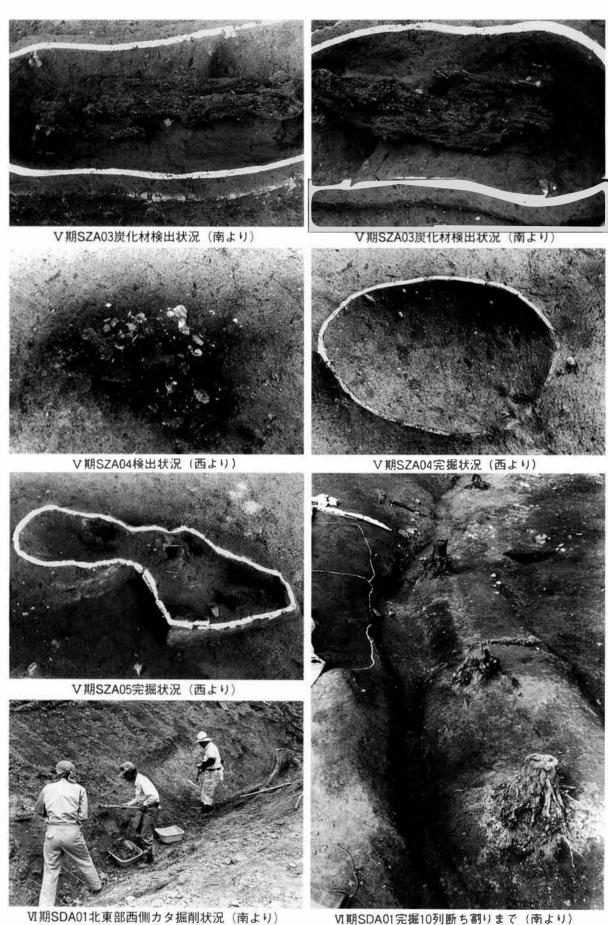
Ⅳ期後平1号古墳周溝(南東より)

Ⅳ期後平1号古墳完掘状況(南東より)

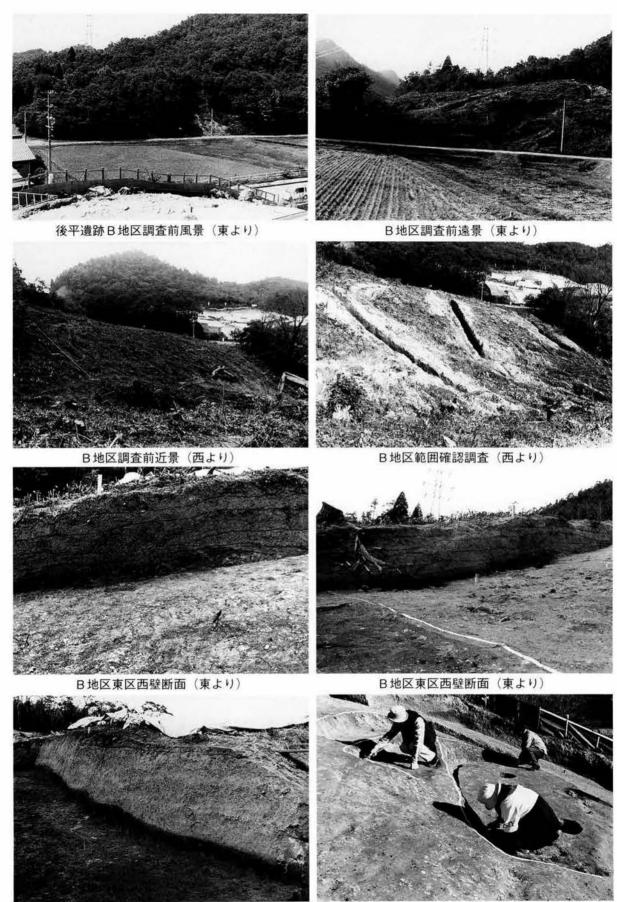


V期SZA03完掘状況(南より)

V期SZA03完掘状況(南より)

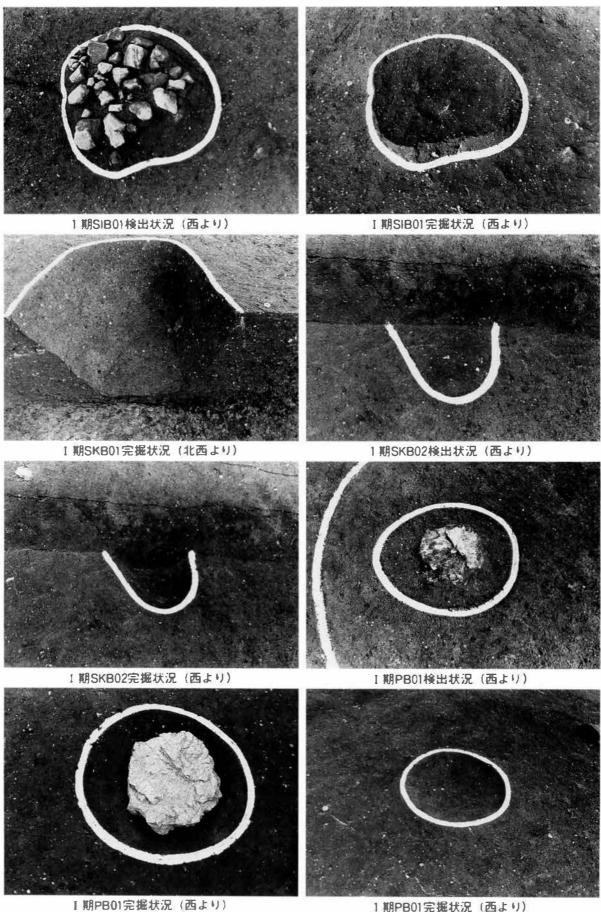


VI期SDA01完掘10列断ち割りまで(南より)

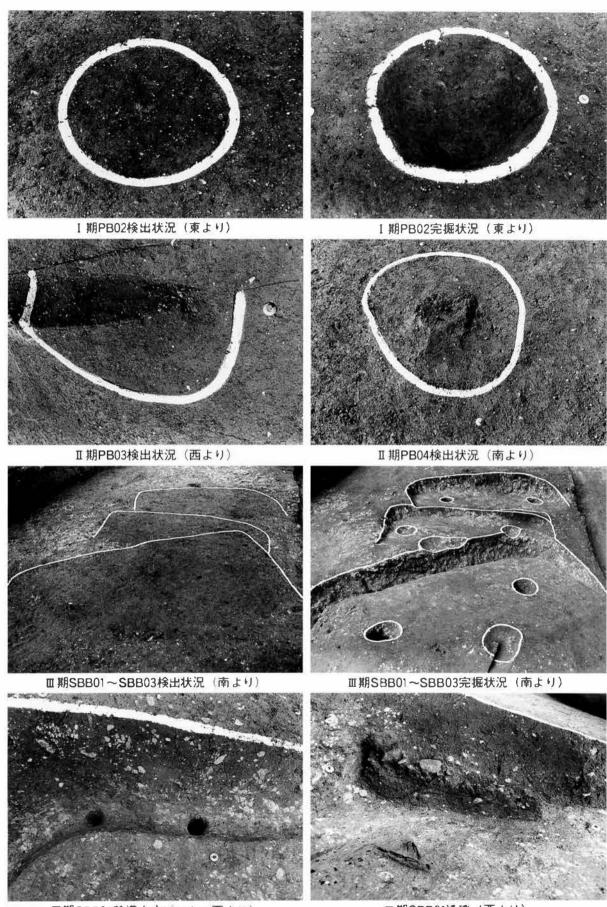


B地区西区東壁断面(西より)

B地区作業風景

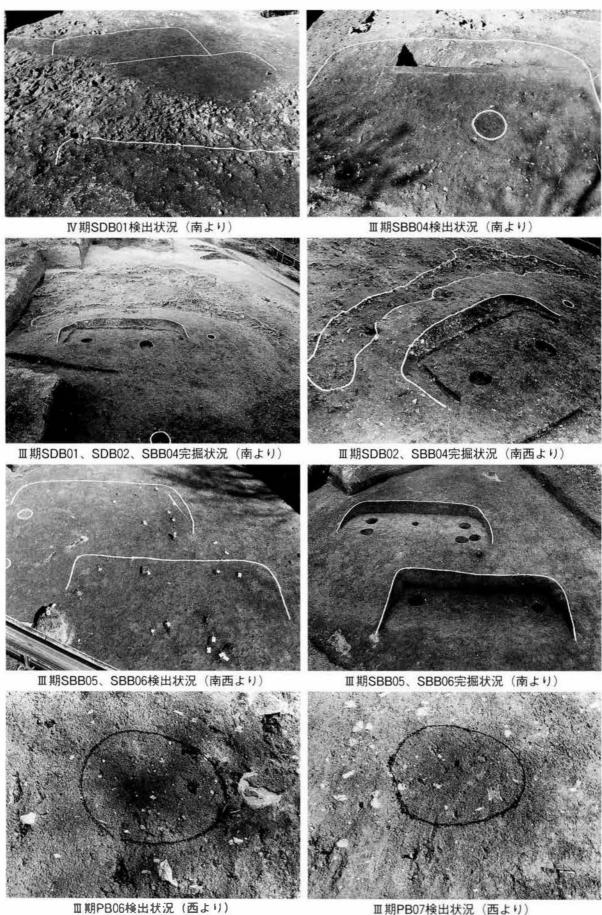


1期PB01完掘状況 (西より)

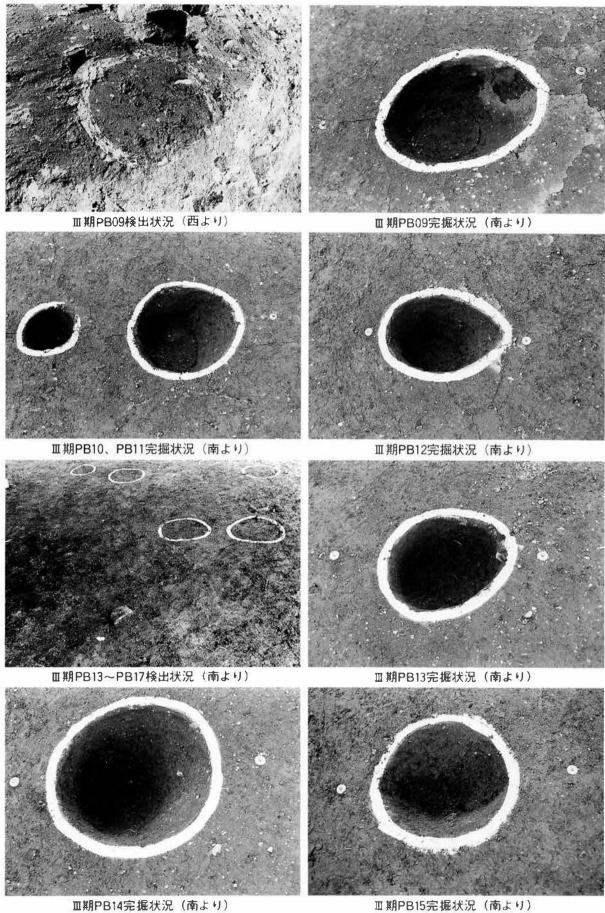


Ⅲ期SBB01壁溝内小ピット(西より)

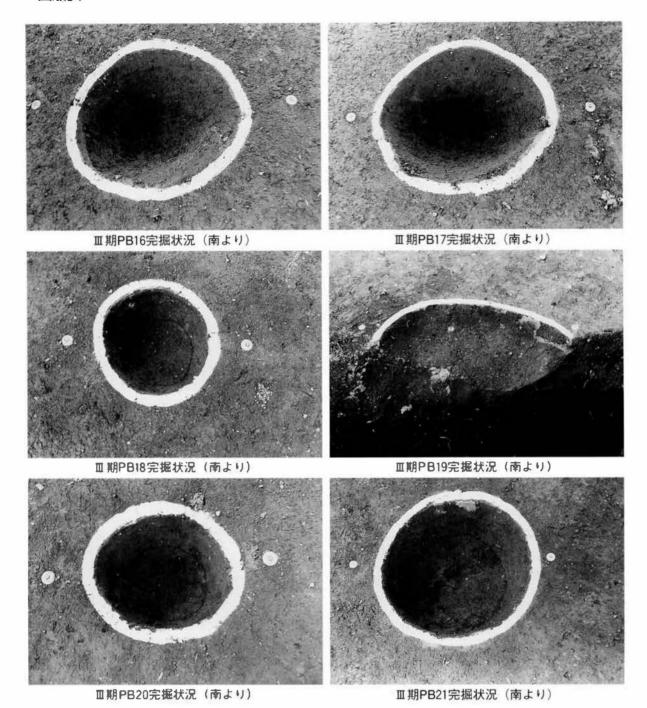
Ⅲ期SBB01焼礫 (西より)

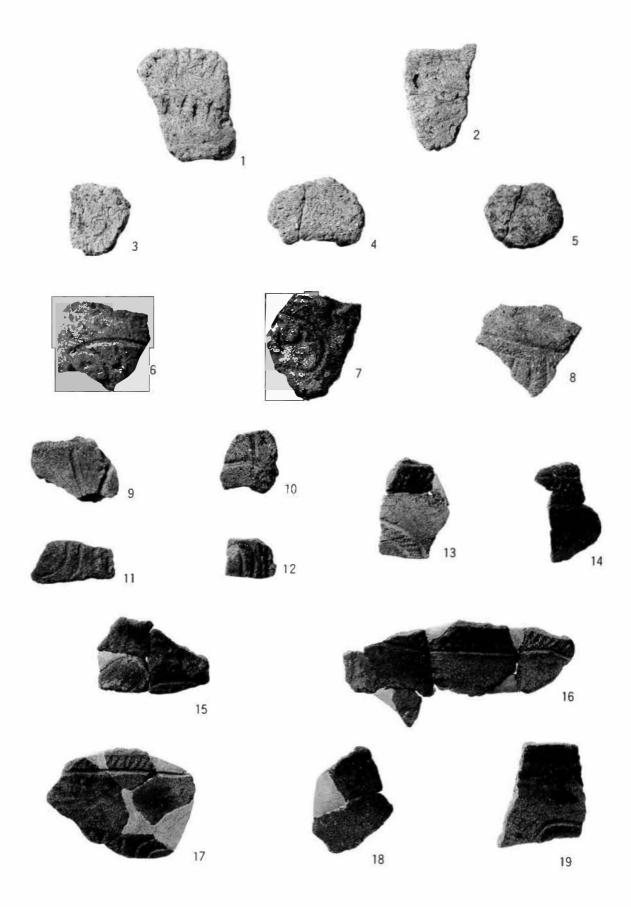


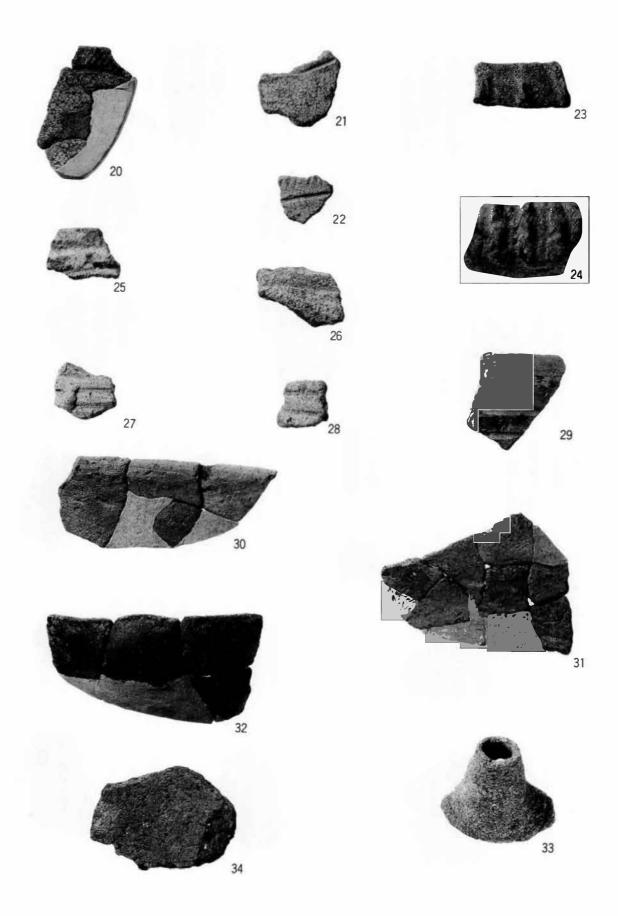
Ⅲ期PB07検出状況(西より)



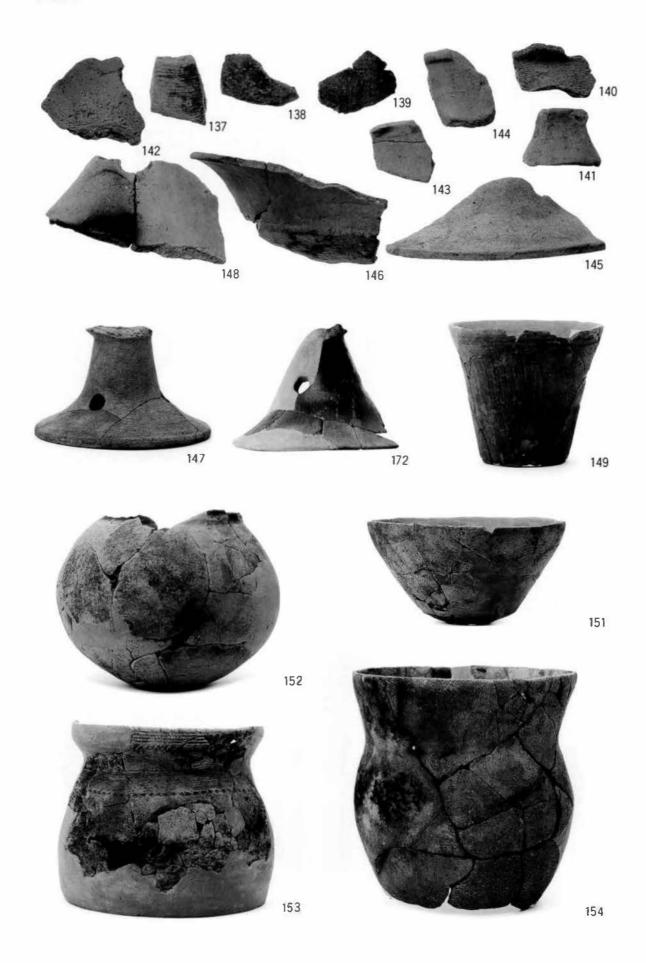
Ⅲ期PB15完掘状況(南より)

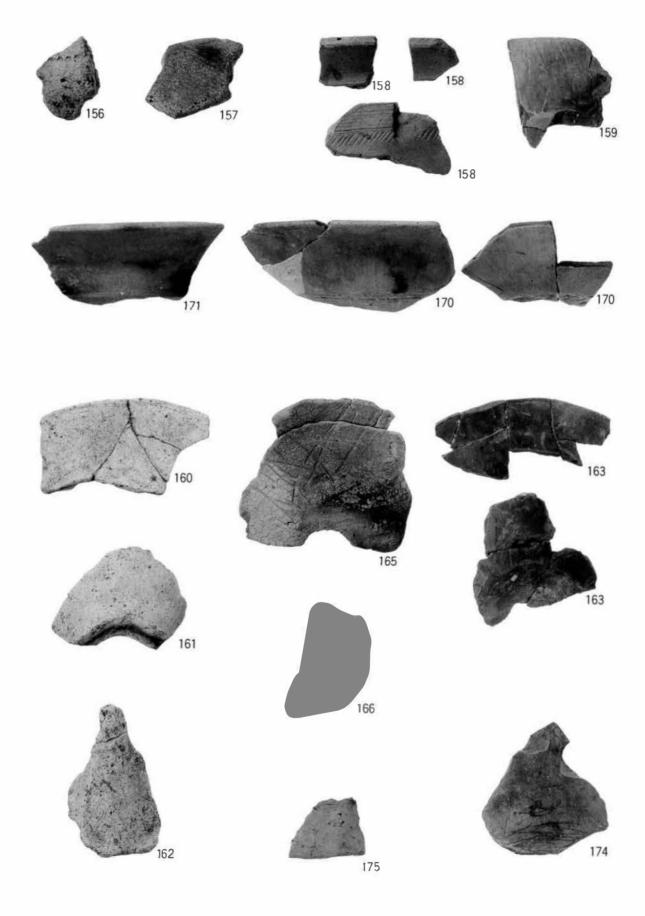




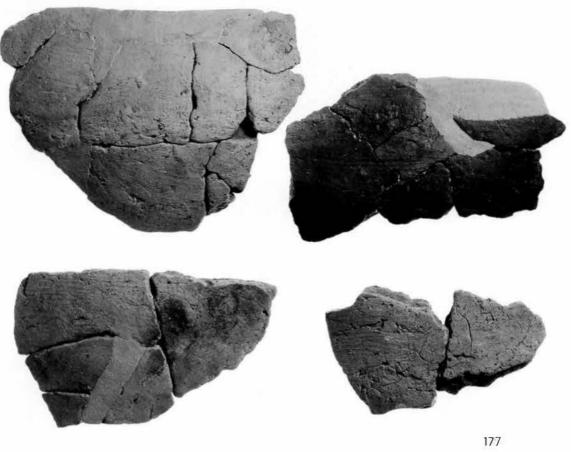


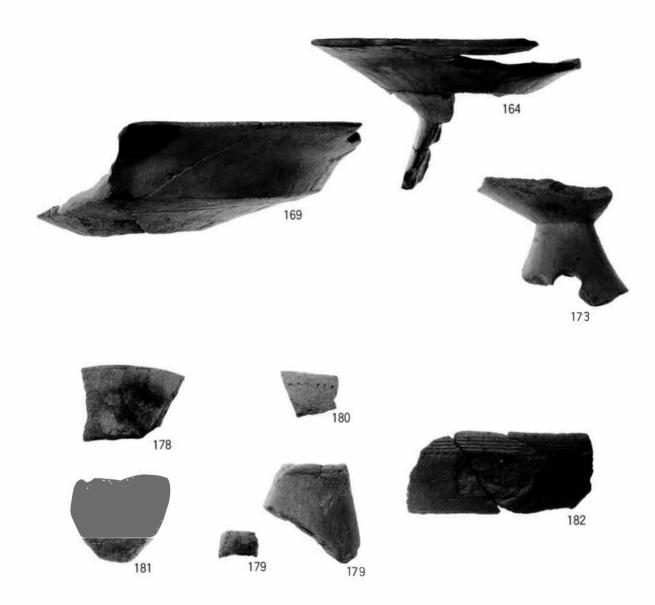






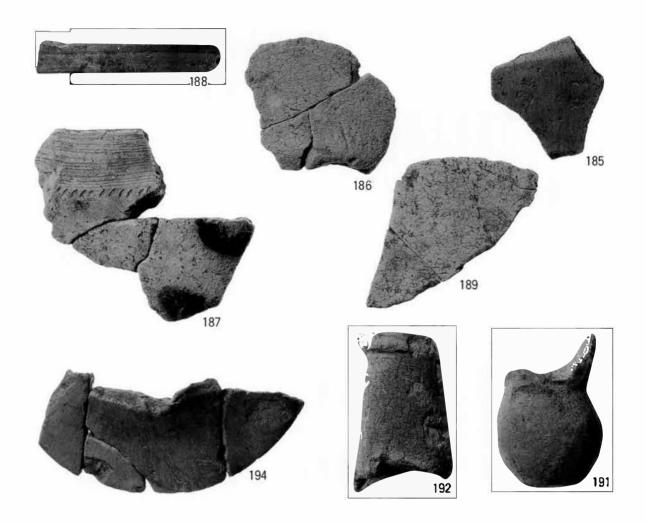




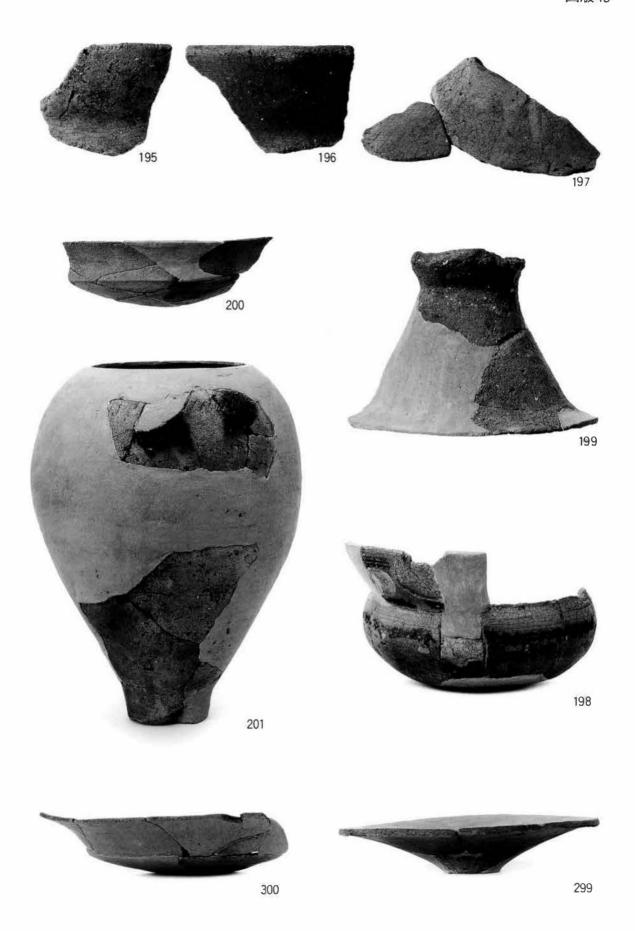




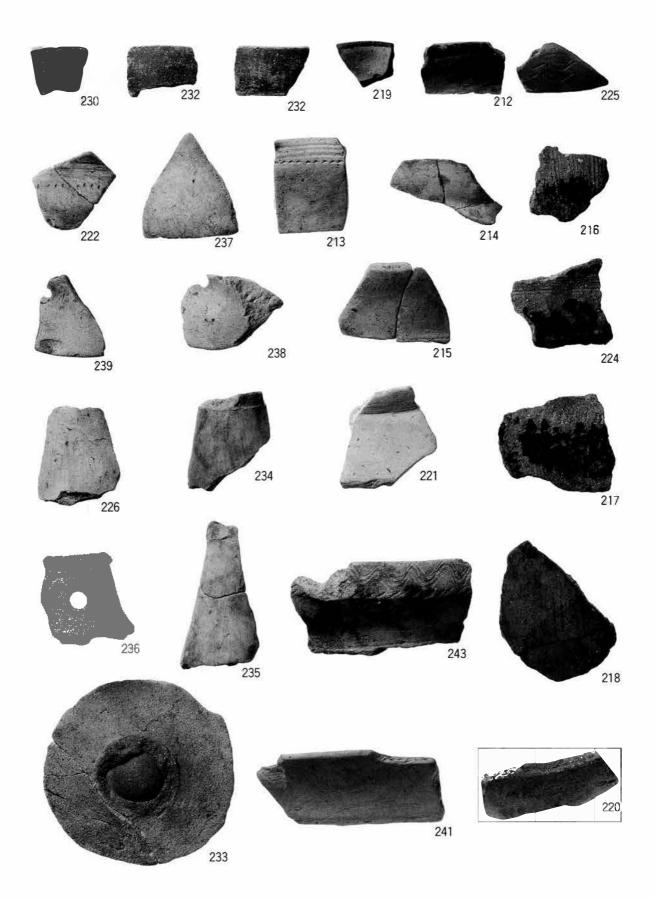
図版42

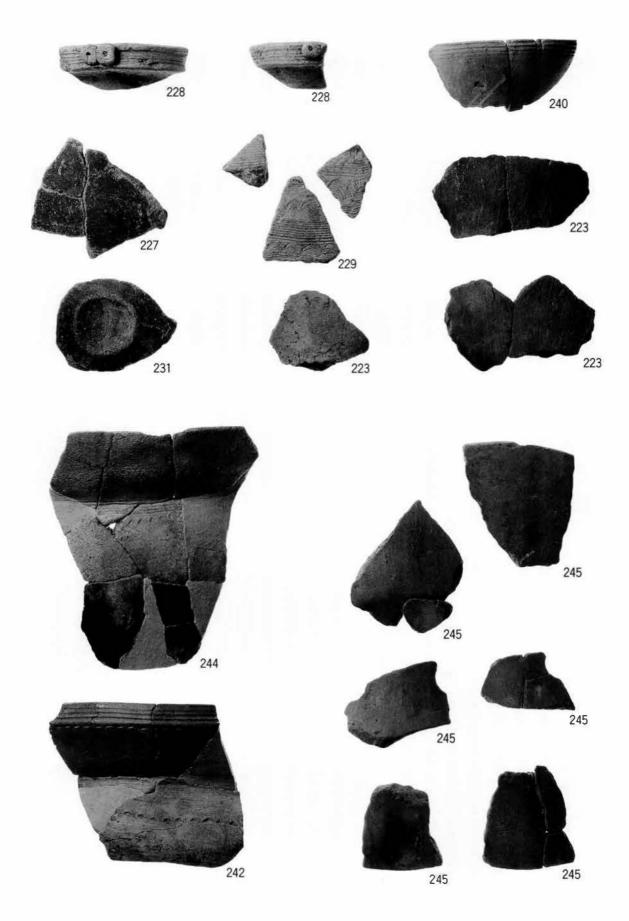


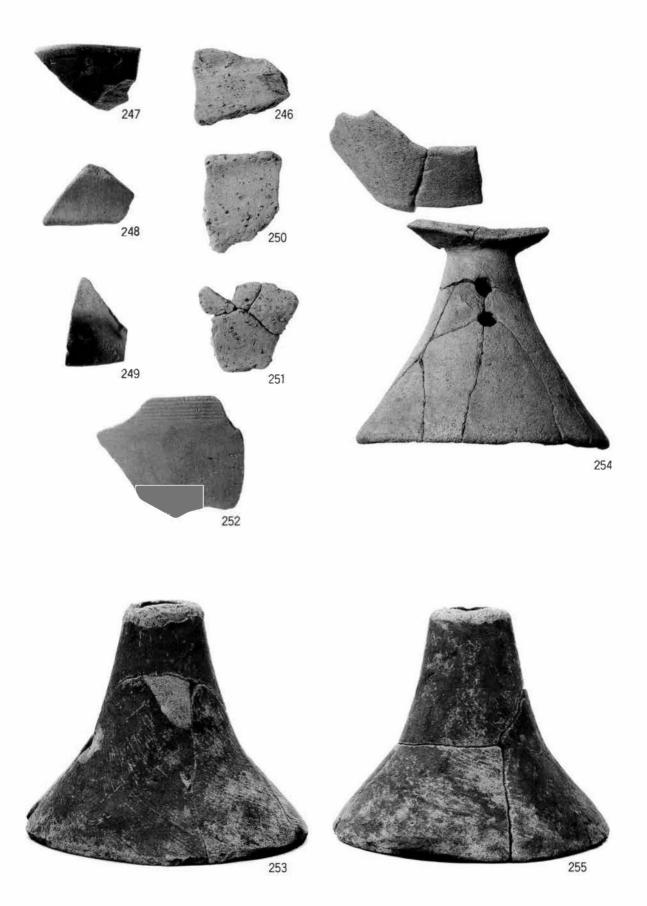


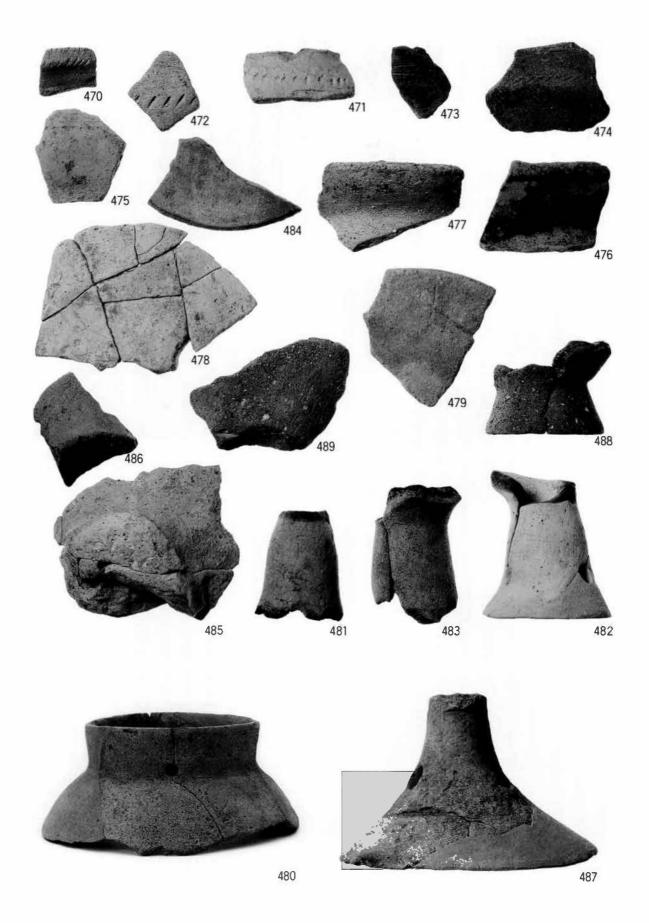


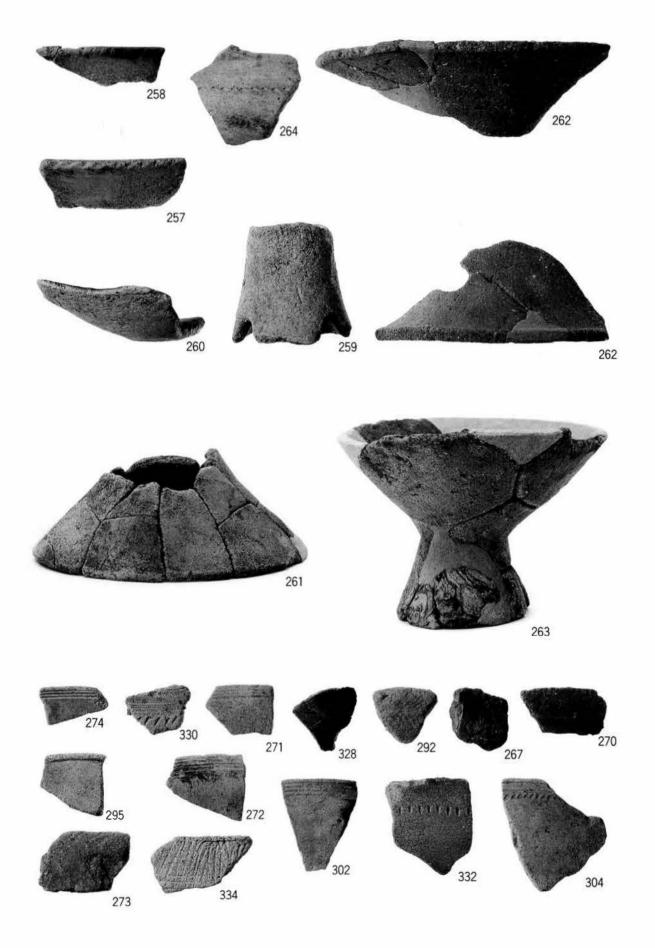


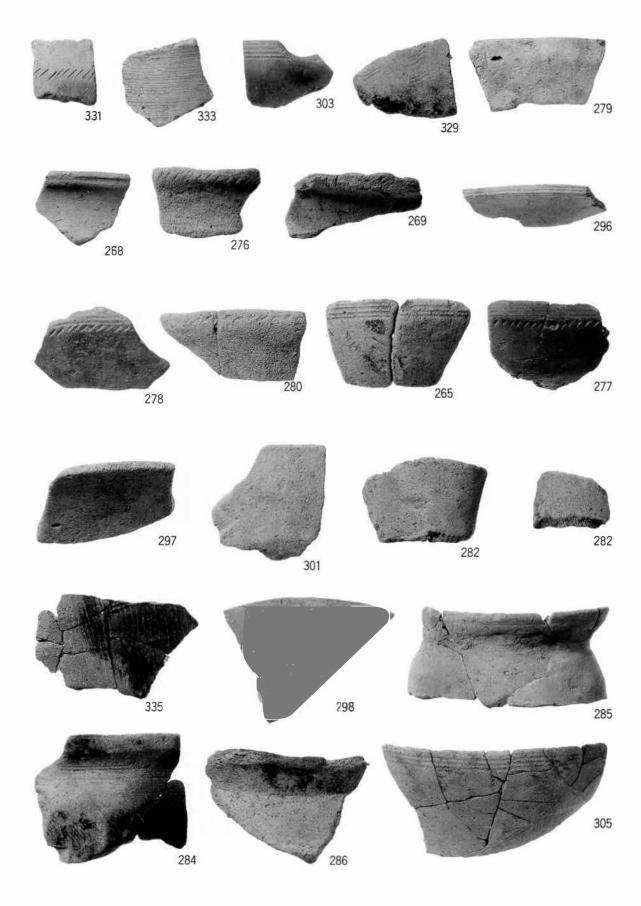


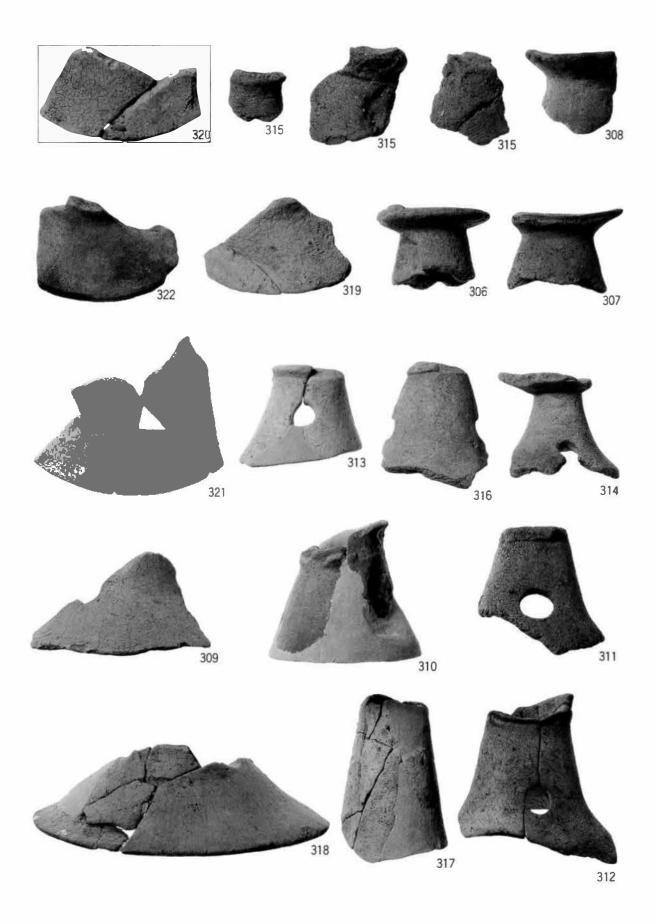


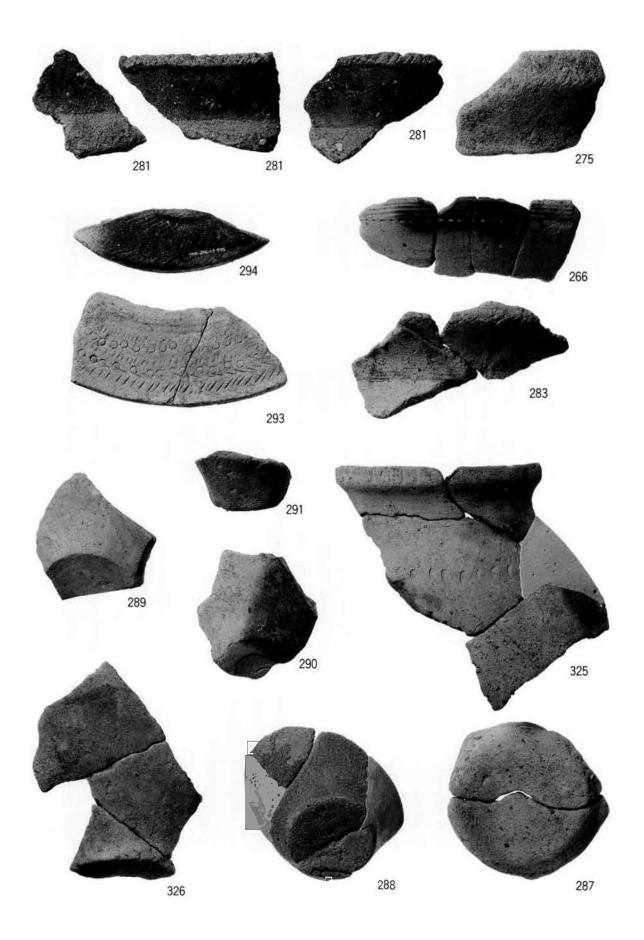




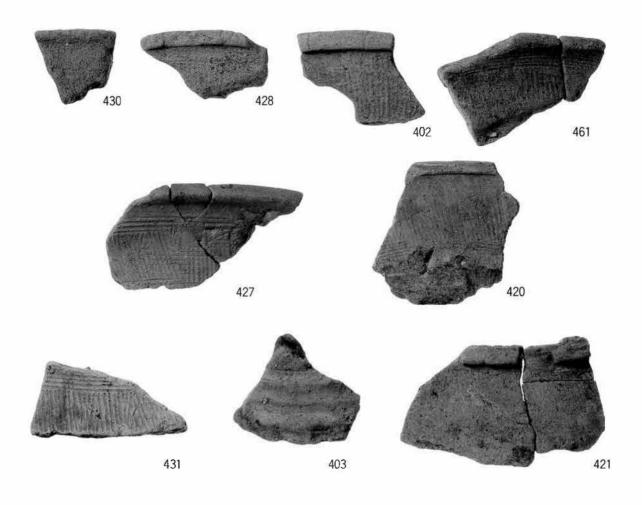


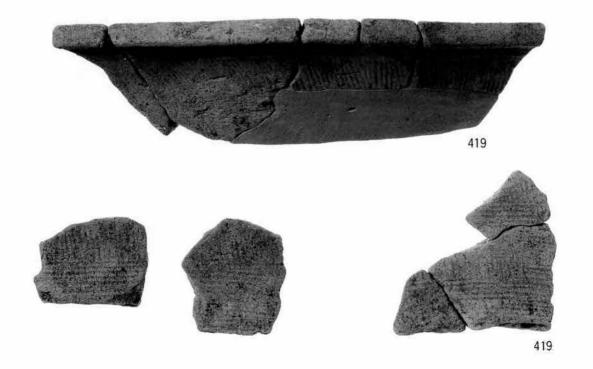


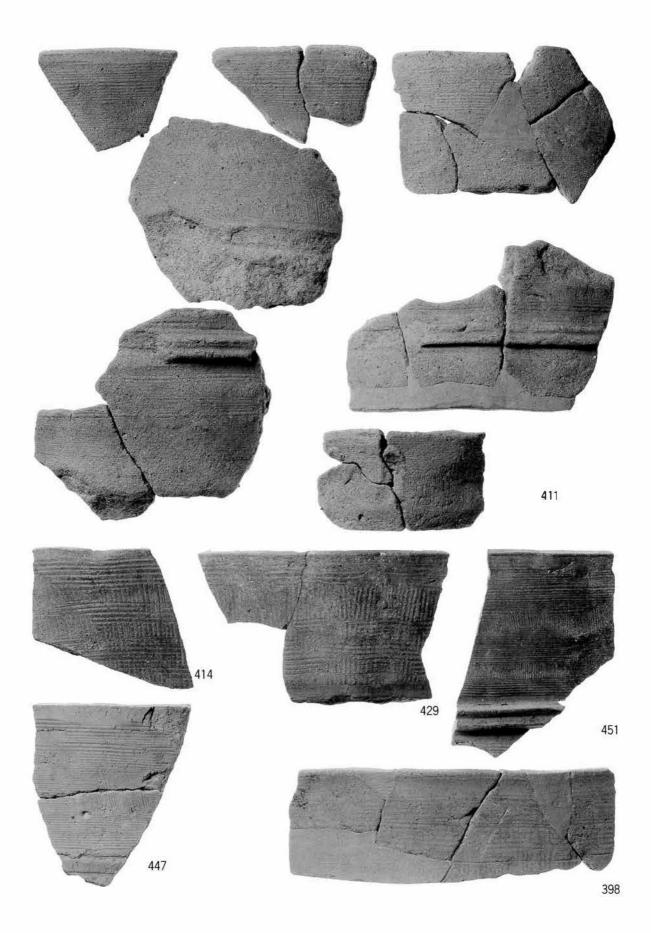


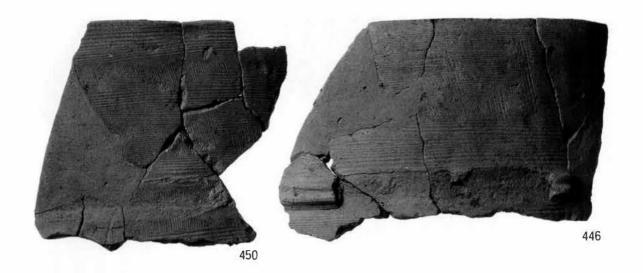


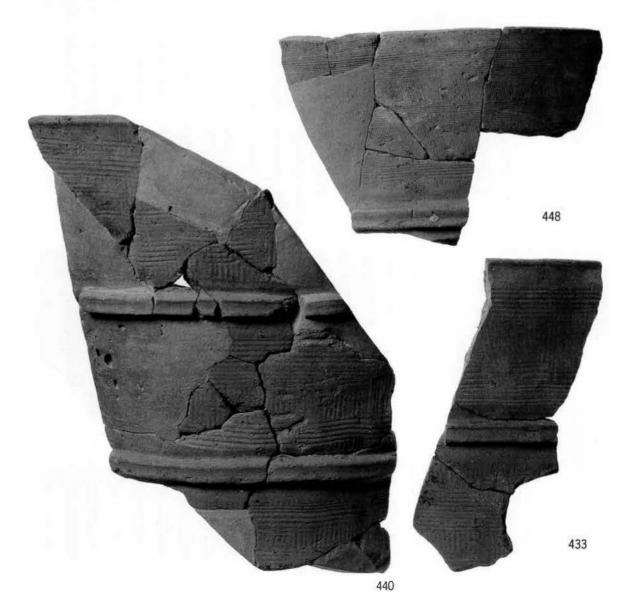


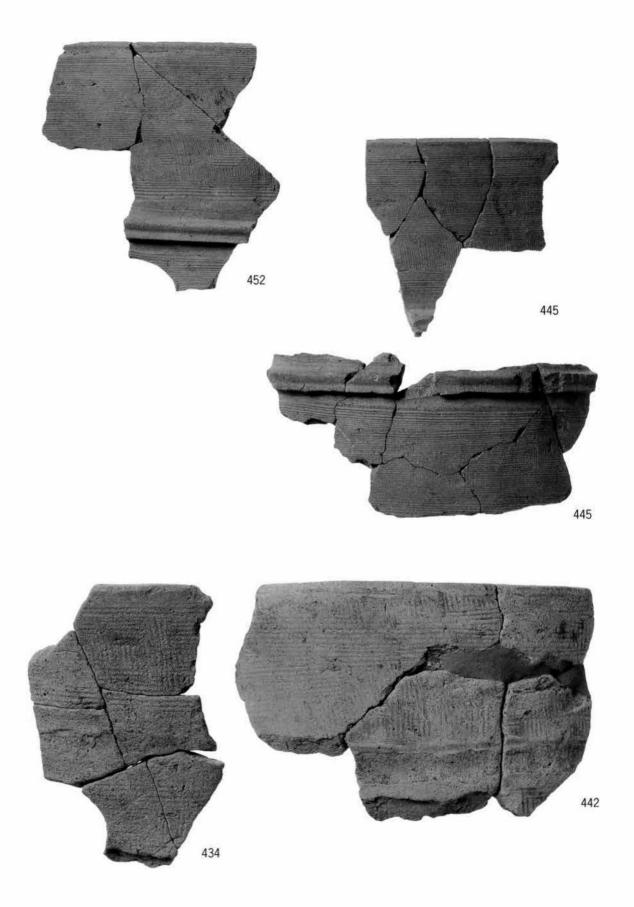


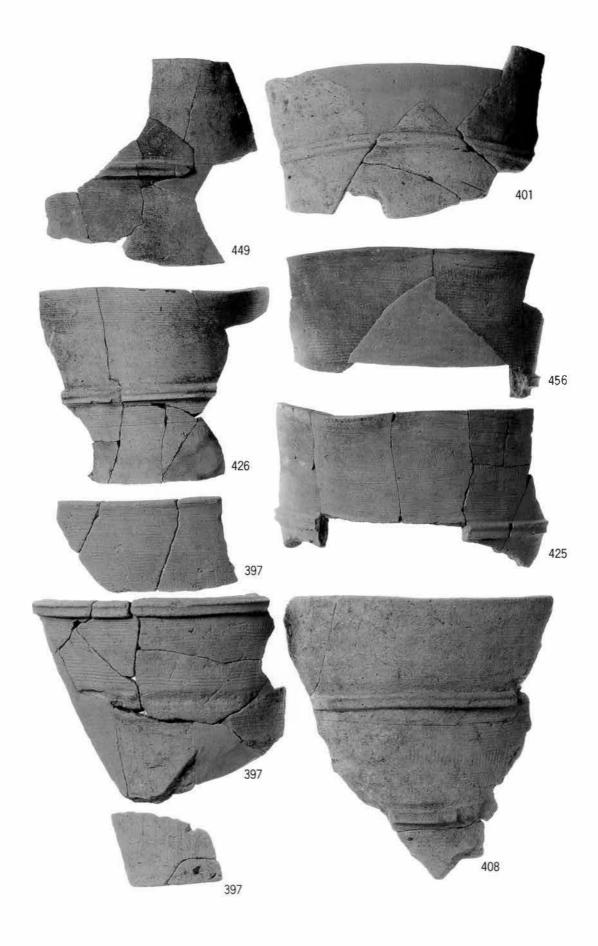


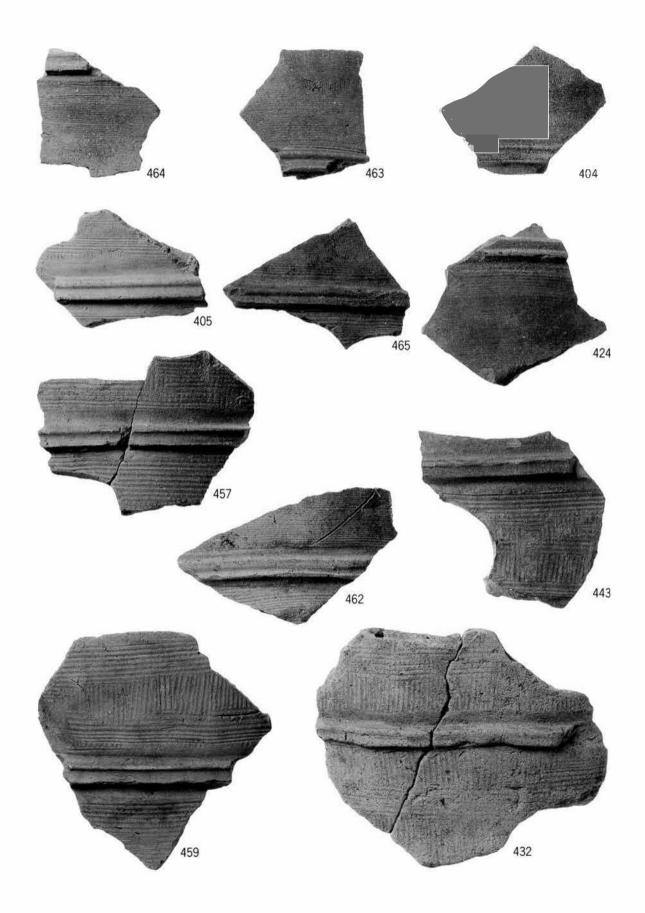


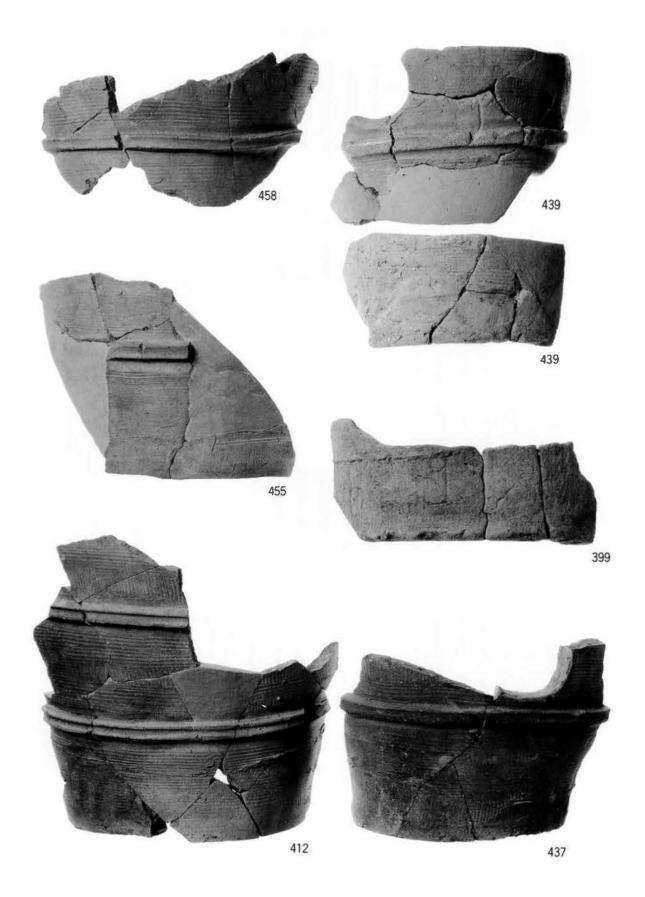


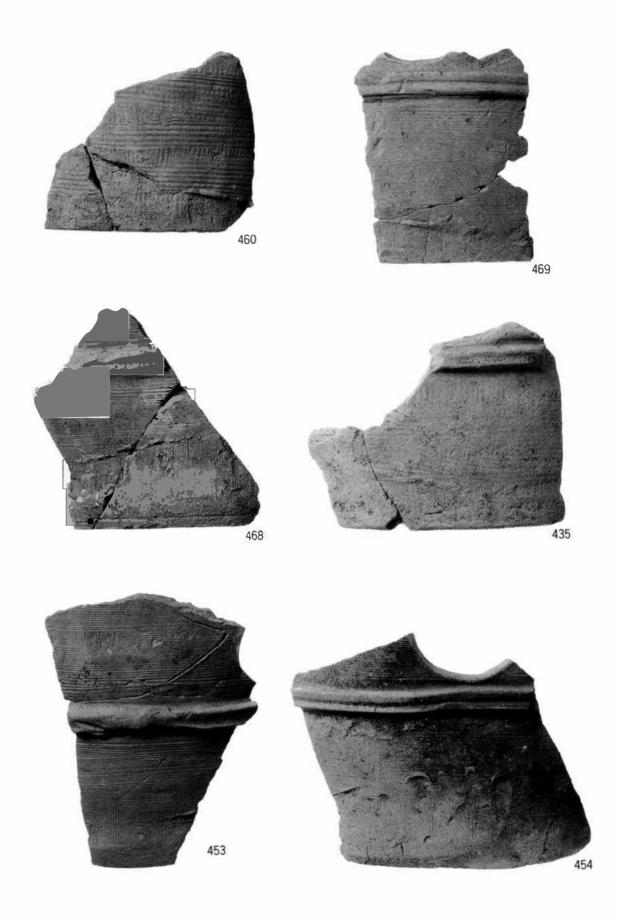


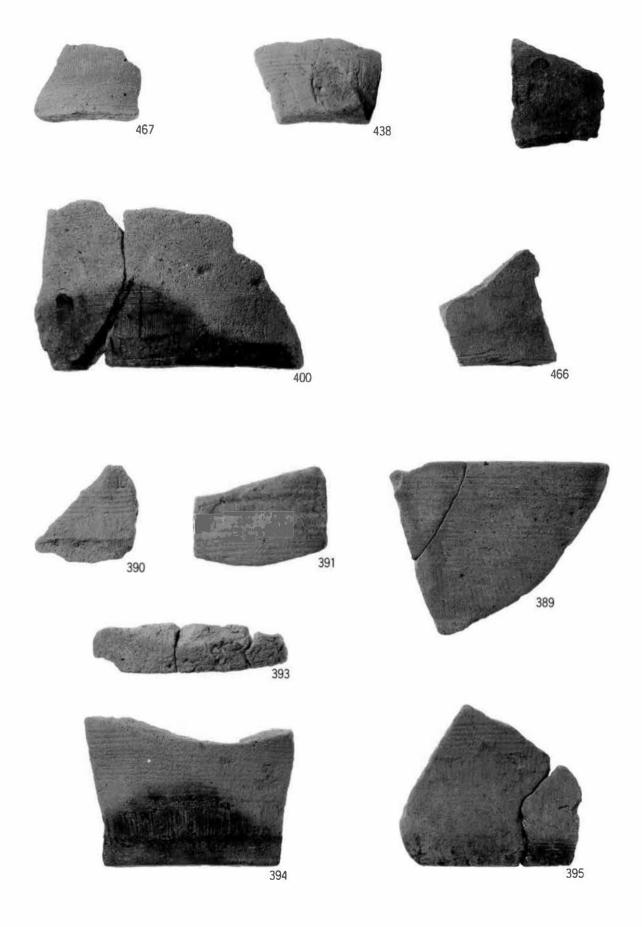








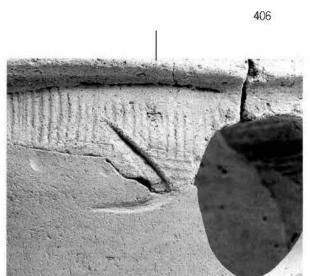




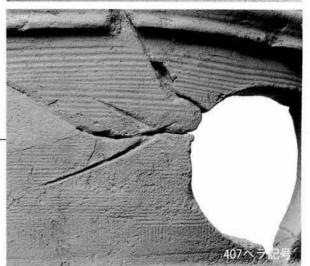








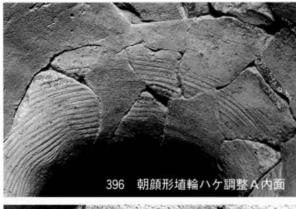


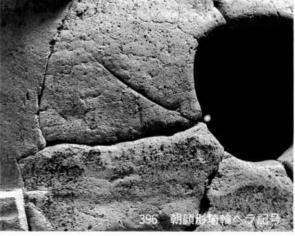




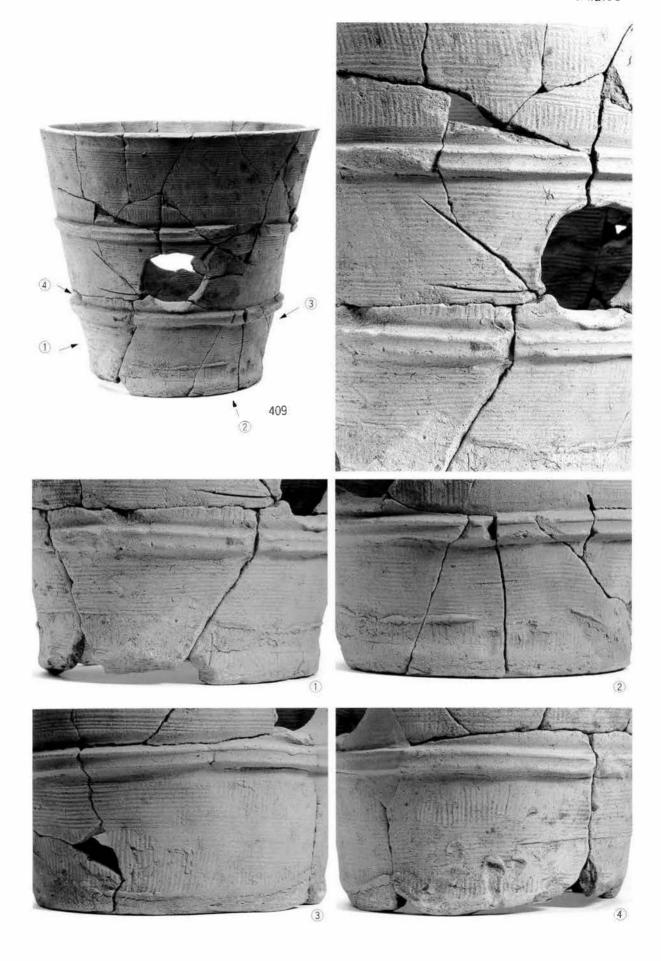


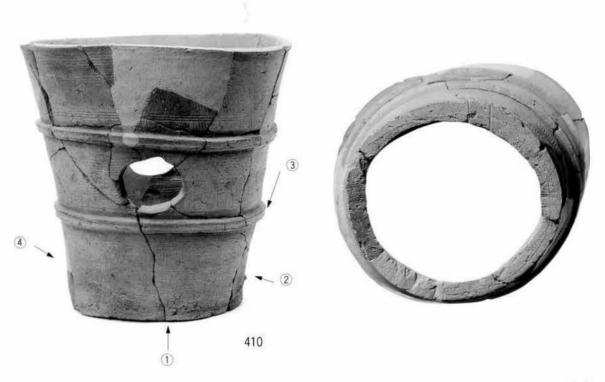




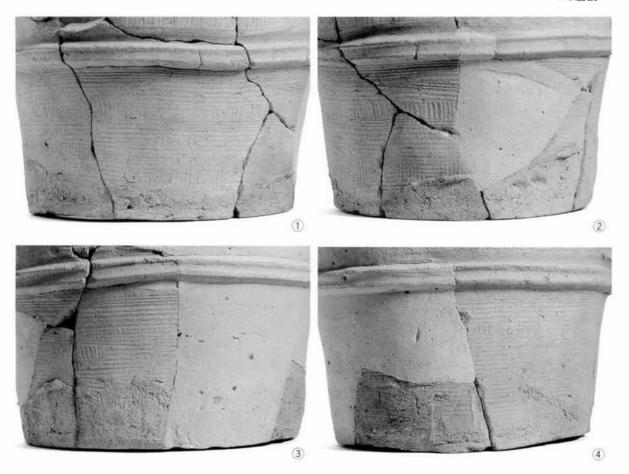


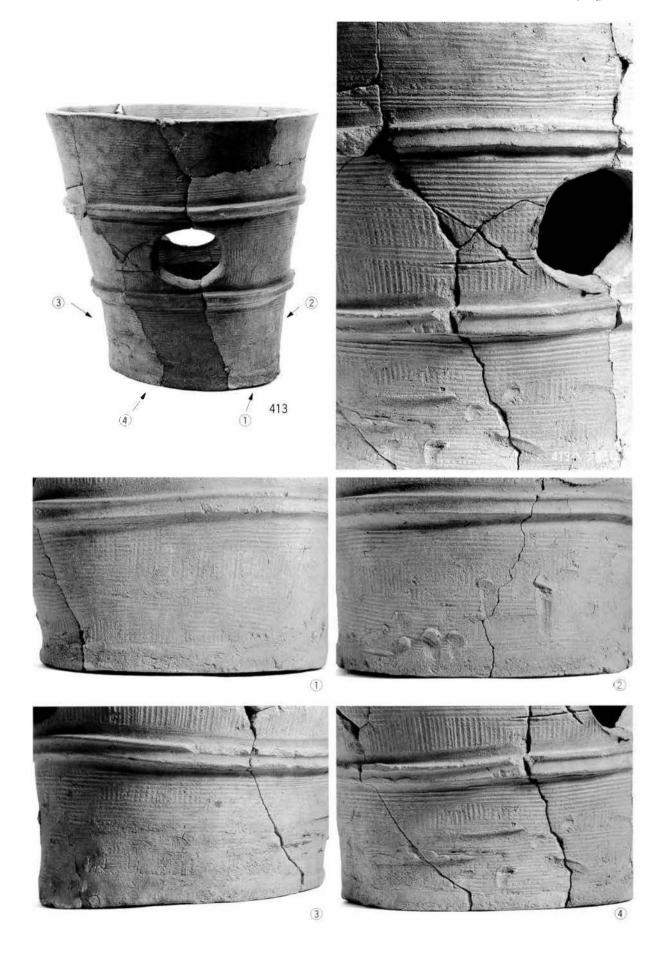
## 図版65

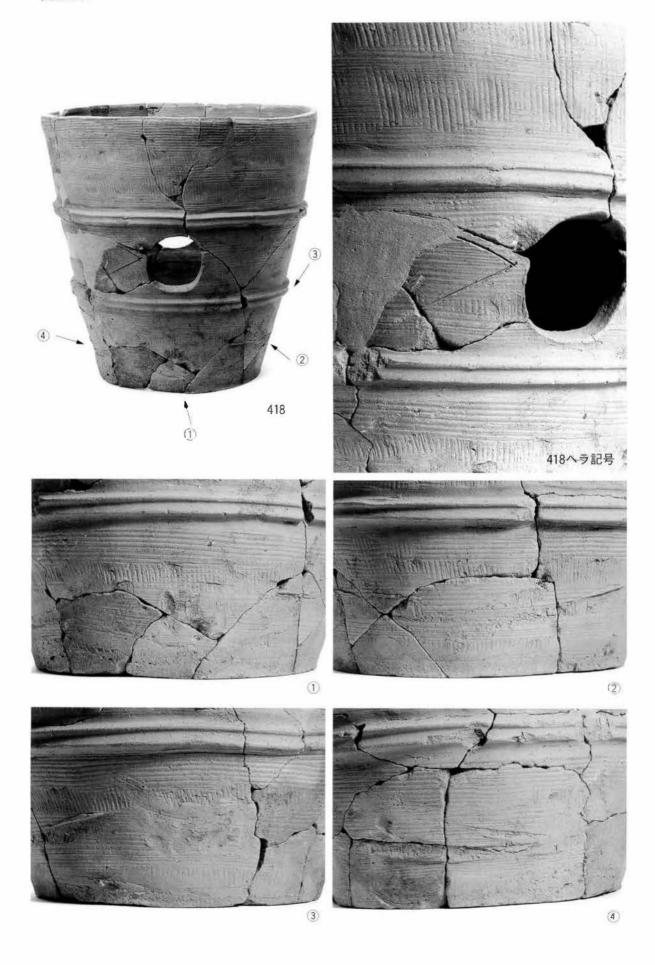


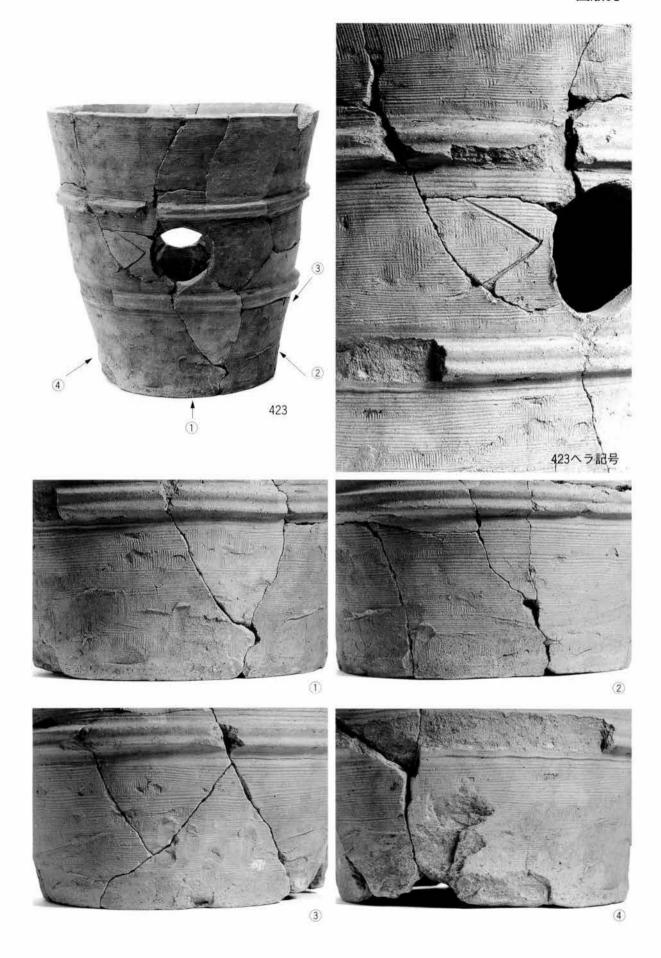


410底部

















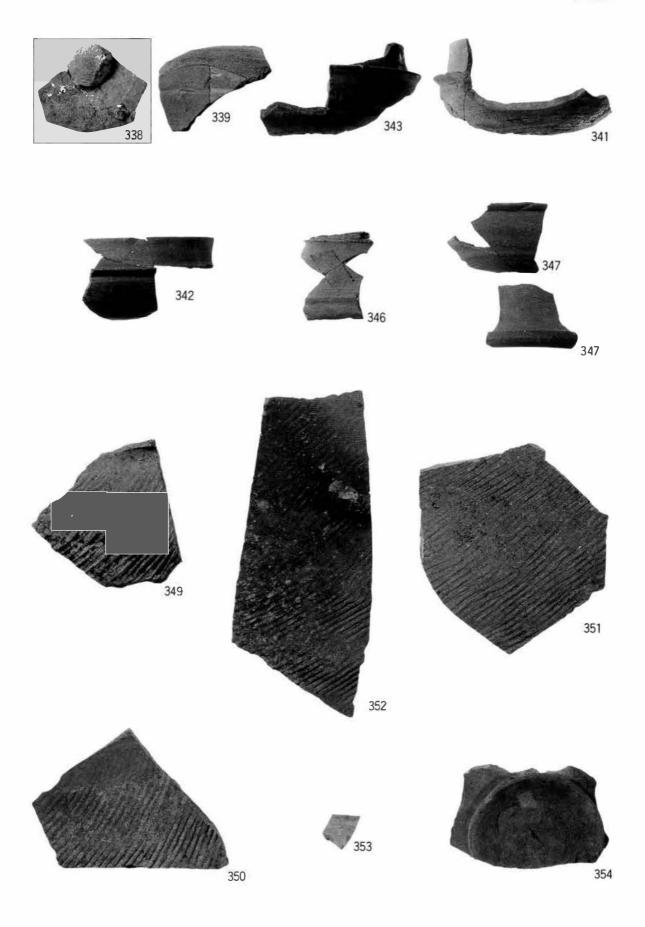


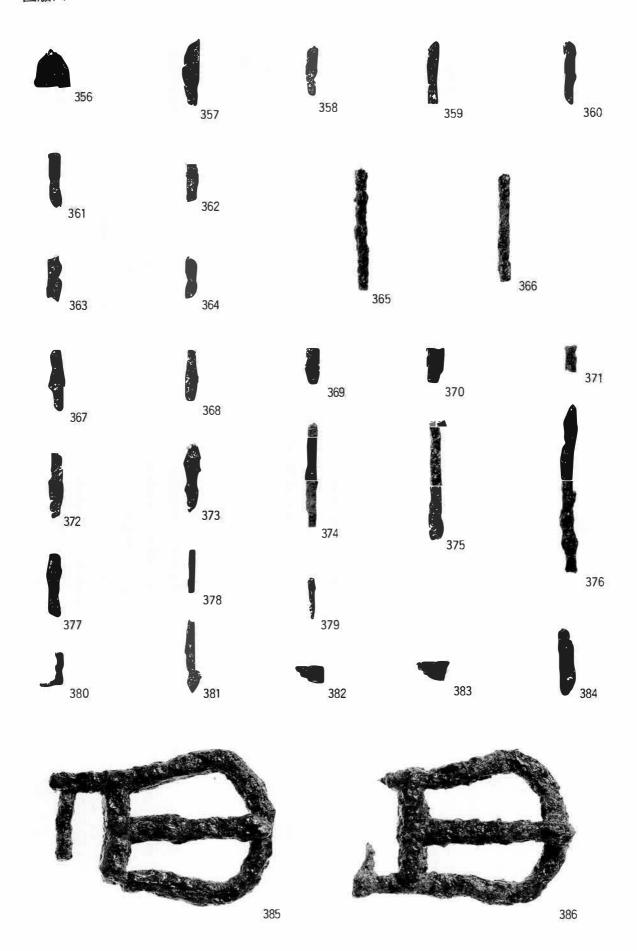


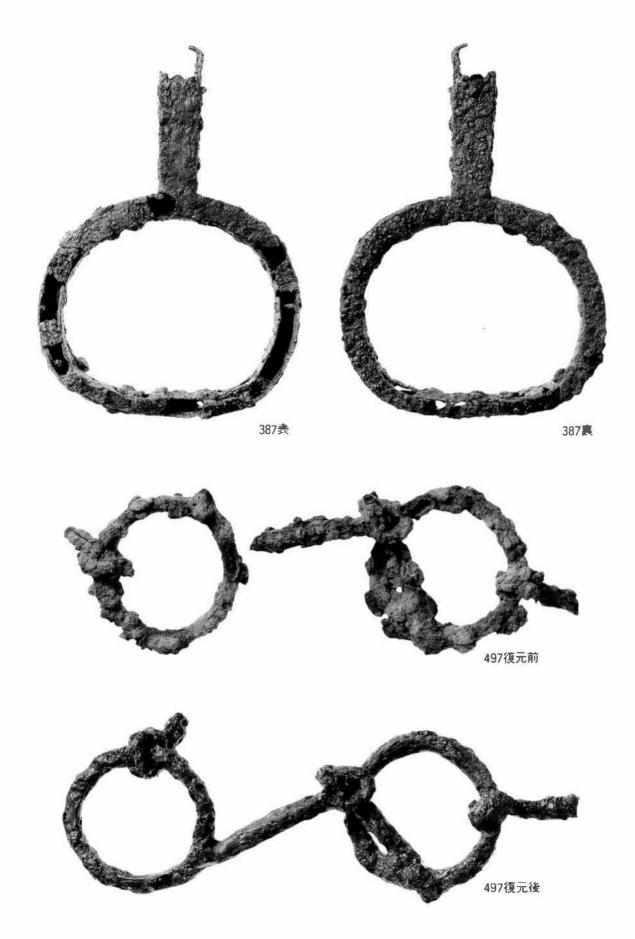


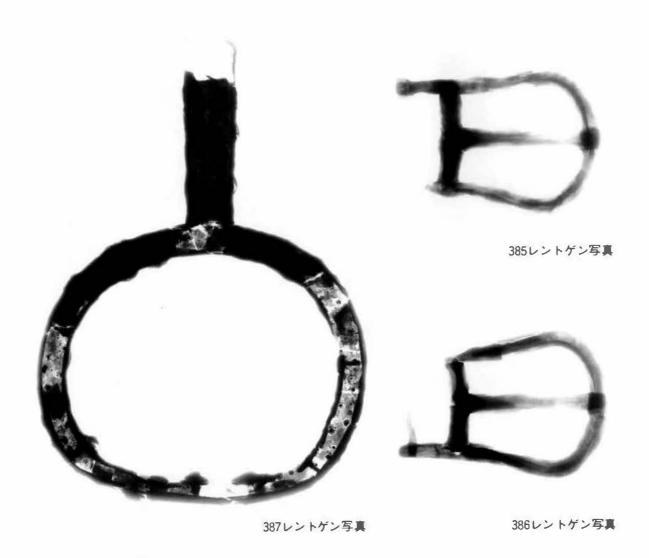
441





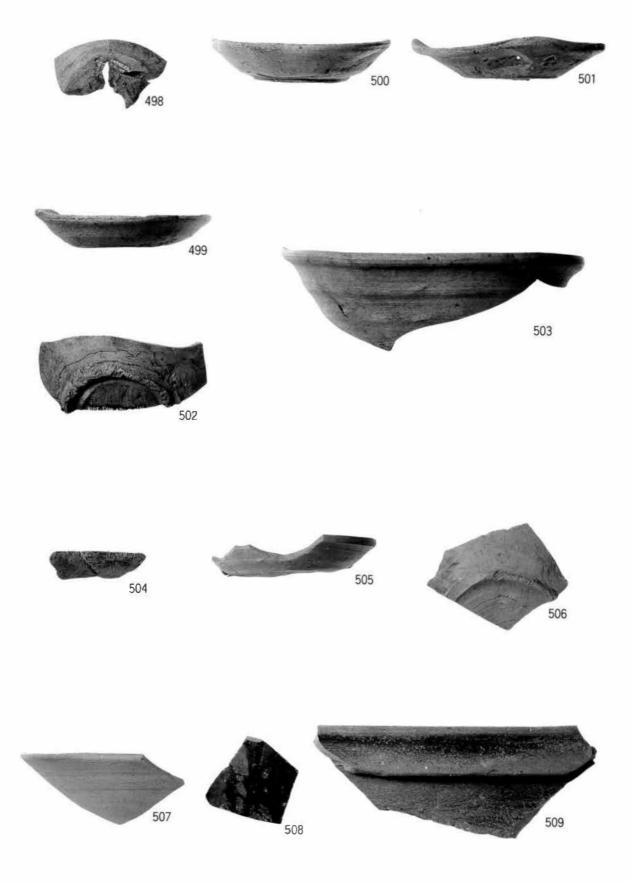


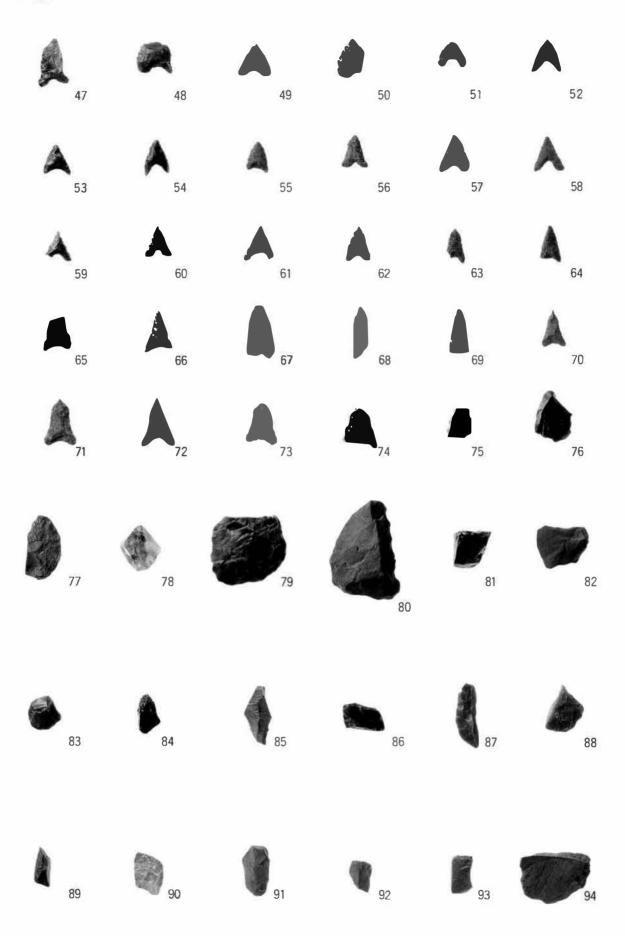


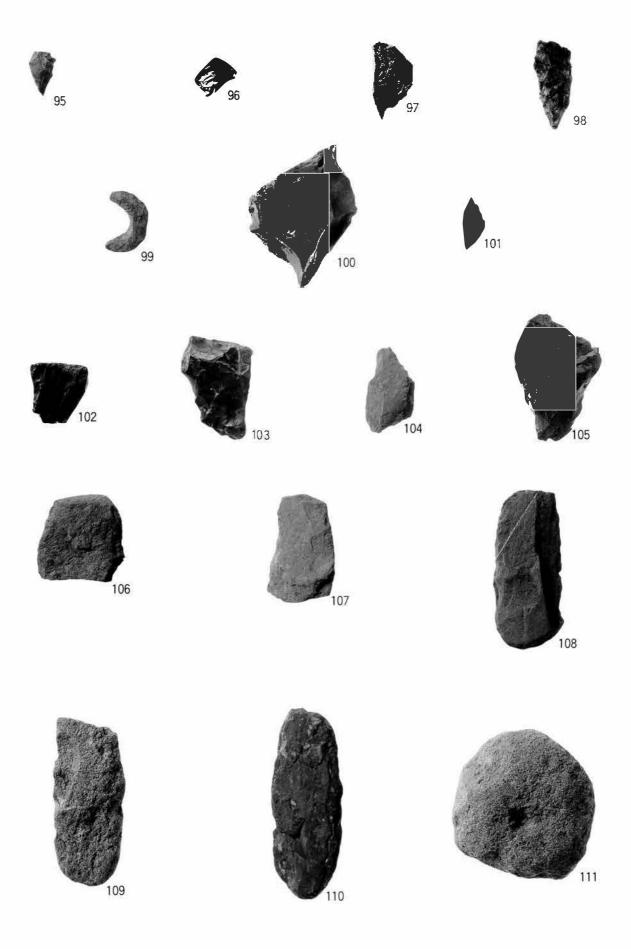


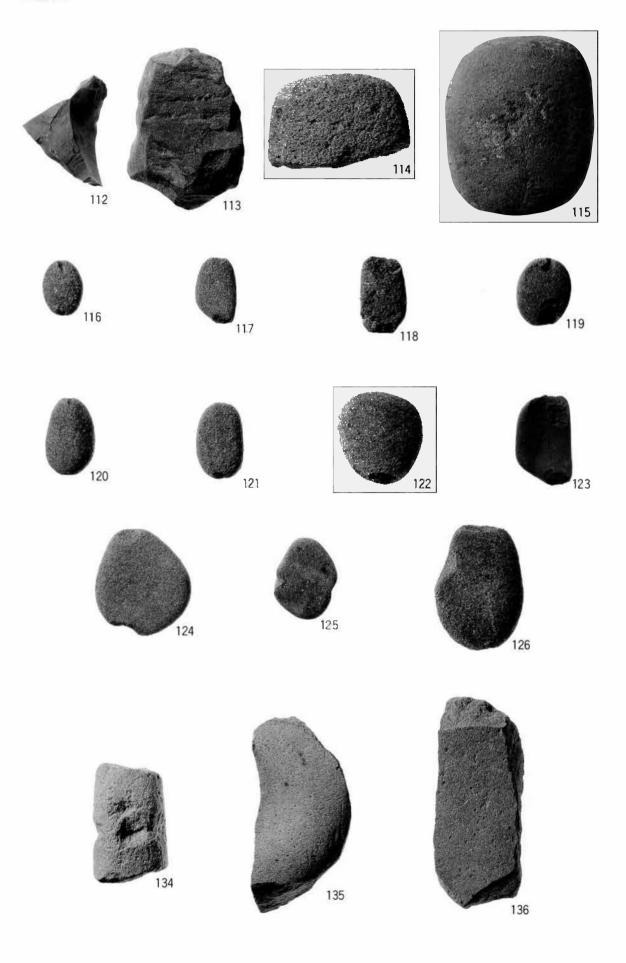


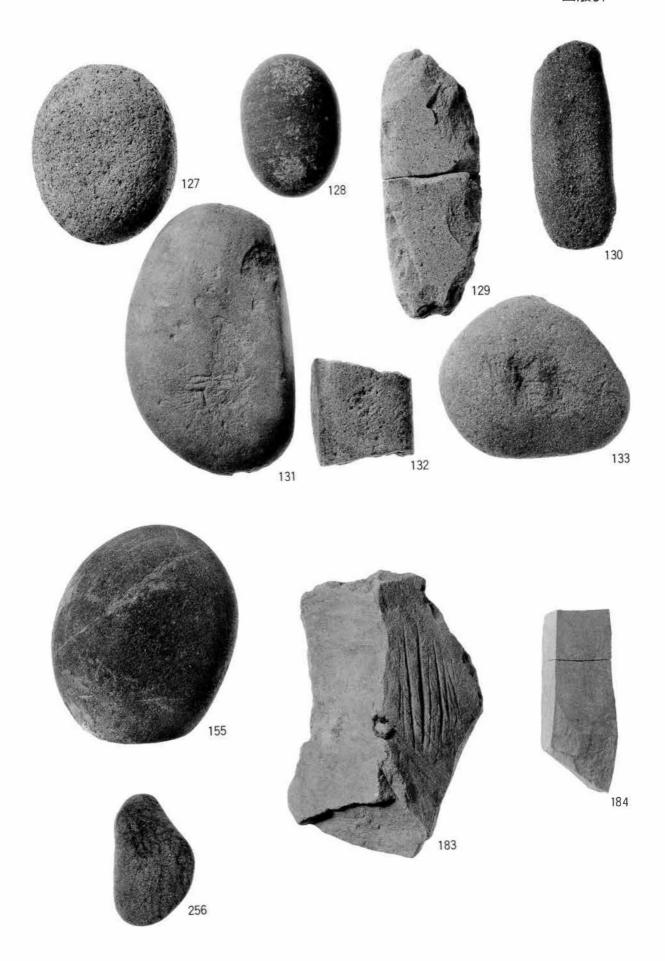
497レントゲン写真

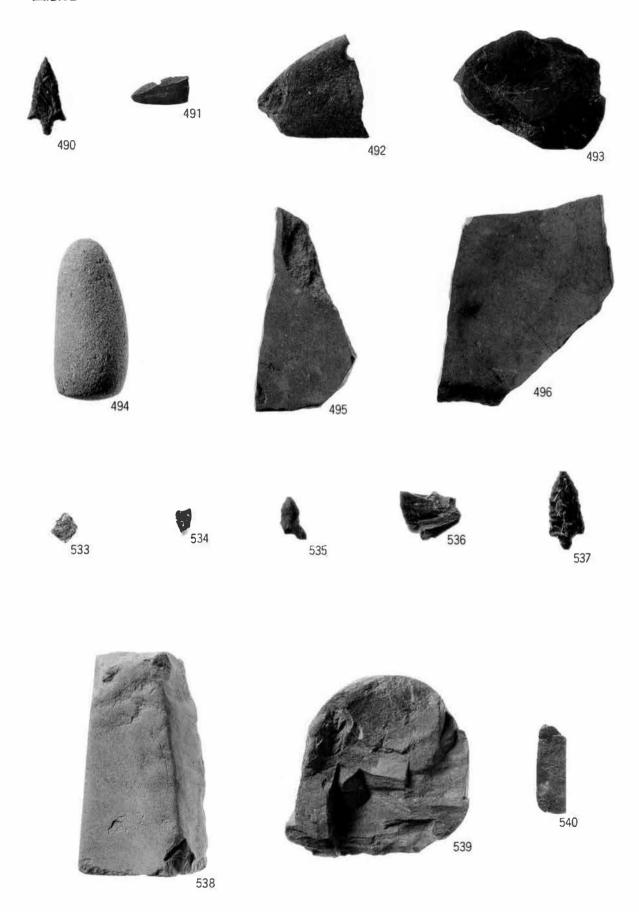


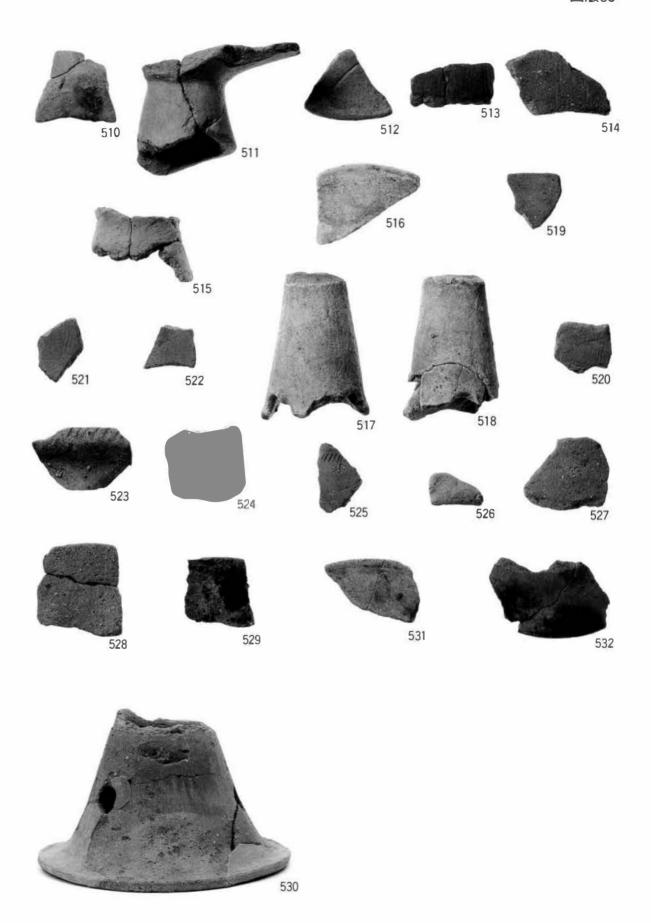




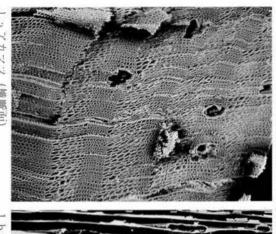




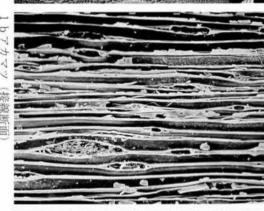




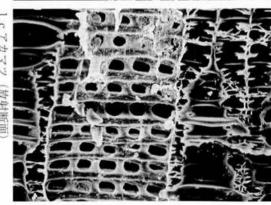
# 後平遺跡出土炭化材樹種



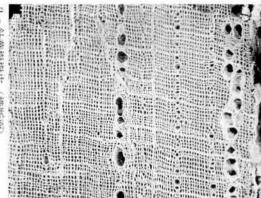
22 SZA 05 bar: 0.5mm



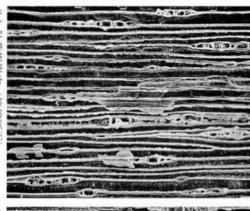
0 bar: 0.1mm (接線断面



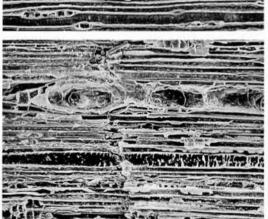
:アカマツ () bar:0.1mm



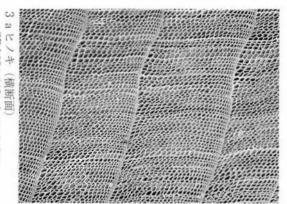
2 針葉樹樹皮 (横断面) SBA03-101 bar: 0.5mm



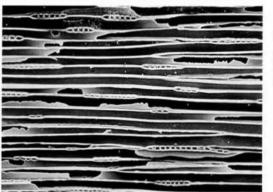
b針葉樹樹皮 bar:0.1mm (接線斯面



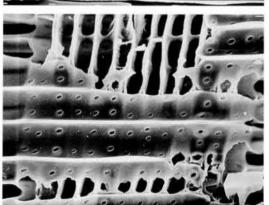
0 新葉樹樹皮 bar:0.1mm (放射断面)



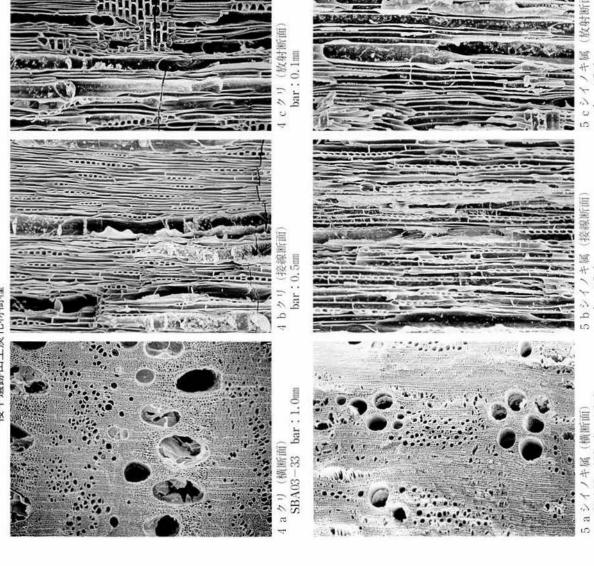
ヒノキ (横断面) SBA03-113 ba bar: 0.5mm

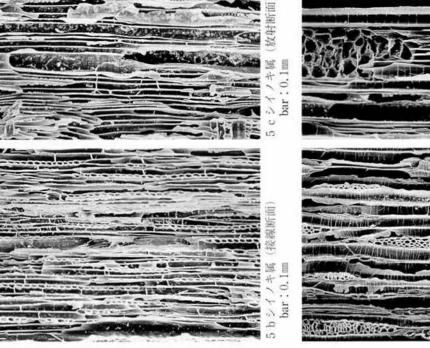


w 0 bar: キ (接線断面) : 0.1mm



w 0 bar: 0.05mm (旅級商門)





(横断面

井原一-120

>4/ >

a

(放射断面)

7.ラ属 : 0.1m

# 1/2 bar 1

U

9

(接線斯面)

属( .0: 1

9

0

(横断面) 17 bar:

SBA03

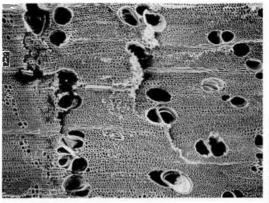
K

a

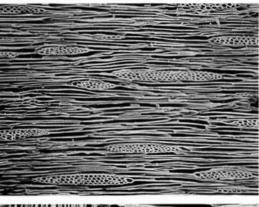
9

## **N** 86

# 後平遺跡出土炭化材樹種

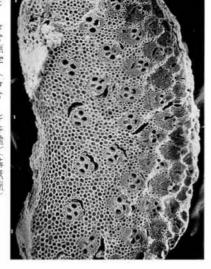


7 a キハダ (被断元) SBA03-58 bar: 0.5mm



7 c キハダ (放) bar: 0.1mm

bキハダ (接線断面) ber: 0.5回



8 a タケ亜科(タケ・ササ類)(横断面) SBB(川-302 bar:1,0mm

### 報告書抄録

ふりがな	あと	ひらちゃ	うすこ.		らいせ	き					
書 名	後平茶臼古墳・後平遺跡										
副書名	東海環状自動車道(関〜美濃加茂)建設事業に伴う緊急発掘調査報告書										
巻次											
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター 調査報告書										
シリーズ番号	第77集										
編著者名	藤田英博・安田正枝・三辻利一										
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター										
所 在 地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL 058-237-8550										
発行年月日	西暦2002年12月25日										
ふりがな	ふりがな		コ	コード		-d= 407	-ira -★-	#0 88	油水去钵	調査	
所収遺跡名	所在	王 地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調宜	期間	調査面積	原因	
あとひらちゃうす 後平茶臼古墳	ぎょけんか もくな 岐阜県加茂郡		21502	04309	35°	136°	19981	028~	8,480m²	東海環	
後平1号古墳	富加町大平賀			09263	30′	58′	19981	120		状自動	
後平遺跡			09237		16″	27"	19990610~			車道建	
							20000	302	111111111111111111111111111111111111111	設事業	
										に伴う	
所収遺跡名	種別 主な時代		代	主な遺	構	構主な		特 記 事 項			
後平茶臼古墳	集落跡	集落跡 縄文時代		竪穴住居		26軒 石		後平茶臼古墳は竪穴系横		<b>竖穴系横</b>	
後平1号古墳	古墳    弥生時代末			1				て土器 口式石室を持つ造り出			
後平遺跡			1	古墳		2基 土					
		古墳時代		中世墓		5 基   須! 19基   埴!		長墓と思われる。木芯鉄 板張輪鐙は県内2例目の			
			ピット		192 432			出土、尾張型埴輪は県内			
					43基 鉄製品 山茶碗			5 例目の出土で北限にあ			
									。砂行・南青柳・深		
								橋前遺跡とともに弥生時			
	Control of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the state of the sta	The second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second second secon							代末~古墳時代初頭に丘		
								陵部の	の急斜面に負	集落を形	
								1	た。また方況	形周溝墓	
								しも確認	認した。		

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第77集

### 後平茶臼古墳・後平遺跡

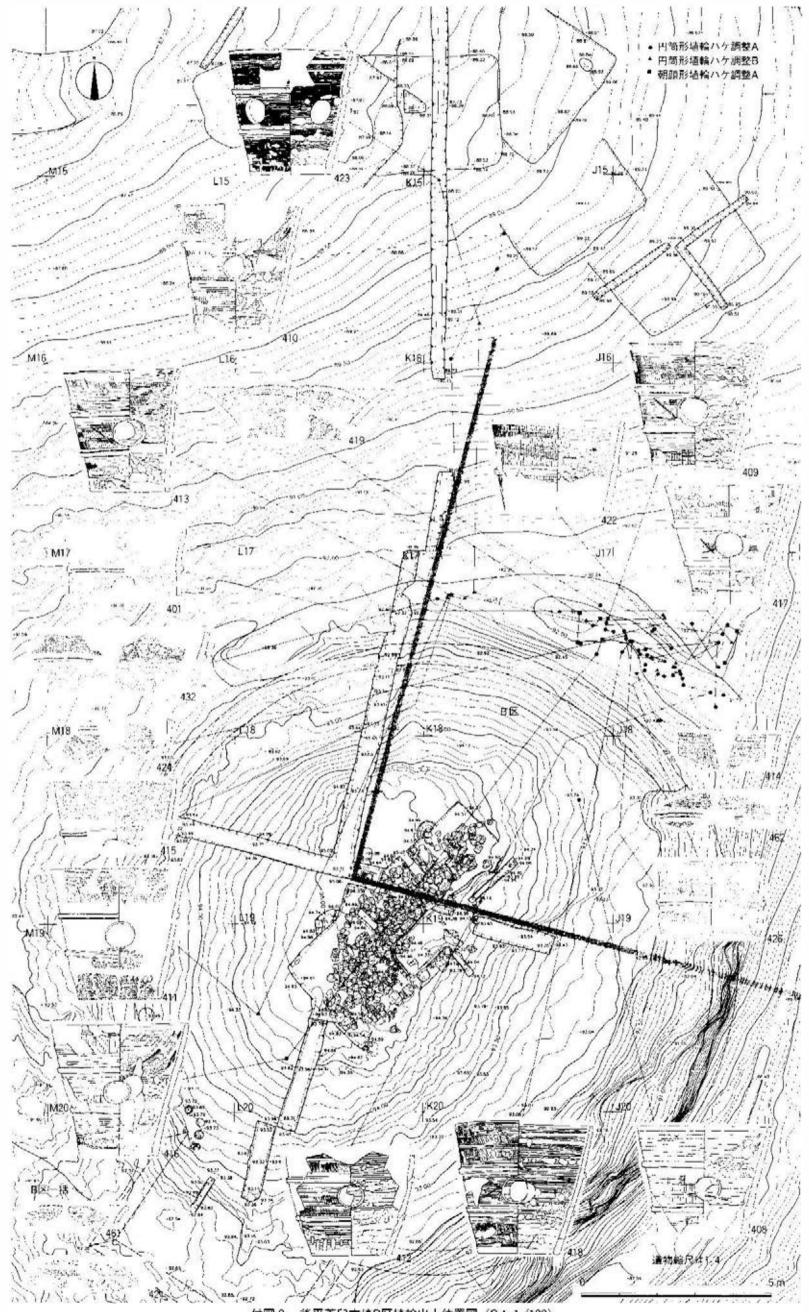
【第2分冊】

2002年12月25日

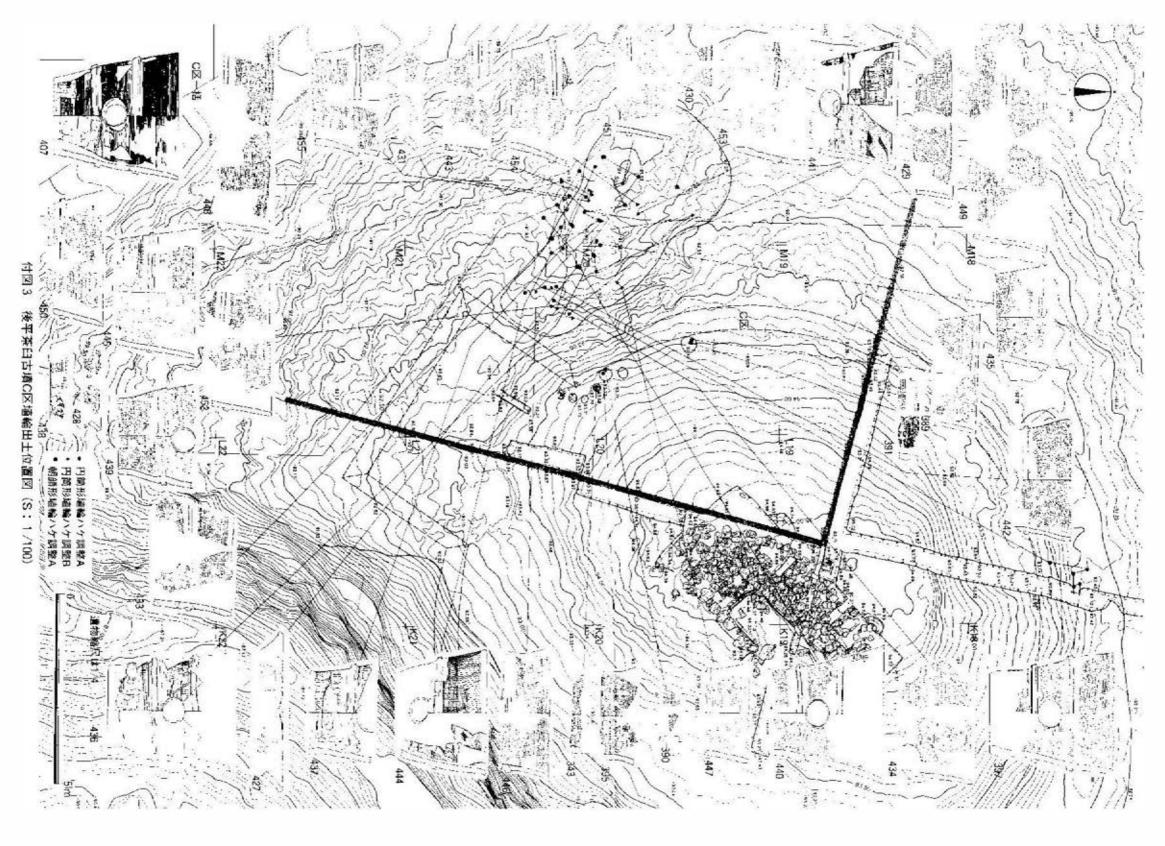
編集発行 財団法人 岐阜県文化財保護センター

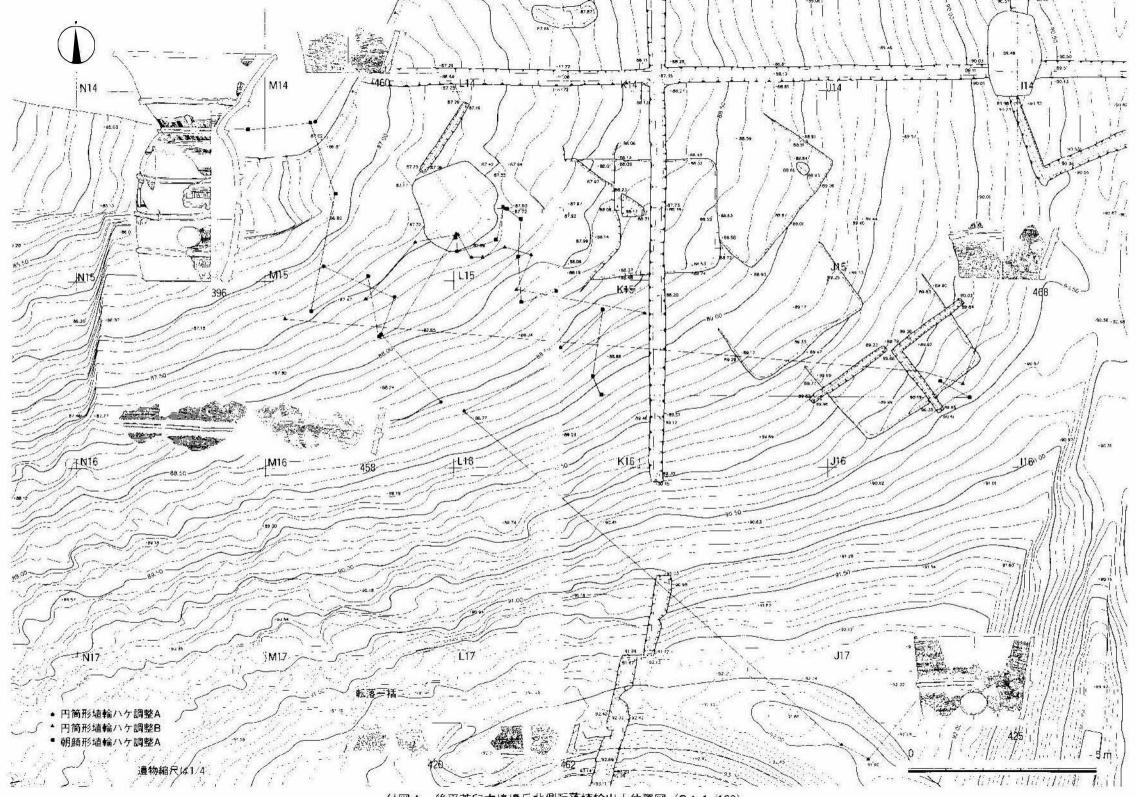
岐阜県岐阜市三田洞東1--26-1

印 刷 サンメッセ株式会社



付図2 後平茶臼古墳B区埴輪出土位置図(S: 1/100)





付図4 後平茶臼古墳墳丘北側転落埴輪出土位置図(S:1/100)